

若者等の自立・就労実態調査 報告書

平成23（2011）年 7月

豊中市

はじめに

「不登校」「高校中退」「ひきこもり」「フリーター」「ニート」「ワーキング・プア」「ネットカフェ難民」など、若者の不安定な状況はさまざまな形で話題になっています。特に1990年代以降、雇用環境の変化に伴い、若者の中で失業者・無業者・非正規労働者の占める割合が大きくなってから、雇用問題が大きな課題となっています。

そういう中で昨年（平成22年）7月に、内閣府による『若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）』報告が公表され、「ひきこもり70万人 内閣府推計」などと報道されました。当市の地域就労支援事業（平成15年開始）においても、「ひきこもり」状態やそのような状態であったと思われるケースの相談が増えています。平成18年度～22年度の5年間の相談者数をみると、若者（15～34歳）ケースは236人（全相談者のうち10.2%）で、5年前に比べ相談は2.5倍に増えています。うち34人が「ニート、ひきこもり」と考えられるケースでした。

地域就労支援センターでは相談を踏まえ、たとえば公共施設での職場体験実習などを定期的に開催するなど、生活習慣の立て直しから、「社会人基礎力」などの育成、企業等での実習や職業訓練まで、あるいは親向けセミナーなどのさまざまな支援メニューを工夫してきました。また平成21年度に「若年者就労問題等連絡会議」を設置し、翌年度には「こども・若者育成支援推進検討会議」が設置されたのを契機に、現在2つの会議が合同で当市における若者の自立・就労問題、特に就労相談や支援メニュー、フリーターなどの不安定就業の問題、ニートやひきこもりなどに関する取組み等の検討をはじめています。

若者をめぐる議論や対策の広がりとともに、雇用・就労に関する実態把握にも関心が高まってきました。そこで、今回、内閣府の調査を参照し、当市における実態把握を試みました。また若者本人へのアンケートとともに、独自に家族へのアンケートも行いました。

さて、調査の結果をみていただく前に、「ひきこもり」といった言葉など、基本的なことについて少し整理しておきます。

『ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン』（平成22年。厚生労働省の研究まとめ）では、「ひきこもりは子どもから成人までの広い年齢層に生じる社会現象の一つをあらわす用語」と説明しています。「様々な疾患の症状として、また様々な葛藤の徴候としてあらわれ」、その領域は「非常に広く、その境界はあいまいなものとならざるをえません」ととらえ、「様々な要因の結果として社会的参加（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的に6ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしてもよい）を指す現象概念である。なお、ひきこもりは原則として統合失調症の陽性あるいは陰性症状に基づくひきこもり状態とは一線を画した非精神病性の現象とするが、実際には確定診断がなされる前の統合失調症が含まれている可能性は低くないことに留意すべきである」と定義しています。

ひきこもりは、社会現象の一つですが、その背景には様々な要因が考えられます。何らかの疾患や障害があつて、ひきこもりになっていくケースがあれば、社会の価値観の変化など

によってもたらされるケース（「てきぱき物事が処理できる」「周囲との人間関係をうまく築ける」「コミュニケーション能力が高い」といった社会が好ましいと考える人物像に合わないなど）、心理的なストレス（「人間関係に対する苦手意識」「失敗や挫折体験から立ち直れない」など）によってもたらされるケースなど、様々のようです。したがって、『ガイドライン』も指摘するように、疾患や障害を要因とするケースへの支援、ストレスの強い環境条件を改善する支援といった重層的な支援、保健・医療・福祉・教育・労働などの各分野による包括的な評価と支援が必要になっています。

今後、今回の調査結果を踏まえ、各分野ですでに始まっている取組みなどを整理しながら、当市における包括的な支援の整備に向けて、関係部局・機関と協力して引き続き検討を進めていきたいと考えています。

なお、今回の調査は緊急雇用創出事業を活用したため、調査業務に精通した従事者の確保等に苦勞したこともあって、専門調査員が行った内閣府調査に比べると回収率に差がでています。ただ、調査結果を見る限り、細かい点で差異は認められるものの出現率等は大枠では内閣府の調査結果に近いものとなっていると考えています。

※ニート 「Not in Education, Employment or Training」の頭文字（NEET）からくるイギリスでの造語で、直訳すると「就学、就業、職業訓練のいずれもしていない人」となります。内閣府の調査で「高校や大学に通学しておらず、独身であり、ふだん収入になる仕事をしていない15歳以上35歳未満の個人（予備校や専門学校などに通学しているものも除く）」と定義されました。

平成 23(2011)年 7 月

市民協働部雇用労働課

－ 目 次 －

第1章 調査の概要

1. 調査目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査設計	2
4. 報告書の見方	3
5. ひきこもり群・ひきこもり親和群の定義（個人票）	4

第2章 調査結果

I 若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）（個人票）

1. 基本属性	6
2. 学校のことについて	12
3. 仕事のことについて	17
4. ふだんの生活について	29
5. ふだんの意識や態度について	38
6. 自由意見	57

II 若者の就職・求職をめぐる市民意識調査（世帯票）

1. 基本属性	64
2. ひきこもりの状況について	70
3. 若者の自立意識などについて	83
4. 自由意見	93

資料編（調査票様式）

若者の意識に関する調査（個人票）	98
若者の就職・求職をめぐる市民意識調査（世帯票）	103

第1章 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、豊中市の若者と豊中市内の満15歳から39歳までの方が同居される世帯の世帯主の方を対象に、就職や求職について、また若者の行動等に関する評価、意見等を把握し、今後の取り組みを検討するための基礎資料とすることを目的としている。

2. 調査項目

(1) 若者の意識に関する調査（個人票）

調査項目	質問項目
1. 基本属性	■問1 性別 ■問2 年齢 ■問3 同居家族 ■問4 世帯人数 ■問5 両親からみた続柄 ■問6 婚姻状況 ■問7 世帯の主たる生計者 ■問8 入院・通院経験のある病気
2. 学校のことについて	■問9 通学状況 ■問10 最終学歴 ■問11 小・中学校時代に学校で経験したこと ■問12 小・中学校時代に家庭で経験したこと
3. 仕事のことについて	■問13 就労状況 ■問14 就労経験 ■問15 就職・進学意向 ■問16 就職活動の有無 ■問17 求職活動での困りごとや悩み ■問18 就職についての関係機関への相談意向 ■問19 就労も通学もしていない状態について相談する際の希望 ■問20 就職について関係機関へ相談した経験の有無 ■問21 就職について相談した関係機関 ■問22 職業観
4. ふだんの生活について	■問23 ふだんの自宅での過ごし方 ■問24 ふだん利用する通信手段 ■問25 外出頻度 ■問26 現在の状態になった年齢 ■問27 現在の状態になってからの期間 ■問28 現在の状態になったきっかけ ■問29 現在の状態についての関係機関への相談意向 ■問30 現在の状態について関係機関に相談する際の希望 ■問31 相談したくない（できない）と思う理由 ■問32 現在の状態について相談した関係機関
5. ふだんの意識や態度について	■問33 ふだんの意識や態度に対する考え ■問34 ふだんの生活の中で自身にあてはまるもの ■問35 ふだんの生活状況 ■問36 家族に対する考え ■問37 悩み事の相談の有無 ■問38 悩み事の相談相手
6. 自由意見	

(2) 若者の就職・求職をめぐる市民意識調査（世帯票）

調査項目	質問項目
1. 基本属性	<ul style="list-style-type: none"> ■問1 世帯主からみた続柄 ■問2 世帯人数 ■問3 回答者属性（性別、年齢、就労・就学状況、外出頻度等）
2. ひきこもりの状況について	<ul style="list-style-type: none"> ■問4 現在の状態になったきっかけ ■問5 家族の接し方 ■問6 家族の中でふだんよく話す人 ■問7 家族から見て感じる事 ■問8 困難を抱えるようになってからの社会活動経験 ■問9 小さい頃の学習経験 ■問10 家族間での負担感や不安感 ■問11 現在の状態について相談した関係機関 ■問12 関係機関への相談意向 ■問13 関係機関へ相談する際の希望 ■付問13 相談したくない（できないと思う）理由 ■問14 支援を受けたい機関 ■付問14 期待する支援
3. 若者の自立意識などについて	<ul style="list-style-type: none"> ■問15 求職活動等をしない若者が多数いることに対する考え ■問16 求職活動等をしない若者に対するイメージ ■問17 求職活動等をしない若者が増える原因 ■問18 働くこと等に積極的になるよう家庭で必要なこと ■問19 働くこと等に積極的になるよう地域社会に求められること ■問20 働くこと等に積極的になるよう学校に求められること ■問21 市がニートへの支援を行うことに対する考え、及び就労意欲等をもつ若者育成のために市が取り組むべきこと ■問22 働くこと等の大切さを伝えるために自身ができる活動の有無、及び具体的な活動
4. 自由意見	

3. 調査設計

(1) 若者の意識に関する調査（個人票）

調査対象	豊中市内在住の満15歳から39歳までの方から無作為抽出
調査方法	調査員による訪問留置・訪問回収
調査期間	平成22年11月11日～平成23年1月31日
対象者数	4,819件
有効回収数	1,845件
有効回収率	38.3%

(2) 若者の就職・求職をめぐる市民意識調査（世帯票）

調査対象	豊中市内在住の満15歳から39歳までの方が含まれる世帯を無作為抽出
調査方法	調査員による訪問留置・訪問回収
調査期間	平成22年11月11日～平成23年1月31日
対象世帯数	4,819件
有効回収数	1,983件
有効回収率	41.1%

4. 報告書の見方

- (1) 図中のN (Number of case) は、設問に対する回答者数のことである。
- (2) 回答比率 (%) は回答者数 (N) を 100% として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、内訳の合計が計に一致しないことがある。また、一人の回答者に複数の回答を求める設問では、回答比率 (%) の計は 100.0% を超える。
- (3) 図中に次のような表示がある場合は、複数回答を依頼した質問である。
- ・ MA % (Multiple Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
 - ・ 3 LA % (3 Limited Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合

5. ひきこもり群・ひきこもり親和群の定義と推計

(1) ひきこもり群

厚生労働省の調査を参照して、次の設問から「ひきこもり群」について調査した。

■『問 25 外出頻度』において、下記①～④のいずれかに該当する者

- ①「5. ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」を選択
- ②「6. ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」を選択
- ③「7. 自室からは出るが、家からは出ない」を選択
- ④「8. 自室からほとんど出ない」を選択

かつ、

■『問 27 現在の状態になってからの期間』において、6ヶ月以上と回答した者

であって、

■『問 28 現在の状態になったきっかけ』において、下記①～③のいずれかに該当する者

- ①「7. 病気（病名： ）」を選択し、病名に統合失調症又は身体的理由を記入した者
- ②「8. 妊娠した」を選択
- ③「9. その他（ ）」を選択し、（ ）内に自宅で仕事をしている旨や出産・育児をしている旨を記入した者

又は、

■『問 23 ふだんご自宅にいるときによくしていること』において、「8. 家事・育児をする」を選択した者を除いた人数 ⇒ 37人（有効回収率に占める割合：2.01%）

なお、豊中市人口推計（平成22年10月）による15歳～39歳人口（117,869人）をもとに、調査に伴う標本誤差を加味して、「ひきこもり」の推計を行うと、最小値1,574人、最大値3,110人、中間値2,342人となる。

(2) ひきこもり親和群

■『問 33 ふだんの意識や態度に対する考え』において、下記4項目のいずれも「1. はい」又は1項目のみ「2. どちらかといえばはい」を選択した者

- ・「⑫家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる」
- ・「⑬自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある」
- ・「⑭嫌な出来事があると、外に出たくなくなる」
- ・「⑮理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う」

から、“(1) ひきこもり群”を除いた人数 ⇒ 93人（有効回収率に占める割合：5.04%）

なお、「ひきこもり親和群」は、厚生労働省の調査結果の報道では「ひきこもり予備群」

といった表現がされ、話題になりましたが、「将来ひきこもる可能性のある人たち」という意味ではなく、「ひきこもり群」と同じような意識傾向や考え方を持っている」という意味で「親和群」と規定されている。

豊中市人口推計（平成22年10月）による15歳～39歳人口（117,869人）をもとに、調査に伴う標本誤差を加味して、「ひきこもり親和群」の推計を行うと、最小値4,991人、最大値7,452人、中間値6,222人となる。

（3）一般群

■回答者全体から“(1) ひきこもり群”、“(2) ひきこもり親和群”を除いた者かつ、

■問33における⑫～⑮の項目について、すべて回答している者

の人数 ⇒ 1,645人（有効回収率に占める割合：89.16%）

第2章 調査結果

I 若者の意識に関する調査

(ひきこもりに関する実態調査)

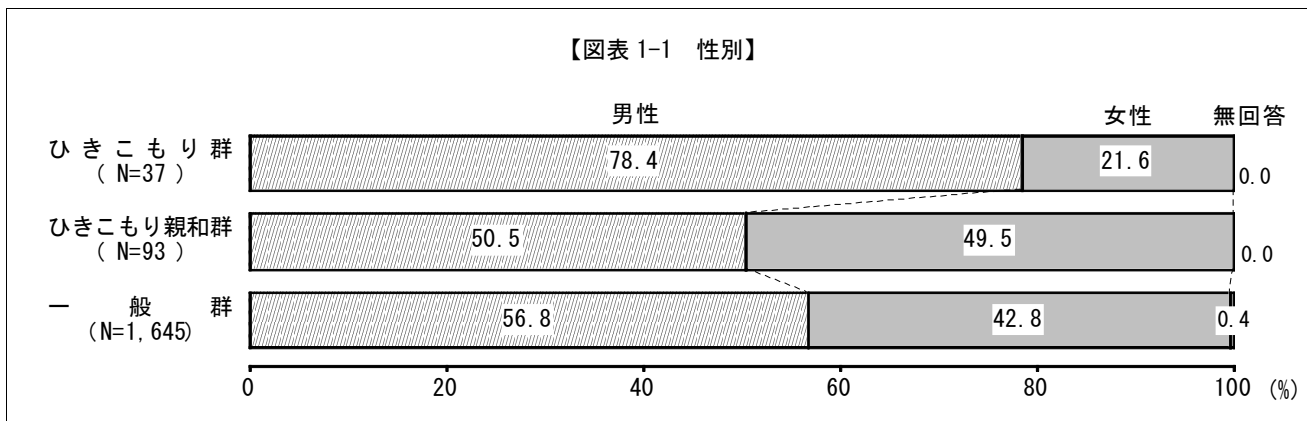
(個人票)

1. 基本属性

(1) 性別、年齢

① 性別 [問1]

問1 あなたの性別を教えてください。(どちらかひとつに○)

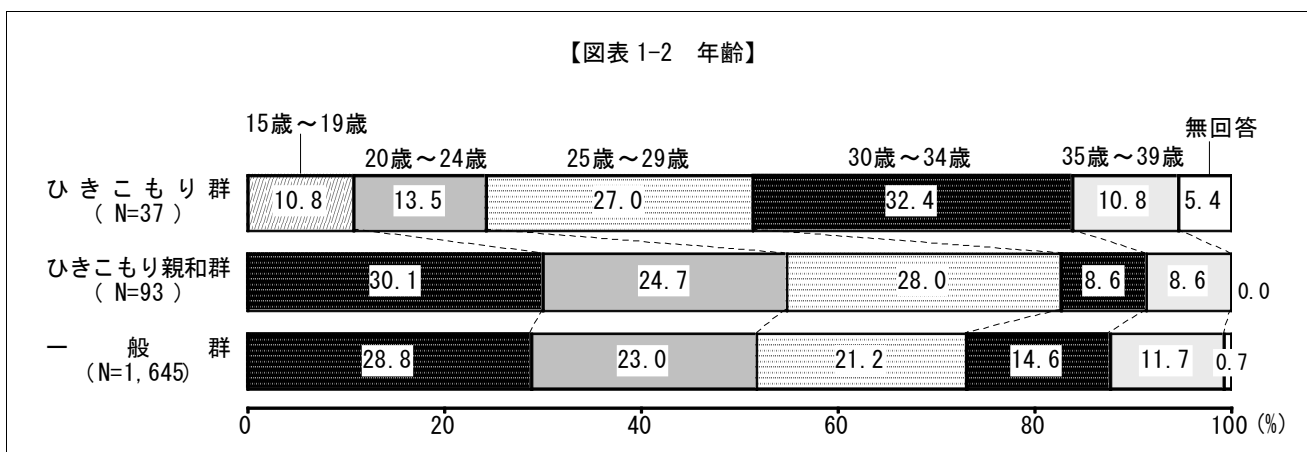


回答者の性別構成としては、“ひきこもり群”では「男性」78.4%、「女性」21.6%、“ひきこもり親和群”では「男性」50.5%、「女性」49.5%、“一般群”では「男性」56.8%、「女性」42.8%となっている。

“一般群”に比べて、“ひきこもり群”では男性の割合が、“ひきこもり親和群”では女性の割合が、それぞれ多くなっている。

② 年齢 [問2]

問2 あなたの年齢を教えてください。(○はひとつだけ)



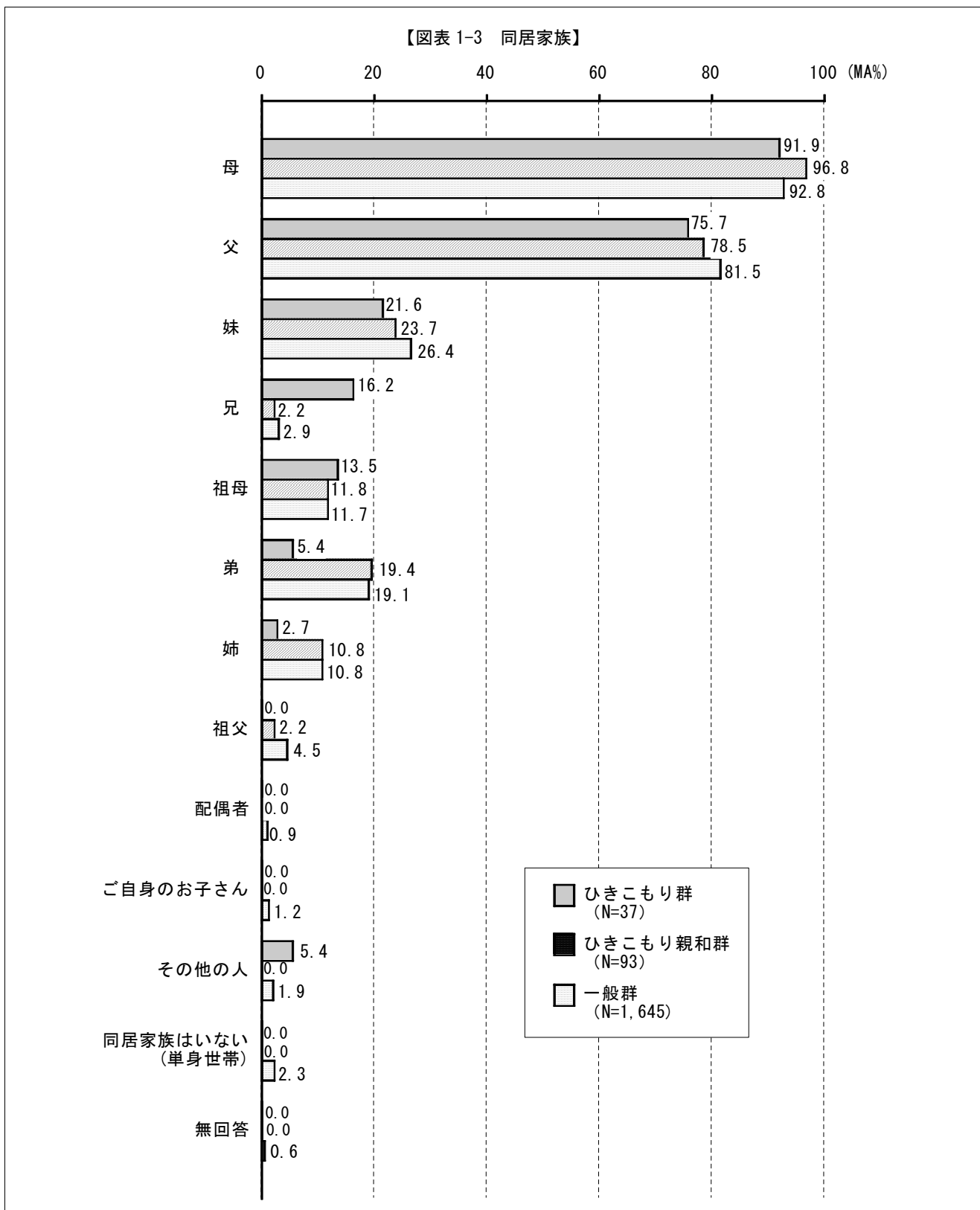
回答者の年齢構成としては、“ひきこもり群”では「30歳～34歳」が32.4%と最も多く、“ひきこもり親和群”、“一般群”では「15歳～19歳」がそれぞれ30.1%、28.8%と最も多い。

また、“ひきこもり群”では30歳代が43.2%を占めるのに対し、“ひきこもり親和群”、“一般群”では30歳未満がそれぞれ82.8%、73.0%を占める。

(2) 世帯状況

① 同居家族 [問3]

問3 現在あなたと同居しているご家族に○を付けてください。(○はいくつでも)

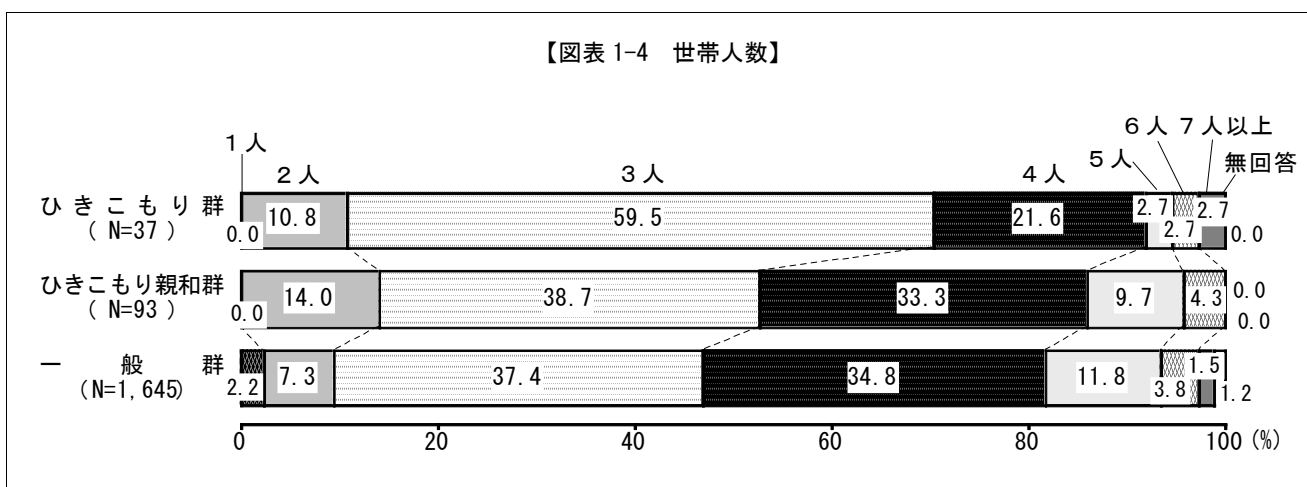


同居家族としては、“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”、“一般群” いずれも親と同居している場合が多くを占める。

また、“ひきこもり群”では、“ひきこもり親和群”、“一般群”に比べて「兄」と同居の割合は高く、「弟」、「姉」と同居の割合は低い傾向にある。

② 世帯人数 [問4]

問4 現在同居している人は合計で何人ですか。あなたも含めた人数を記入してください。
(数字で具体的にご記入ください。)



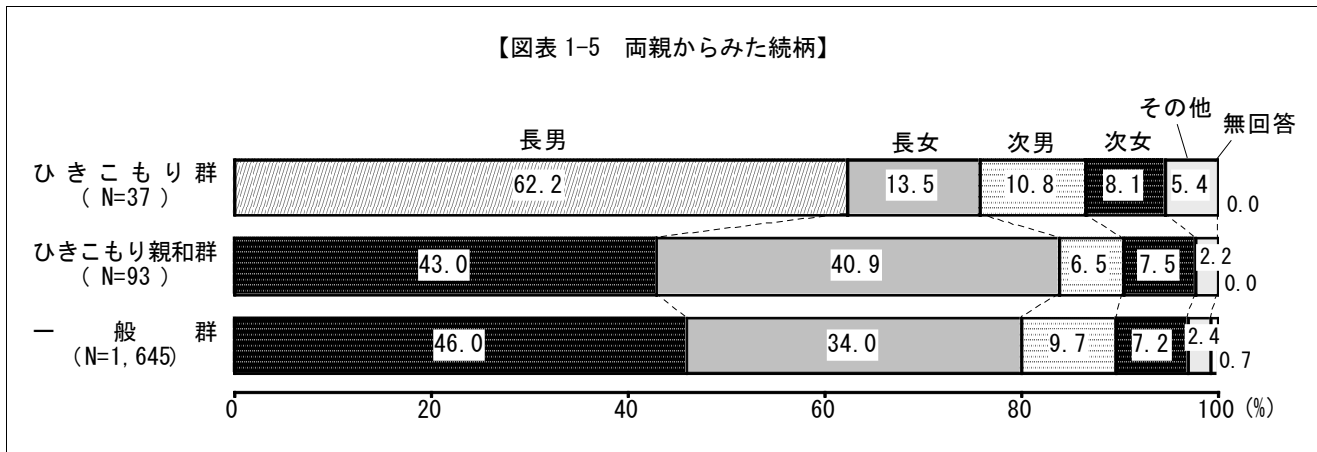
世帯人数としては、“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”、“一般群” いずれも「3人」が最も多くなっており、“ひきこもり群”では約6割（59.5%）を占める。

また、4人以上の割合が“一般群”では51.9%、“ひきこもり親和群”では47.3%と5割前後を占めるのに対し、“ひきこもり群”では約3割（29.7%）にとどまっている。

世帯人数の平均は、“ひきこもり群”で3.4人、“ひきこもり親和群”で3.5人、“一般群”で3.7人となっている。

(3) 両親からみた続柄 [問5]

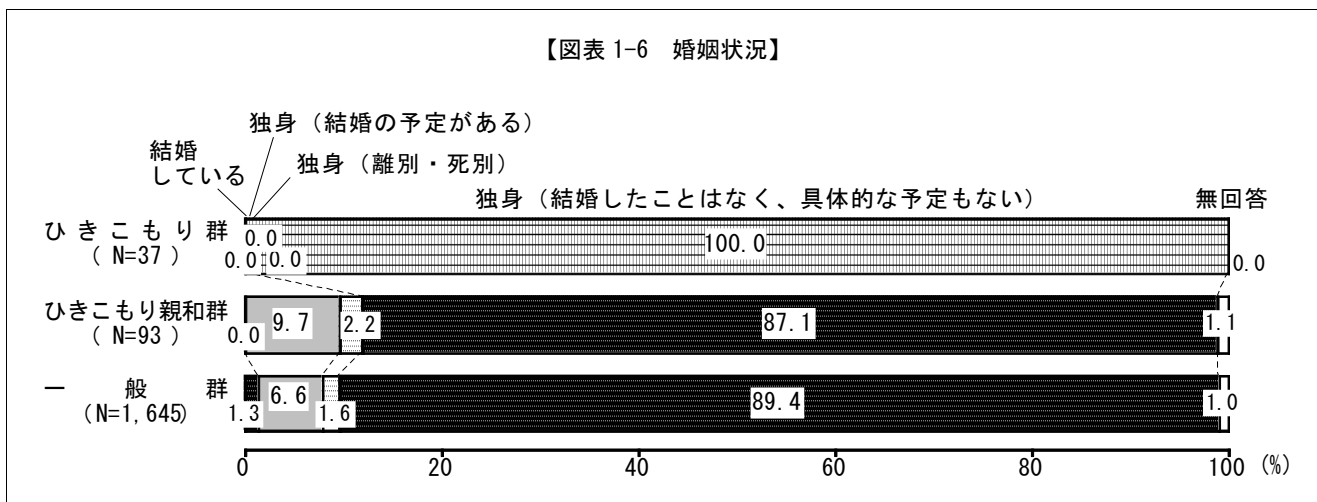
問5 ご両親からみたあなたの続柄をお答えください。(〇はひとつだけ)



両親からみた続柄としては、“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”、“一般群” いずれも「長男」または「長女」である割合が多くを占めるものの、“ひきこもり親和群” (83.9%)、“一般群” (80.0%) で8割以上を占めるのに対し、“ひきこもり群” では7割台 (75.7%) とやや低くなっている。

(4) 婚姻状況 [問6]

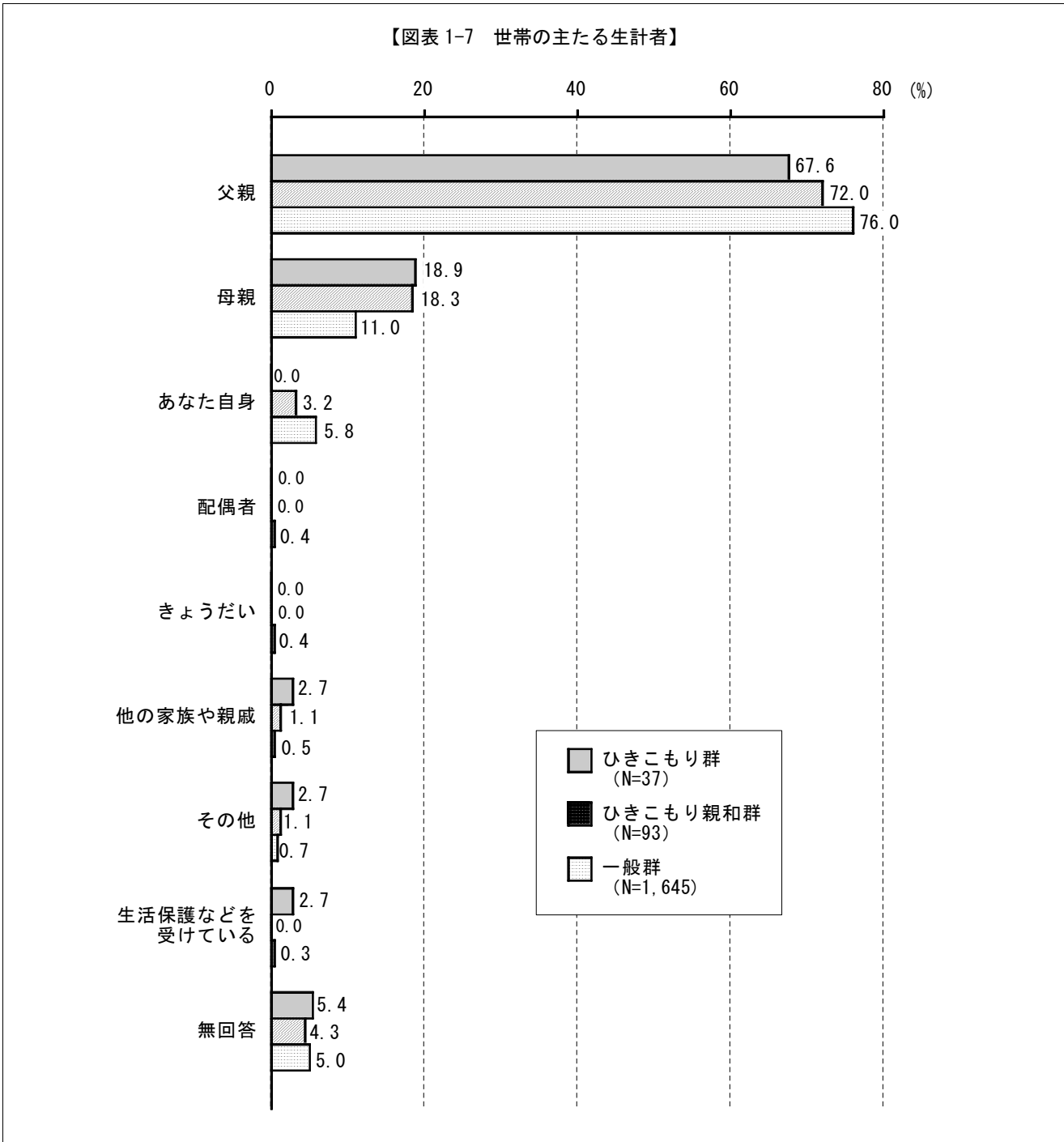
問6 あなたは結婚していますか。(〇はひとつだけ)



結婚の有無をたずねたところ、“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”、“一般群” いずれも「独身 (結婚したことはなく、具体的な予定もない)」が多くを占めており、中でも“ひきこもり群” では100.0%となっている。

(5) 世帯の主たる生計者 [問7]

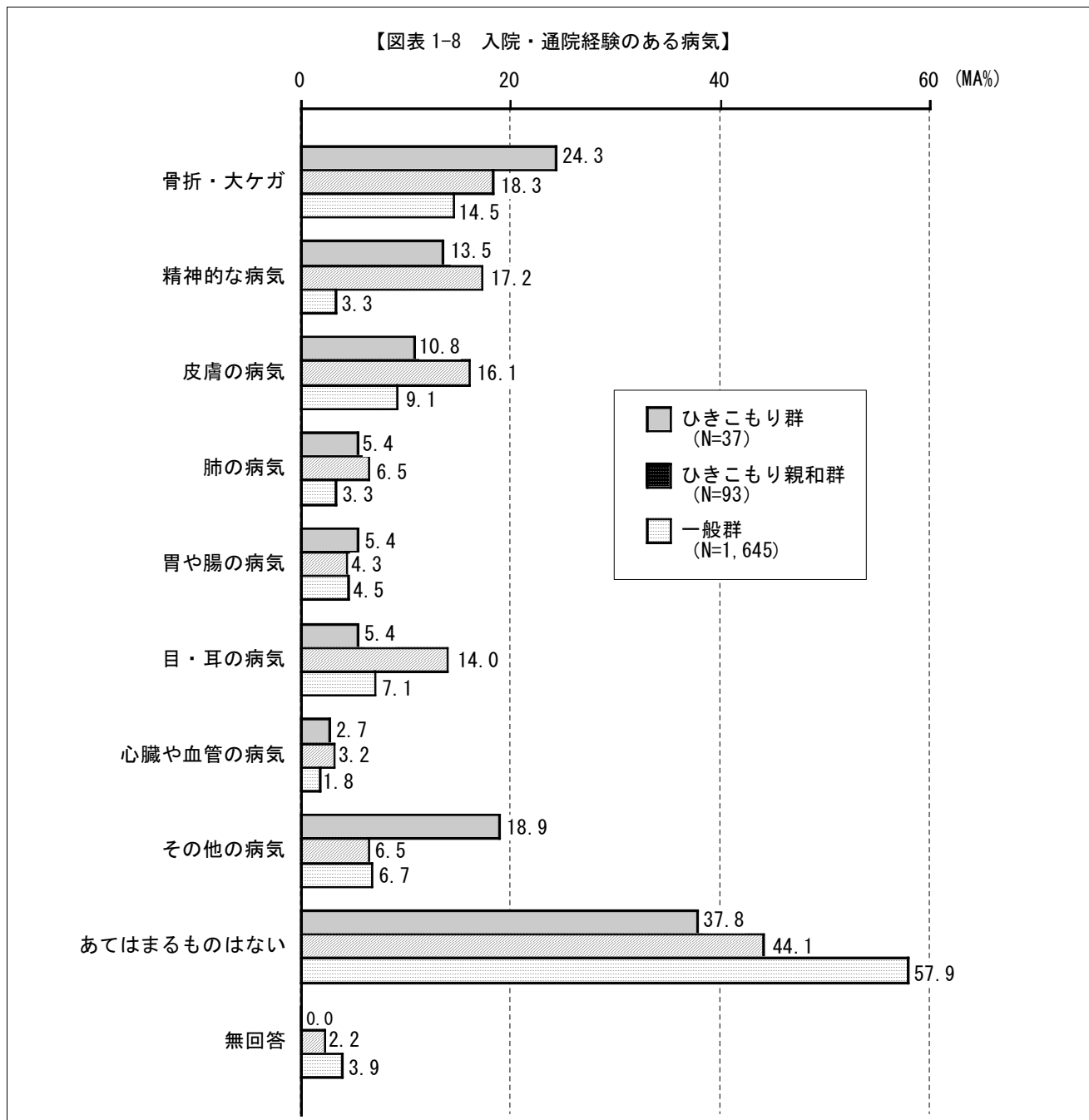
問7 あなたの家の生計を立てているのは主にどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。(〇はひとつだけ)



世帯の主たる生計者をたずねたところ、「ひきこもり群」、「ひきこもり親和群」、「一般群」いずれも「父親」が主たる生計を担っている世帯が多い。これに比べ「母親」はかなり少ないが、「一般群」に比べ、「ひきこもり群」、「ひきこもり親和群」の割合が高くなっている。

(6) 入院・通院経験のある病気 [問8]

問8 あなたは、これまでに以下の病気やけがで入院もしくは定期的な通院をしたことはありますか。通院・入院したことがある病気に○を付けてください。(○はいくつでも)



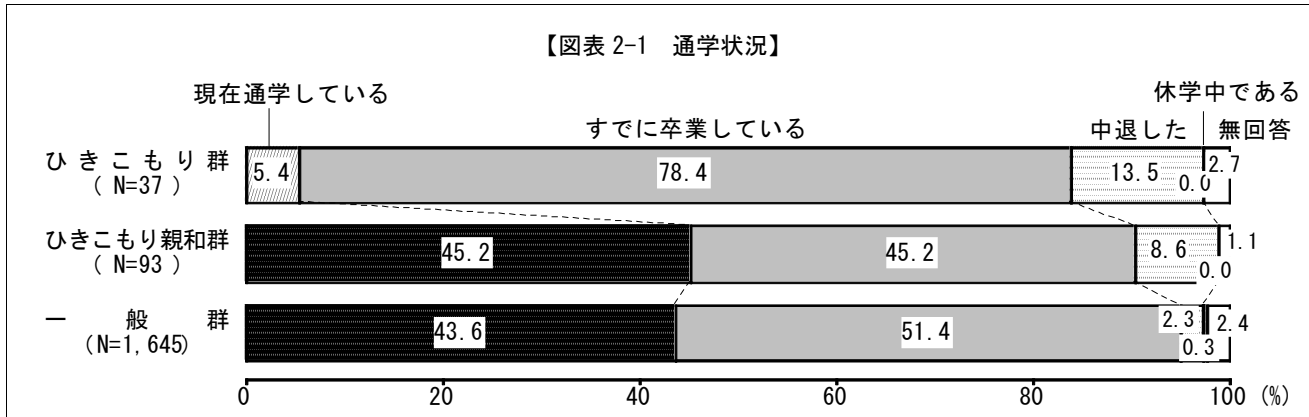
入院・通院経験のある病気をたずねたところ、“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”、“一般群” いずれも「骨折・大ケガ」が最も多くなっているものの、これに続くのが、“一般群”で「皮膚の病気」に対し、“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”では「精神的な病気」となっている。

一方、「あてはまるものはない」が“一般群”で57.9%に対し、“ひきこもり親和群”では44.1%、“ひきこもり群”では37.8%となっている。

2. 学校のことについて

(1) 通学状況 [問9]

問9 あなたは現在学校に通っていますか。(○はひとつだけ)



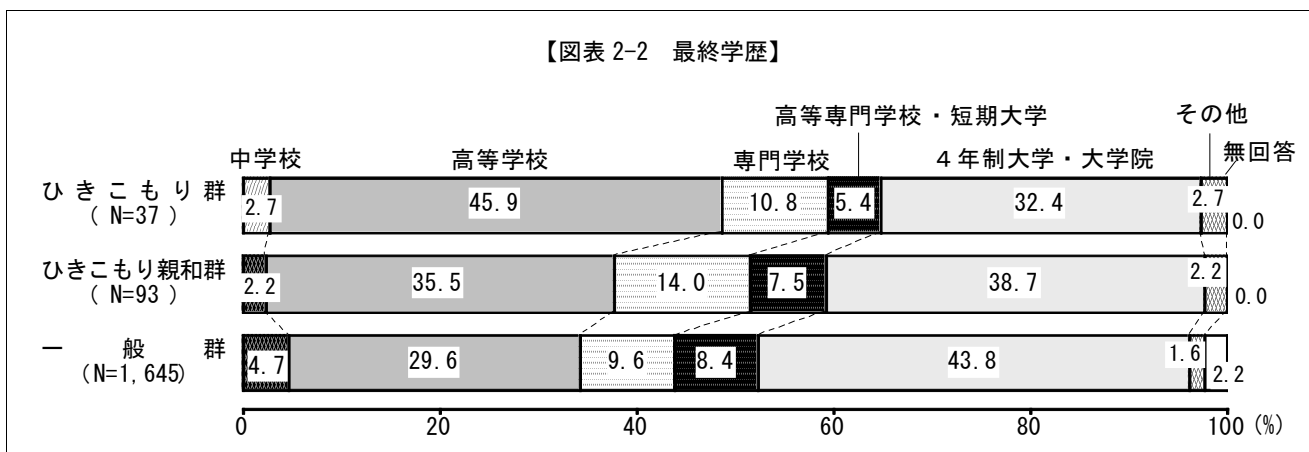
現在の通学状況をたずねたところ、「すでに卒業している」が「ひきこもり群」で8割弱(78.4%)を占める。一方、「現在通学している」が「ひきこもり親和群」(45.2%)、「一般群」(43.6%)で4割台みられる。

また、「中退した」が「ひきこもり親和群」で8.6%、「一般群」で2.3%に対し、「ひきこもり群」では13.5%とやや高い。

(2) 最終学歴 [問10]

問10 あなたが最後に卒業(中退を含む)した、または現在在学している学校はどれですか。

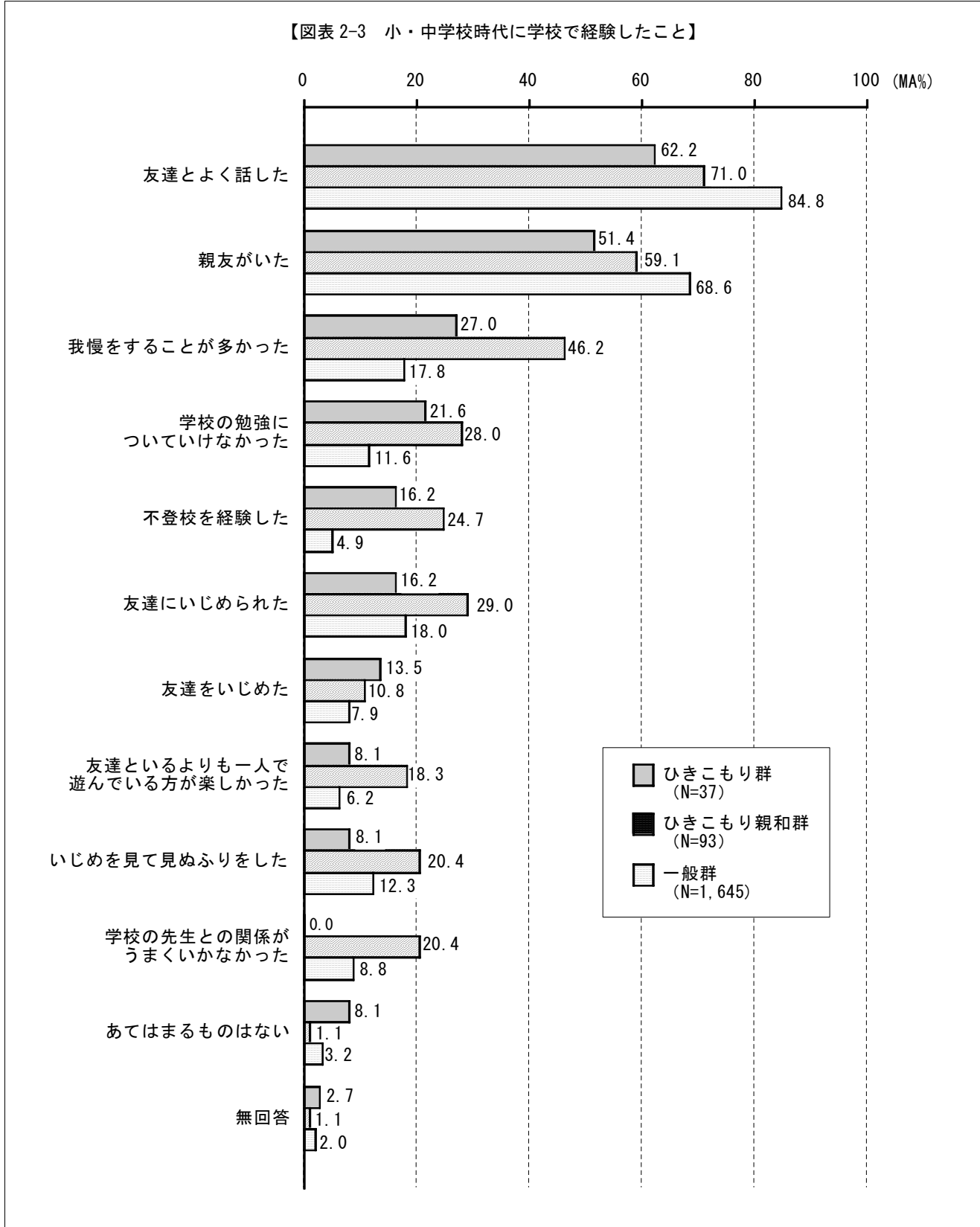
(○はひとつだけ)



最終学歴(在学中含む)をたずねたところ、「ひきこもり群」では「高等学校」が45.9%と最も多く、「ひきこもり親和群」、「一般群」では「4年制大学・大学院」がそれぞれ38.7%、43.8%と最も多い。

(3) 小・中学校時代に学校で経験したこと [問 11]

問 11 あなたは小学校や中学校の頃に、学校で次のようなことを経験したことがありますか。あてはまるものすべてに○を付けてください。(○はいくつでも)



小学校や中学校の頃に、学校で経験したことについてたずねたところ、“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”、“一般群” いずれも「友達とよく話した」が最も多く、次いで「親友がいた」となっているものの、“一般群”に比べて、“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”の割合は低い。

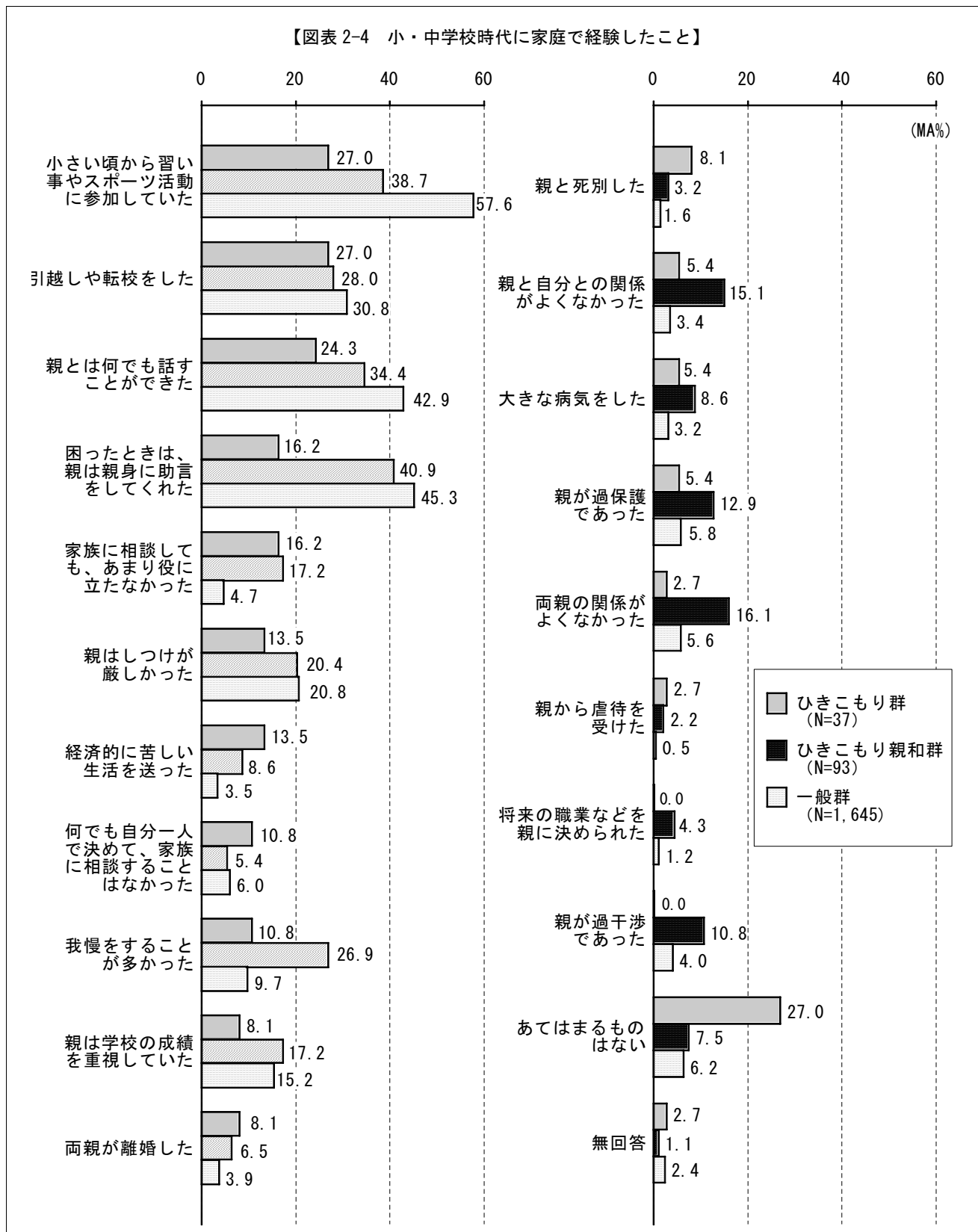
一方、「我慢をすることが多かった」、「学校の勉強についていけなかった」、「不登校を経験した」については、“一般群”に比べて、“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”で割合が高く、特に“ひきこもり親和群”においていずれの項目も最も高くなっている。

また、このほか「友達にいじめられた」、「友達といるよりも一人で遊んでいる方が楽しかった」「いじめを見て見ぬふりをした」、「学校の先生との関係がうまくいかなかった」のそれぞれについても、“ひきこもり親和群”で割合が最も高くなっている。

(4) 小・中学校時代に家庭で経験したこと [問12]

問12 あなたは小学校や中学校の頃に、家庭で次のようなことを経験したことがありますか。あてはまるものすべてに○を付けてください。(○はいくつでも)

【図表 2-4 小・中学校時代に家庭で経験したこと】



小学校や中学校の頃に、家庭で経験したことについてたずねたところ、「小さい頃から習い事やスポーツ活動に参加していた」が“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”、“一般群”いずれも最も多くなっているものの、これに続くのが、“ひきこもり群”では「引越しや転校をした」(27.0%)に対し、“ひきこもり親和群”、“一般群”では「困ったときは、親は親身に助言をしてくれた」(40.9%、45.3%)となっている。

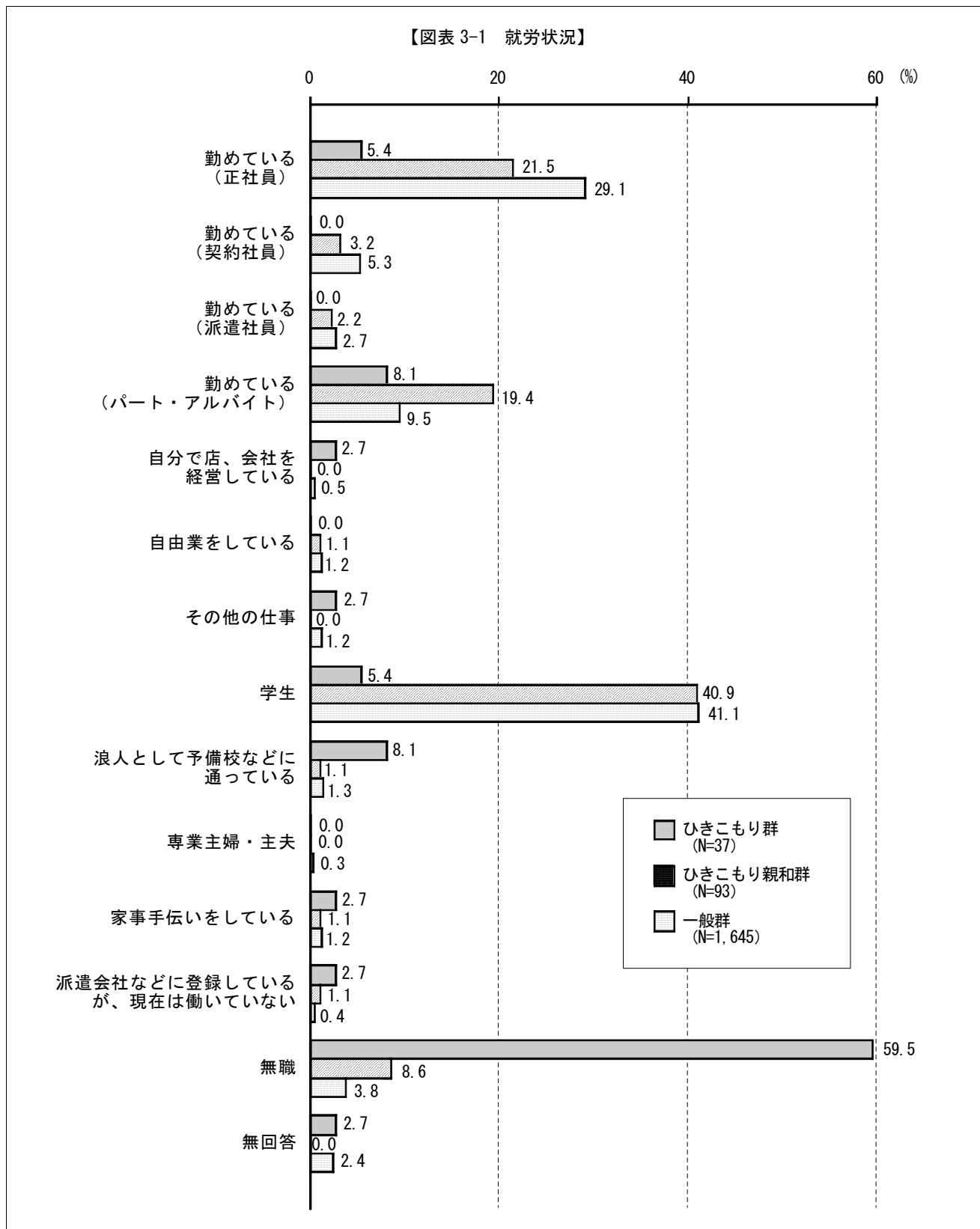
一方、項目ごとにみると、“ひきこもり群”において、「経済的に苦しい生活を送った」(13.5%)、「何でも自分一人で決めて、家族に相談することはなかった」(10.8%)、「親と死別した」(8.1%)のそれぞれの割合が最も高い。

また、“ひきこもり親和群”においては、「我慢をすることが多かった」(26.9%)、「両親の関係がよくなかった」(16.1%)、「親と自分との関係がよくなかった」(15.1%)、「親が過保護であった」(12.9%)、「親が過干渉であった」(10.8%)などで、それぞれ割合が最も高くなっている。

3. 仕事のことに～

(1) 就労状況 [問 13]

問 13 あなたは現在働いておられますか。(○はひとつだけ)



現在の就労状況をたずねたところ、“ひきこもり群”では「無職」が約6割(59.5%)を占める。一方、“ひきこもり親和群”、“一般群”では「学生」が最も多く、ともに4割強となっている。

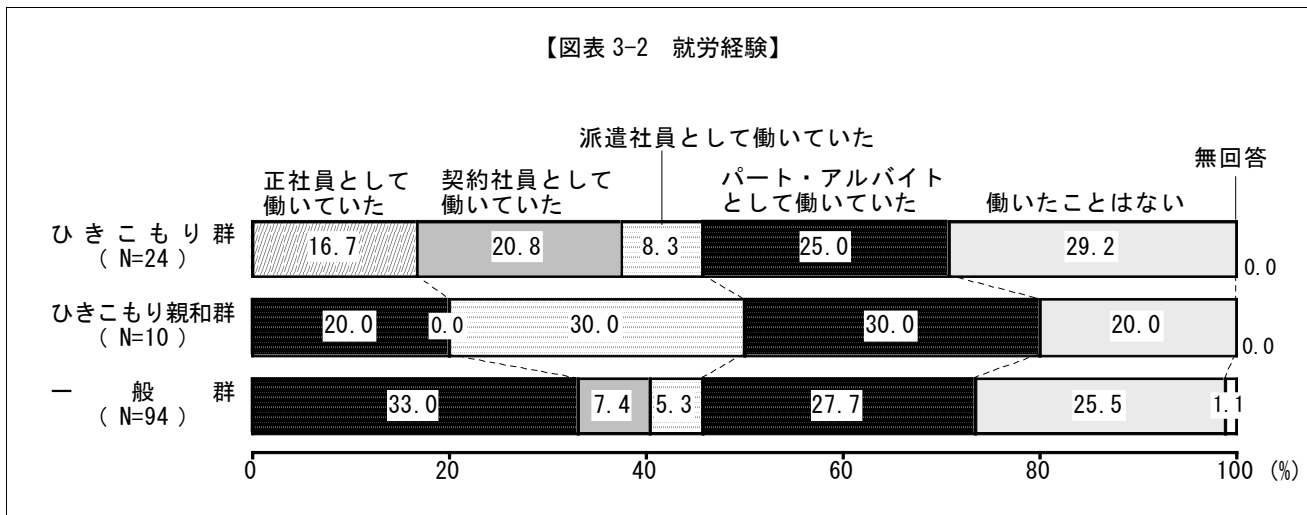
項目ごとにみると、「勤めている(正社員)」が“一般群”で29.1%、「勤めている(パート・アルバイト)」が“ひきこもり親和群”で19.4%、「浪人として予備校などに通っている」が“ひきこもり群”で8.1%と、それぞれ最も高くなっている。

(※以下、問14～問21においては、母数少のため“一般群”についてのみコメントする)

(2) 就労経験 [問14]

【問13で「10」～「13」のいずれかに○を付けた方のみ、問14～問21に回答してください。】

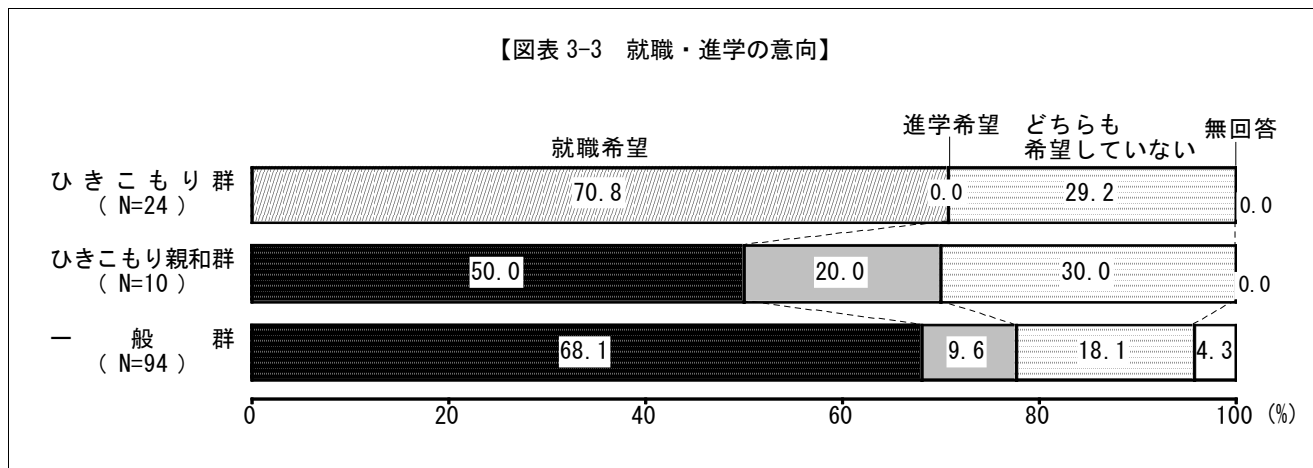
問14 あなたはいままでに働いていたことはありますか。(○はひとつだけ)



現在、就労も通学もしていないという人に、これまで働いた経験があるかたずねたところ、“一般群”では「正社員として働いていた」が33.0%と最も多く、次いで「パート・アルバイトとして働いていた」27.7%、「働いたことはない」25.5%などとなっている。

(3) 就職・進学意向 [問 15]

問 15 現在就職または進学のどちらを希望していますか。(○はひとつだけ)

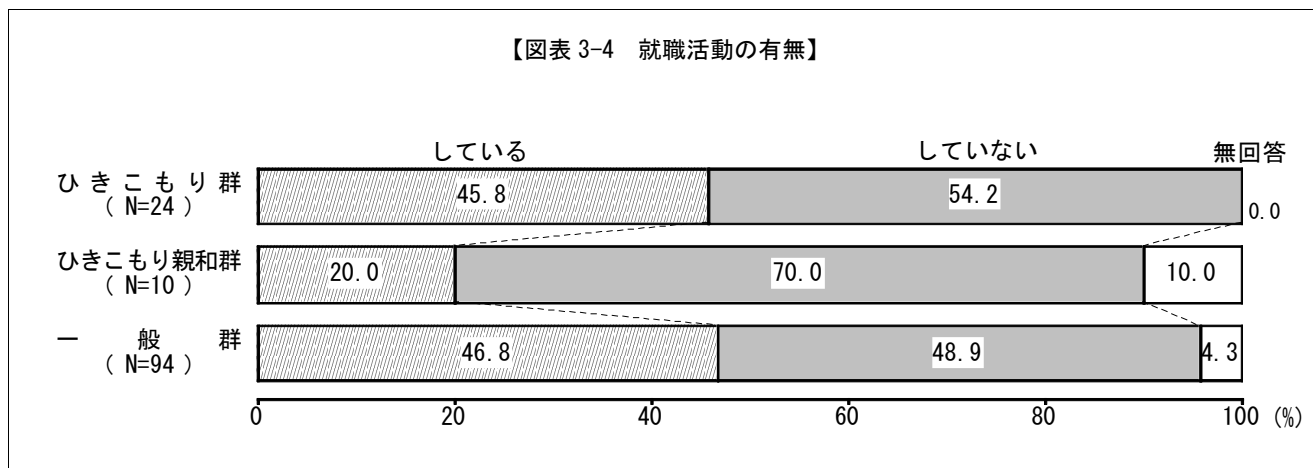


現在、就労も通学もしていない人に、就職または進学の希望意向をたずねたところ、“一般群”では「就職希望」が7割弱(68.1%)を占めるのに対し、「進学希望」は約1割(9.6%)となっている。

(4) 就職活動の状況

① 就職活動の有無 [問 16]

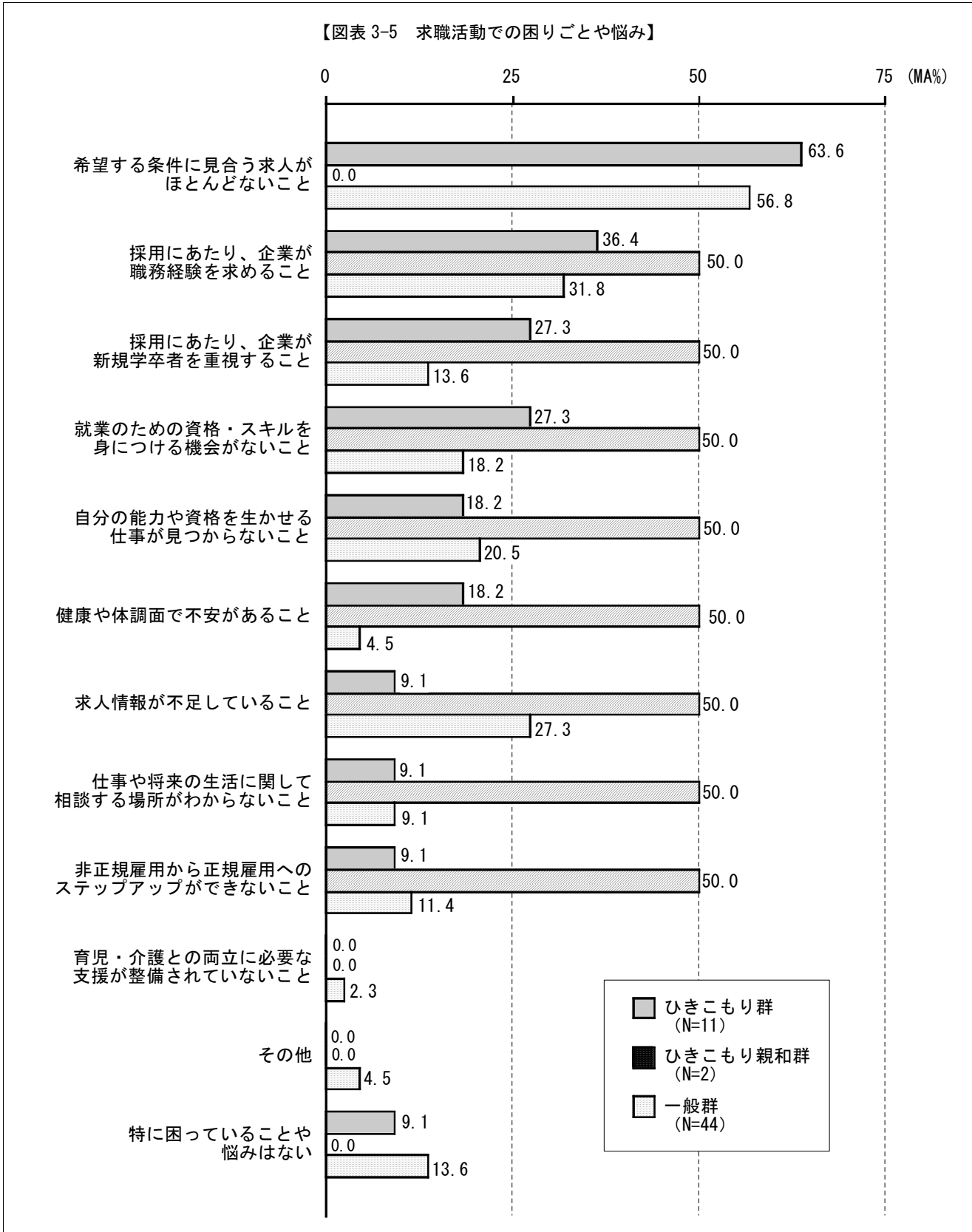
問 16 現在就職活動をしていますか。(○はひとつだけ)



現在、就労も通学もしていない人に、就職活動をしているかたずねたところ、“一般群”では「している」が46.8%に対し、「していない」が48.9%となっている。

② 求職活動での困りごとや悩み [問 17]

【問 16 で「1. している」に○を付けた方に】
 問 17 求職活動を行う際、困っていることや悩みは何ですか。(○はいくつでも)

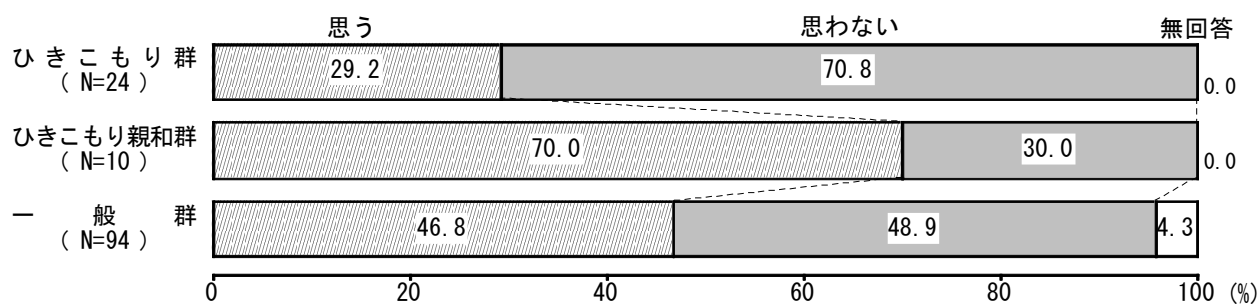


現在、就労も通学もしていない人のうち、就職活動中という人に、求職活動を行う際の困りごとや悩みをたずねたところ、“一般群”では「希望する条件に見合う求人がほとんどないこと」が56.8%と最も多く、次いで「採用にあたり、企業が職務経験を求めること」31.8%、「求人情報が不足していること」27.3%などとなっている。

(5) 就職についての関係機関への相談意向 [問 18]

問 18 あなたは、就職について、関係する機関に相談したいと思いますか。(○はひとつだけ)

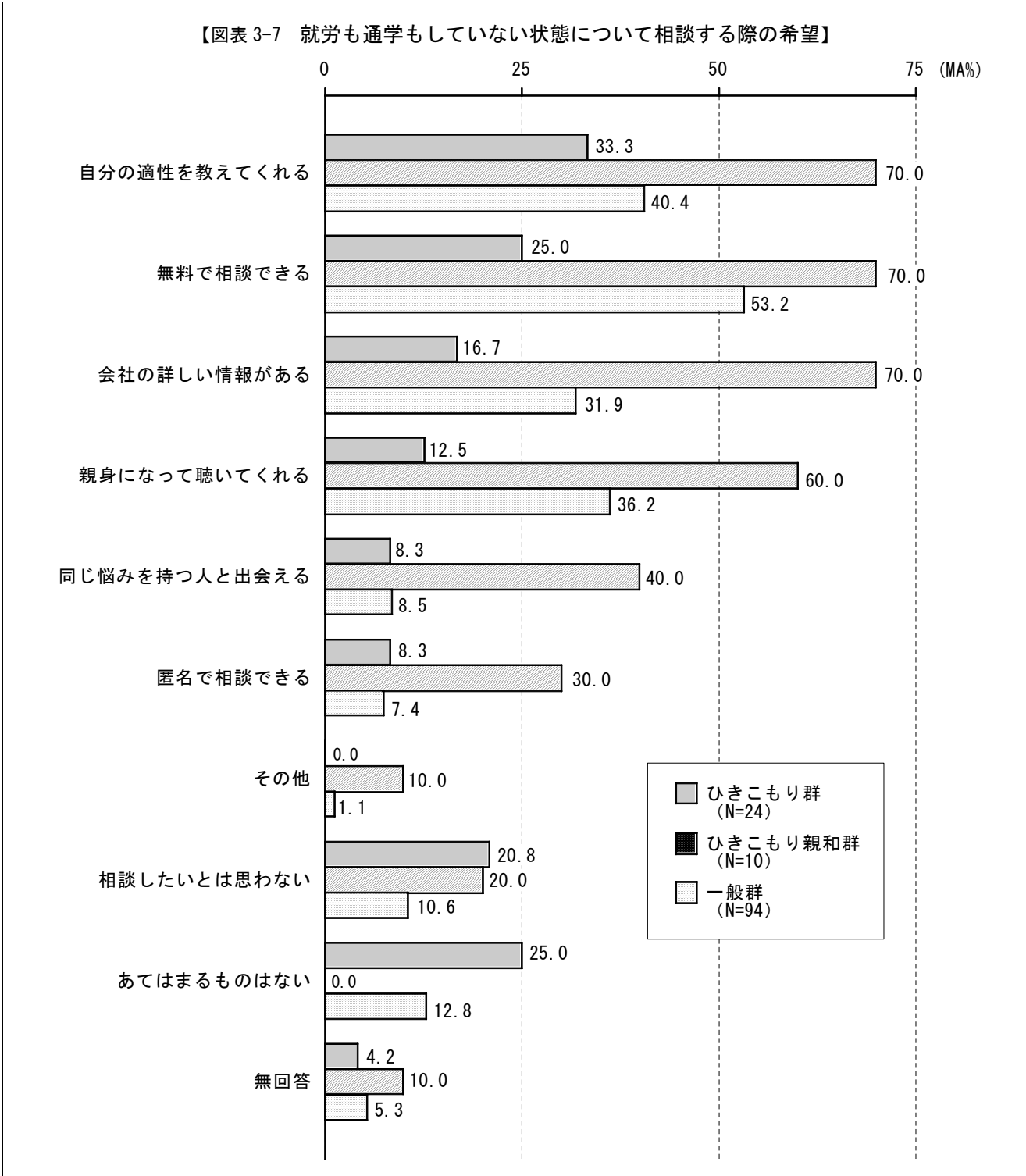
【図表 3-6 就職についての関係機関への相談意向】



現在、就労も通学もしていない人に、就職について関係する機関に相談したいと思うかたずねたところ、“一般群”では「思う」が46.8%に対し、「思わない」が48.9%となっている。

(6) 就労も通学もしていない状態について相談する際の希望 [問 19]

問 19 現在の状態について、どのような機関なら、相談したいと思いますか。(〇はいくつでも)

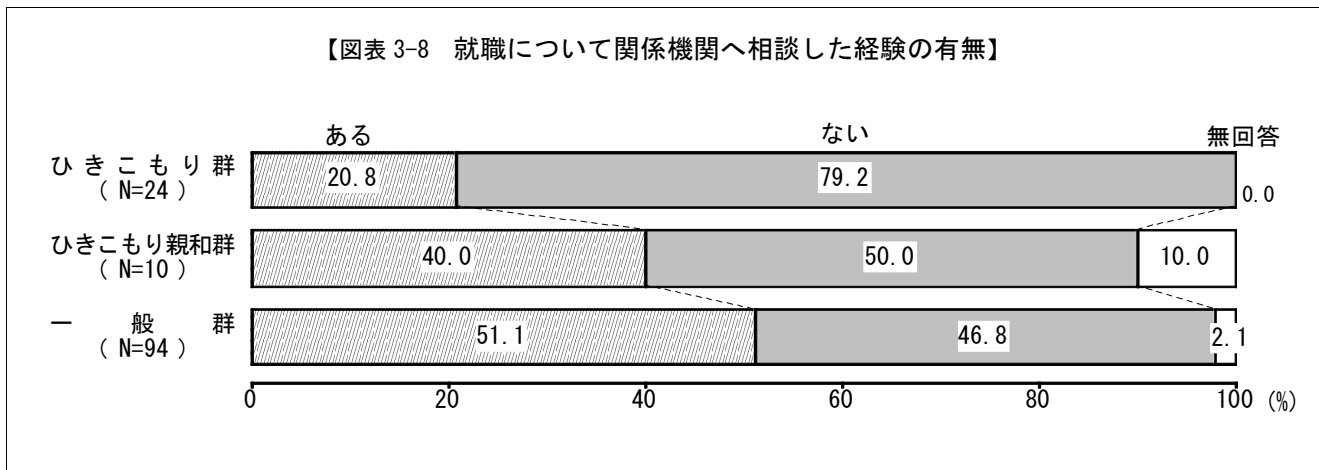


現在、就労も通学もしていない人に、その状態について機関へ相談する際の希望をたずねたところ、“一般群”では「無料で相談できる」が 53.2%と最も多く、次いで「自分の適性を教えてくれる」40.4%、「親身になって聴いてくれる」36.2%などとなっている。

(7) 就職について関係機関へ相談した経験

① 就職について関係機関へ相談した経験の有無 [問20]

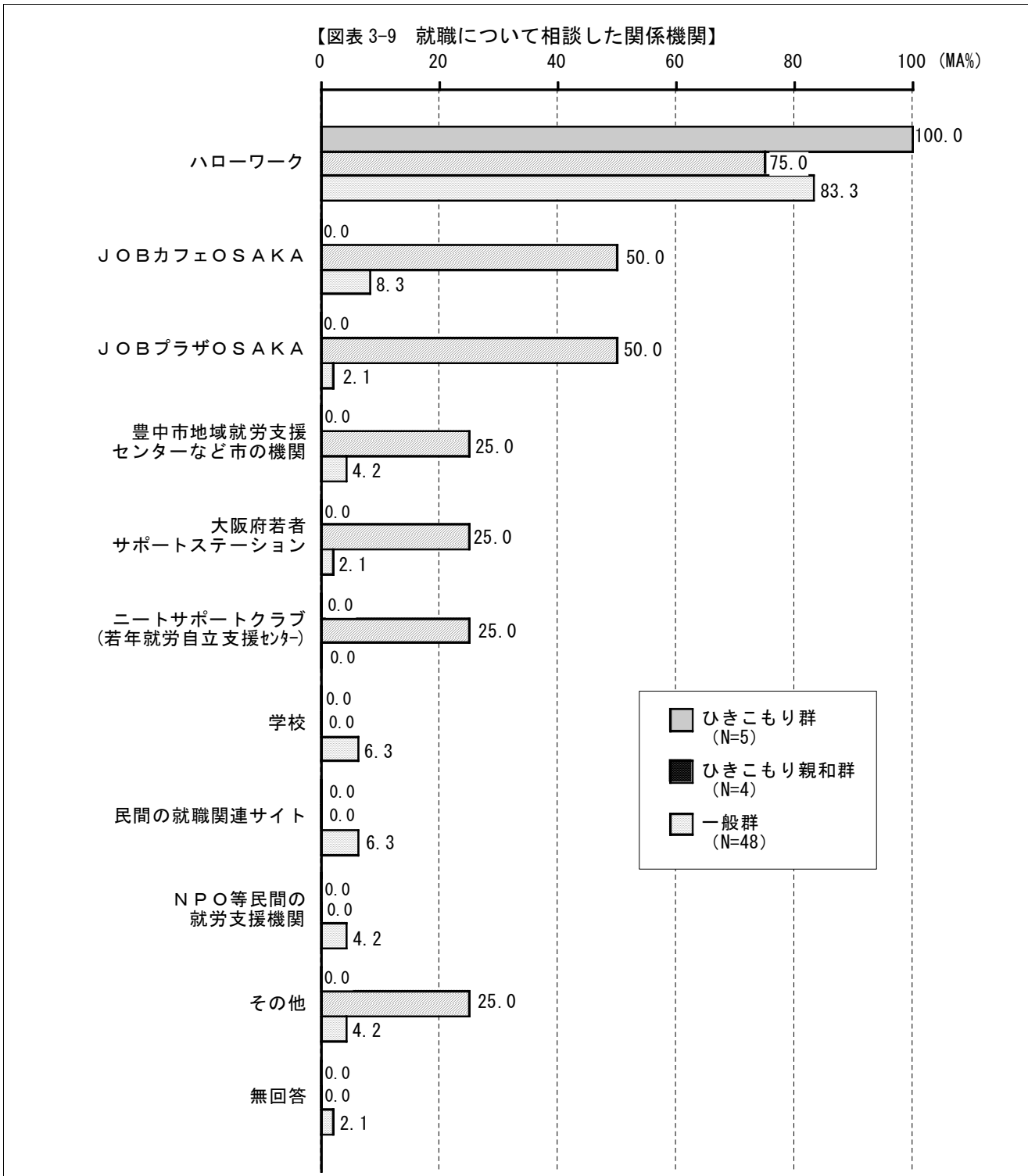
問20 あなたは、就職について、関係する機関に相談したことはありますか。(○はひとつだけ)



現在、就労も通学もしていない人に、就職について関係する機関に相談したことがあるかたずねたところ、“一般群”では「ある」が51.1%に対し、「ない」が46.8%となっている。

② 就職について相談した関係機関 [問 21]

【問 20 で「1. ある」に○を付けた方に】
 問 21 どのような機関に相談しましたか。(○はいくつでも)

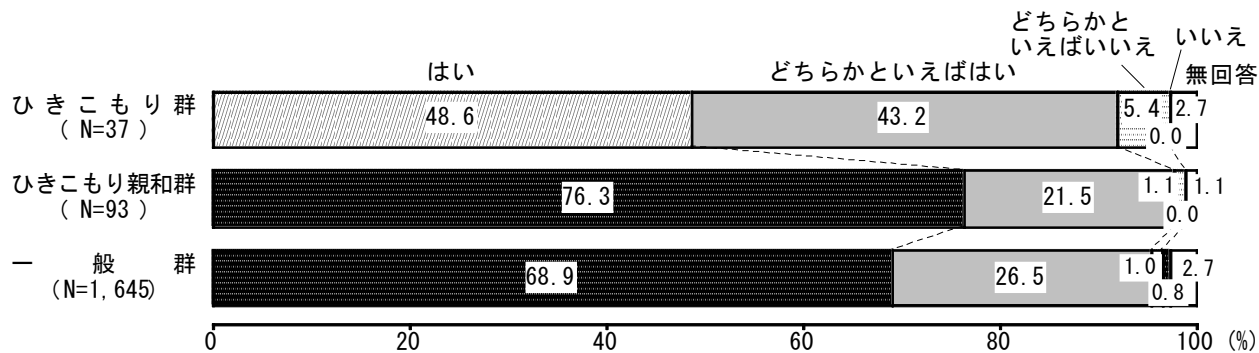


現在、就労も通学もしていない人のうち、就職について関係機関へ相談した経験があるという人に、その相談先をたずねたところ、“一般群”では「ハローワーク」が 83.3%と最も多く、他の機関はいずれも 1 割未満となっている。

(8) 職業観 [問 22]

問 22 次に挙げられた職業に関する意見の中で、あなたの考えにあてはまる番号に○を付けてください。(○はひとつの項目につきひとつ)

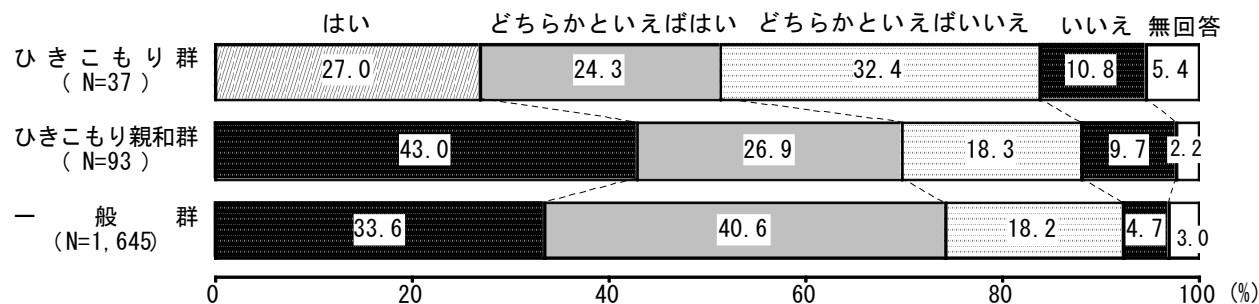
【図表 3-10 職業観『①自分の能力を生かせる仕事に就きたい』】



職業に関する意見のうち、『①自分の能力を生かせる仕事に就きたい』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、「はい」が“ひきこもり親和群”で76.3%、“一般群”で68.9%を占めるのに対し、“ひきこもり群”では48.6%にとどまっている。

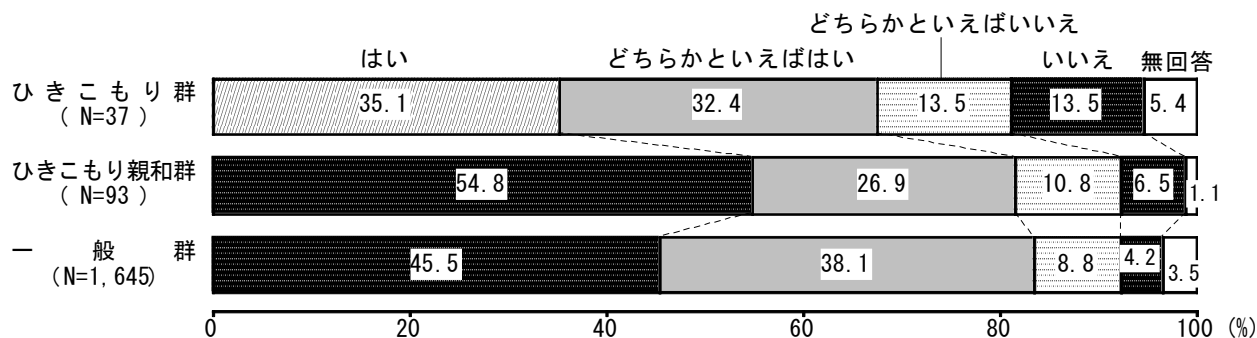
一方、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）でみると、“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”、“一般群”はいずれも9割台となっている。

【図表 3-11 職業観『②いつか必ず自分にふさわしい仕事が見つかると思う』】



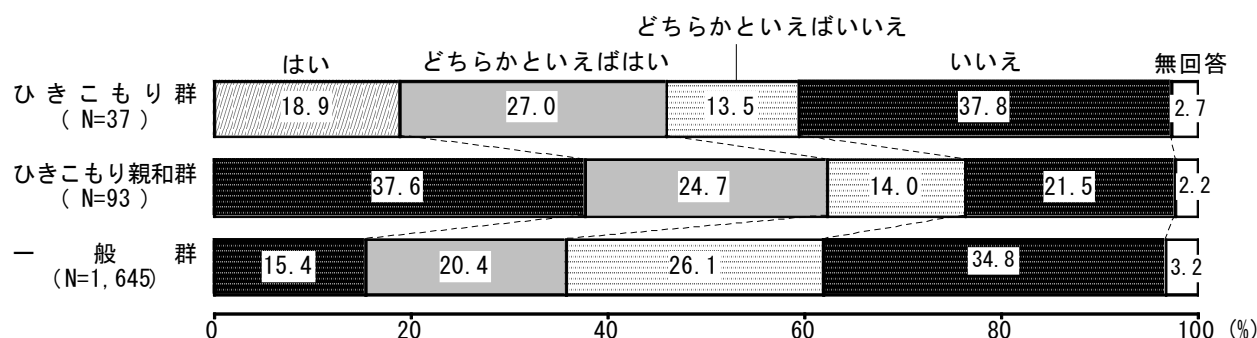
職業に関する意見のうち、『②いつか必ず自分にふさわしい仕事が見つかると思う』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『いいえ』と回答した人の割合（「どちらかといえばいいえ」「いいえ」の計）が、“ひきこもり親和群”（28.0%）、“一般群”（22.9%）で2割台となっているのに対し、“ひきこもり群”では4割台（43.2%）を占める。

【図表 3-12 職業観『③いつか自分の夢を実現させる仕事に就きたい』】



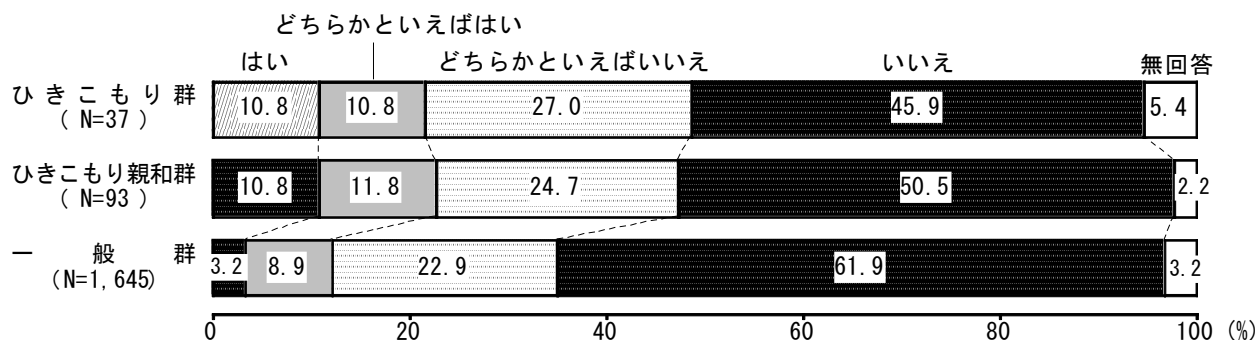
職業に関する意見のうち、『③いつか自分の夢を実現させる仕事に就きたい』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『いいえ』と回答した人の割合（「どちらかといえばいいえ」「いいえ」の計）が、“一般群”で13.0%、“ひきこもり親和群”で17.3%に対し、“ひきこもり群”では27.0%と高くなっている。

【図表 3-13 職業観『④仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない』】



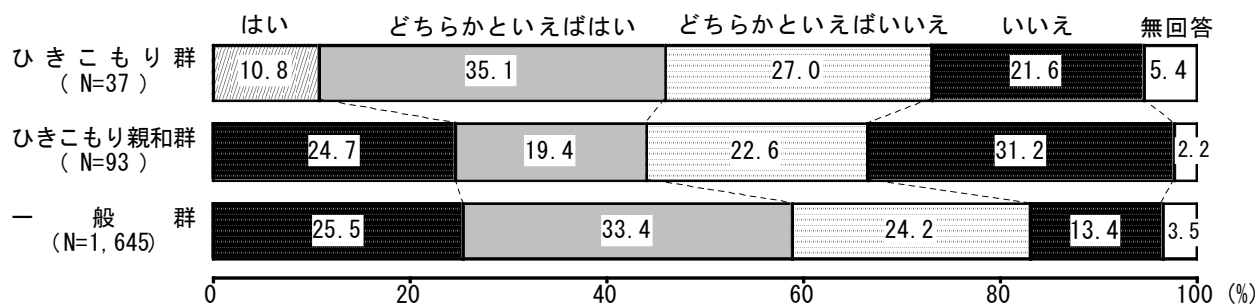
職業に関する意見のうち、『④仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が、“ひきこもり親和群”で62.3%と最も高く、次いで“ひきこもり群”45.9%、“一般群”35.8%となっている。

【図表 3-14 職業観『⑤定職に就かないほうが自由でいいと思う』】



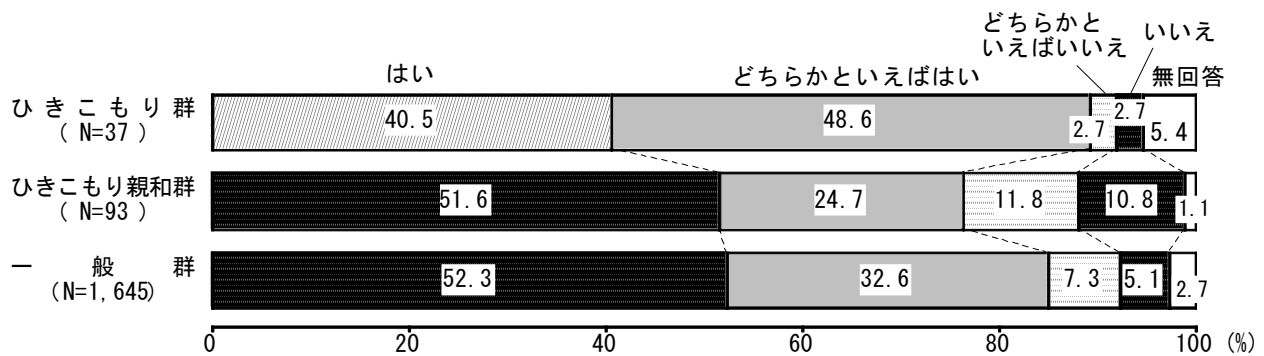
職業に関する意見のうち、『⑤定職に就かないほうが自由でいいと思う』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が、“一般群”で12.1%に対し、“ひきこもり親和群”では22.6%、“ひきこもり群”では21.6%と高くなっている。

【図表 3-15 職業観『⑥働かない人は、なまけているのだと思う』】



職業に関する意見のうち、『⑥働かない人は、なまけているのだと思う』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が、“一般群”で6割弱（58.9%）を占めるのに対し、“ひきこもり群”では45.9%、“ひきこもり親和群”では44.1%にとどまっている。

【図表 3-16 職業観『⑦経済的に自立してはじめて一人前だと思う』】

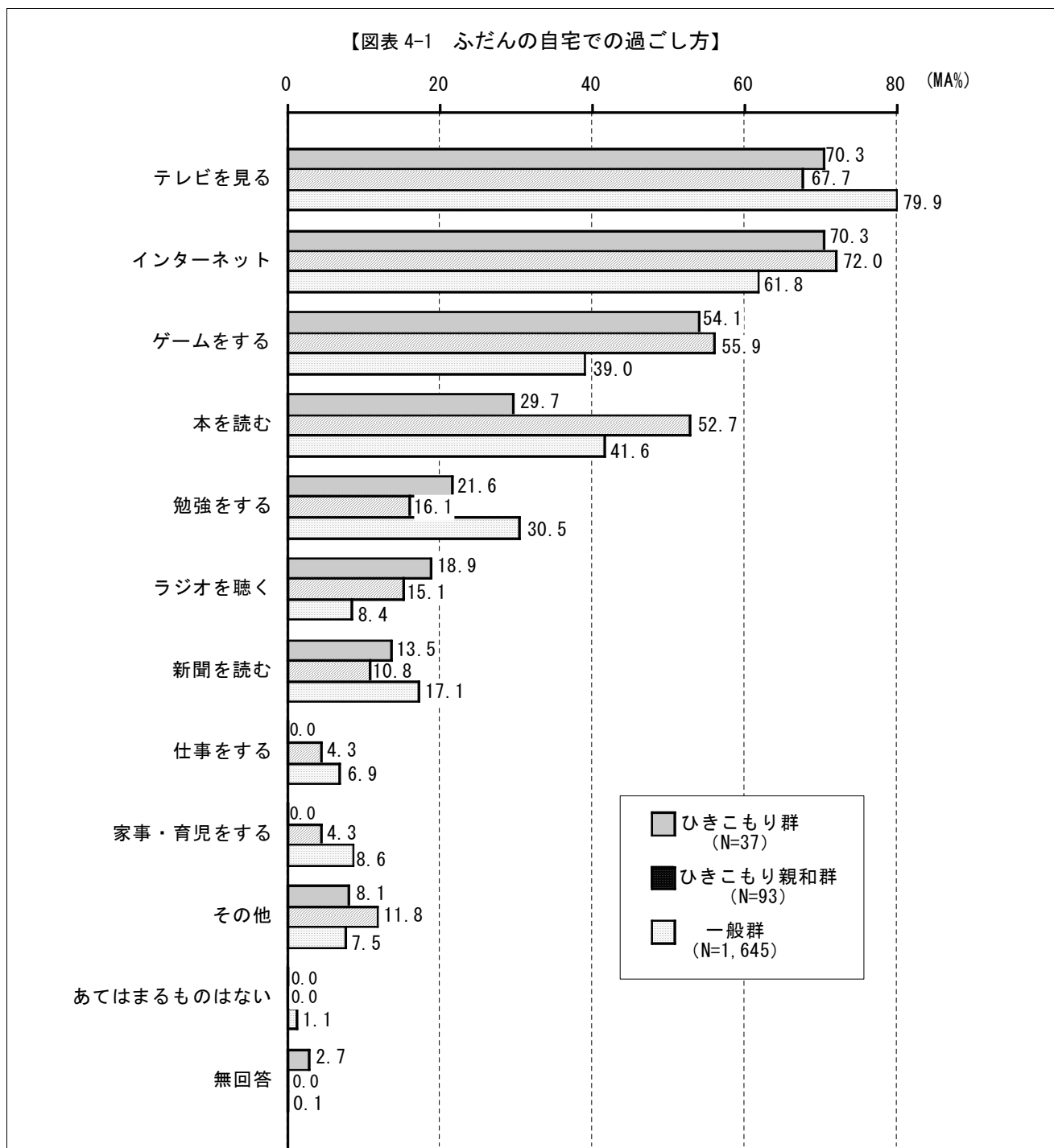


職業に関する意見のうち、『⑦経済的に自立してはじめて一人前だと思う』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が、“ひきこもり群”で 89.1%と最も高く、次いで“一般群” 84.9%と 8割台であるのに対し、“ひきこもり親和群”では 76.3%とやや低くなっている。

4. ふだんの生活について

(1) ふだんの自宅での過ごし方 [問 23]

問 23 ふだんご自宅にいるときによくしていることすべてに○を付けてください。(○はいくつでも)

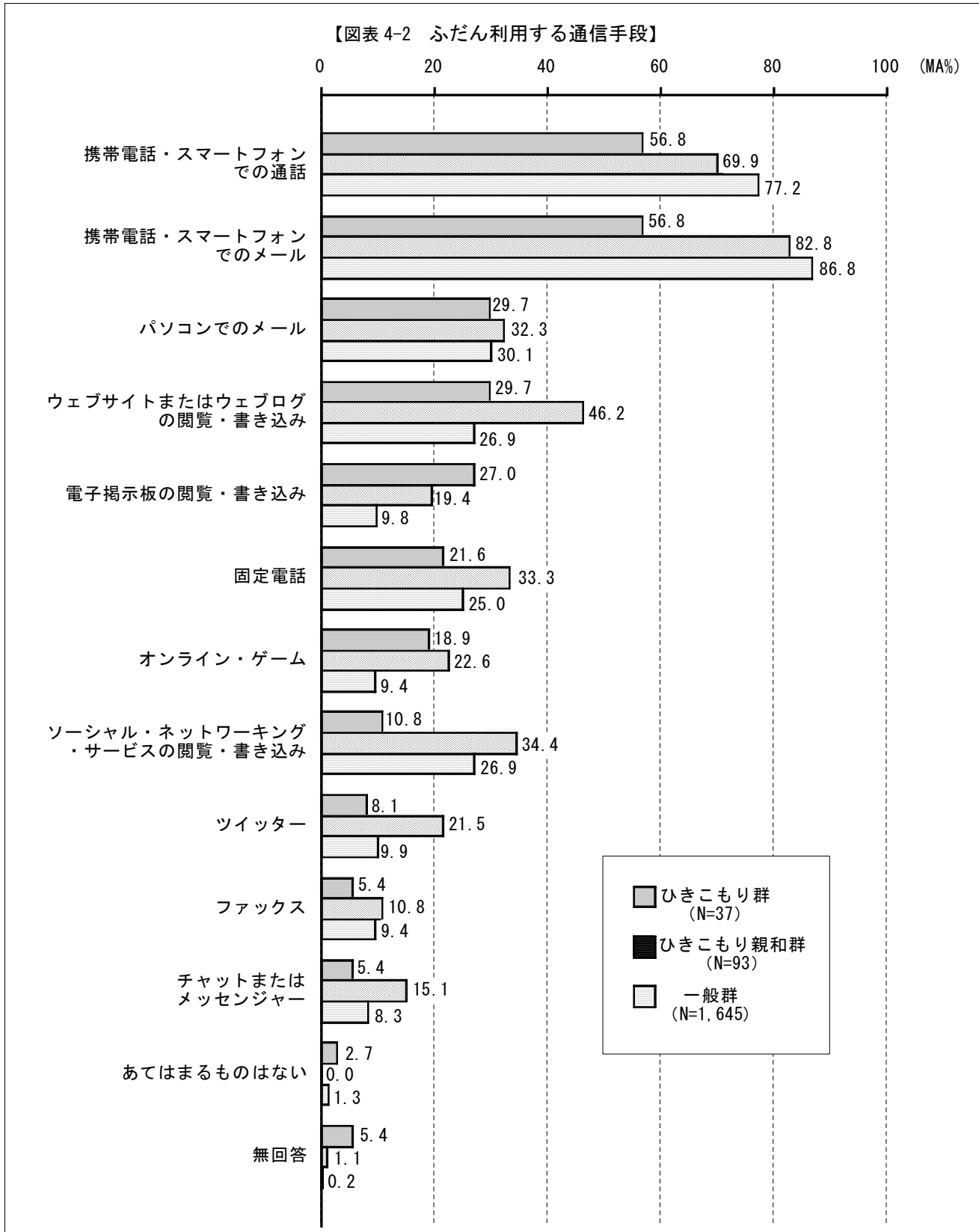


ふだんの自宅での過ごし方をたずねたところ、「テレビを見る」、「インターネット」が“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”、“一般群”でいずれも6～7割台と多くなっている。

一方、項目ごとにみると、「テレビを見る」は“一般群”で高く、「インターネット」、「ゲームをする」は“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”で高くなっている。

(2) ふだん利用する通信手段 [問 24]

問 24 以下に挙げられた通信手段の中で、ふだん利用しているものすべてに○を付けてください。
(○はいくつでも)

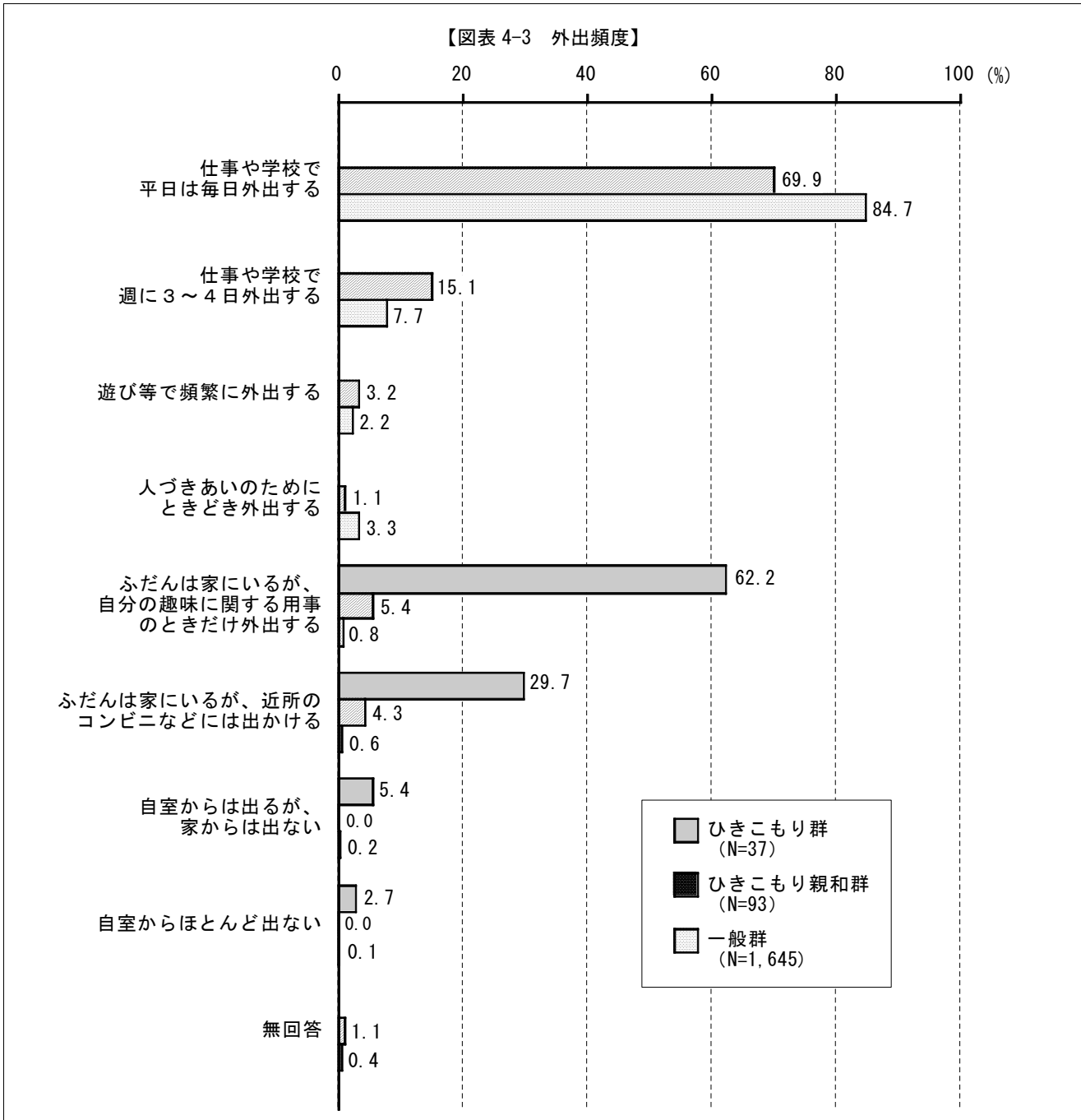


ふだん利用する通信手段をたずねたところ、“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”、“一般群”のいずれも「携帯電話・スマートフォンでの通話」、「携帯電話・スマートフォンでのメール」が多くなっているものの、“ひきこもり親和群”、“一般群”に比べて“ひきこもり群”の割合は低くなっている。

また、“ひきこもり親和群”では「ウェブサイトまたはウェブログの閲覧・書き込み」、「固定電話」、「ソーシャル・ネットワーキング・サービスの閲覧・書き込み」、「ツイッター」、「チャットまたはメッセージ」などで割合が最も高くなっている。

(3) 外出頻度 [問 25]

問 25 ふだんどのくらい外出しますか。(○はひとつだけ)



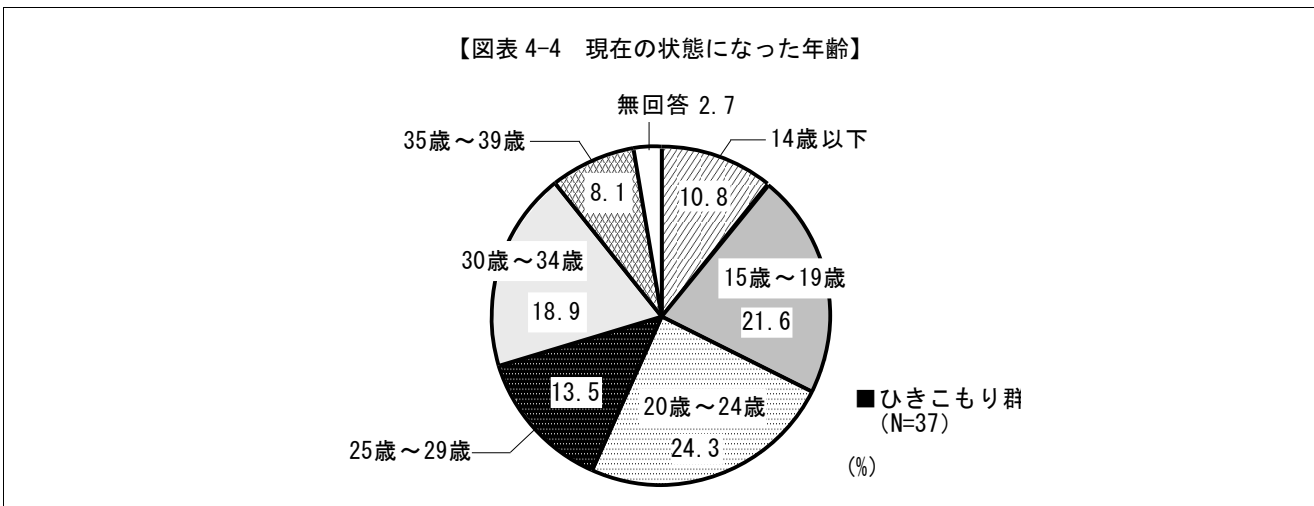
ふだんどのくらい外出するかをたずねたところ、「仕事や学校で平日は毎日外出する」が“一般群”で84.7%、“ひきこもり親和群”で69.9%と多くなっている。

一方、“ひきこもり群”では「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」が62.2%と最も多く、次いで多い「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」(29.7%)を併せると、『用事があれば出かけるが、ふだんは家にいる』という割合が9割強(91.9%)を占める。

(※以下、問26～問32においては、“ひきこもり群”に該当する者の結果について記載する)

(4) 現在の状態になった年齢 [問26]

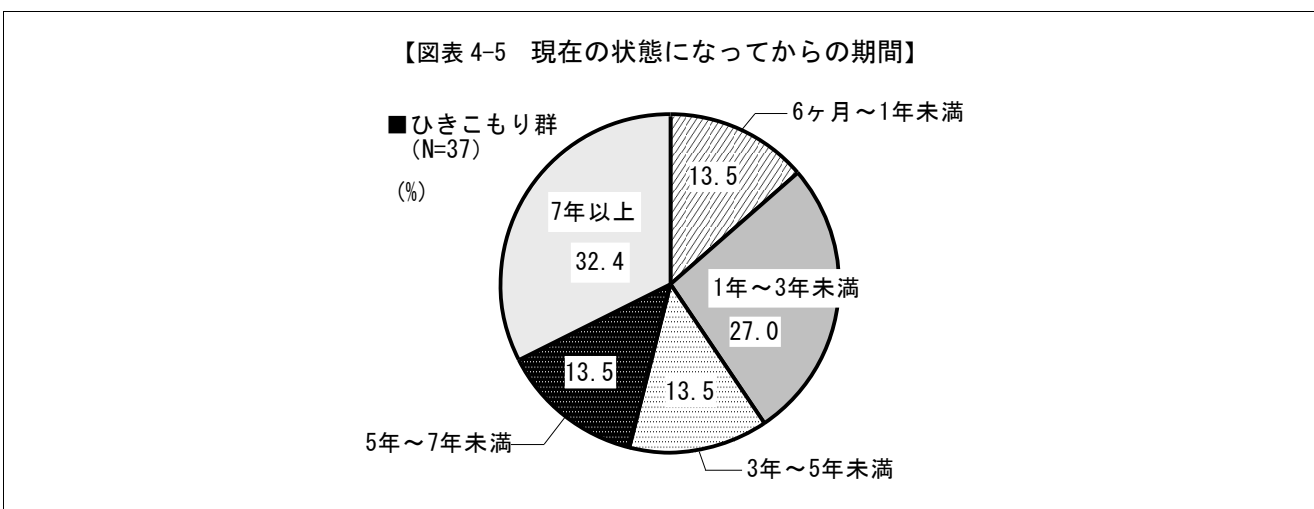
【問25で、「5」～「8」のいずれかに○を付けた方のみ、問26～問32の質問に回答してください。】
 問26 現在の状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。(数字で具体的にご記入ください。)



現在の状態になったのは何歳の頃かたずねたところ、「20歳～24歳」が24.3%と最も多く、次いで「15歳～19歳」21.6%、「30歳～34歳」18.9%の順となっている。

(5) 現在の状態になってからの期間 [問27]

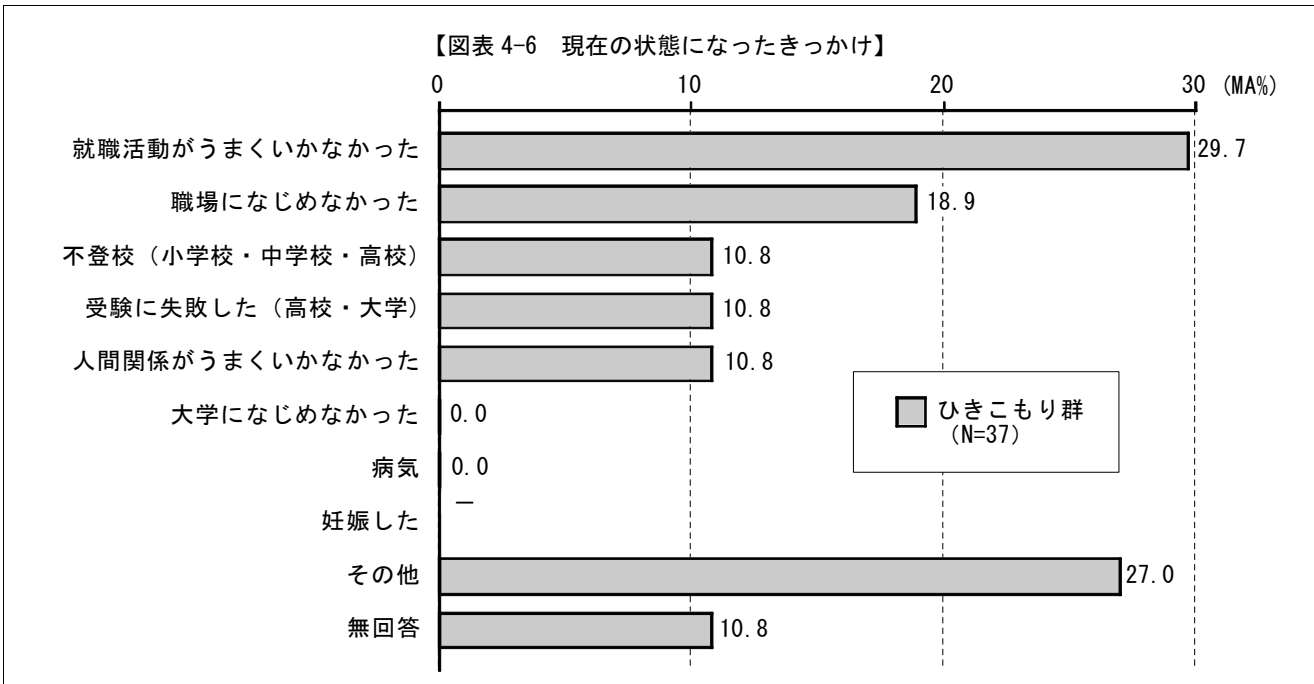
問27 現在の状態となってどのくらい経ちますか。(○はひとつだけ)



現在の状態になってからの期間をたずねたところ、「7年以上」が32.4%と最も多く、次いで「1年～3年未満」27.0%の順となっている。

(6) 現在の状態になったきっかけ [問 28]

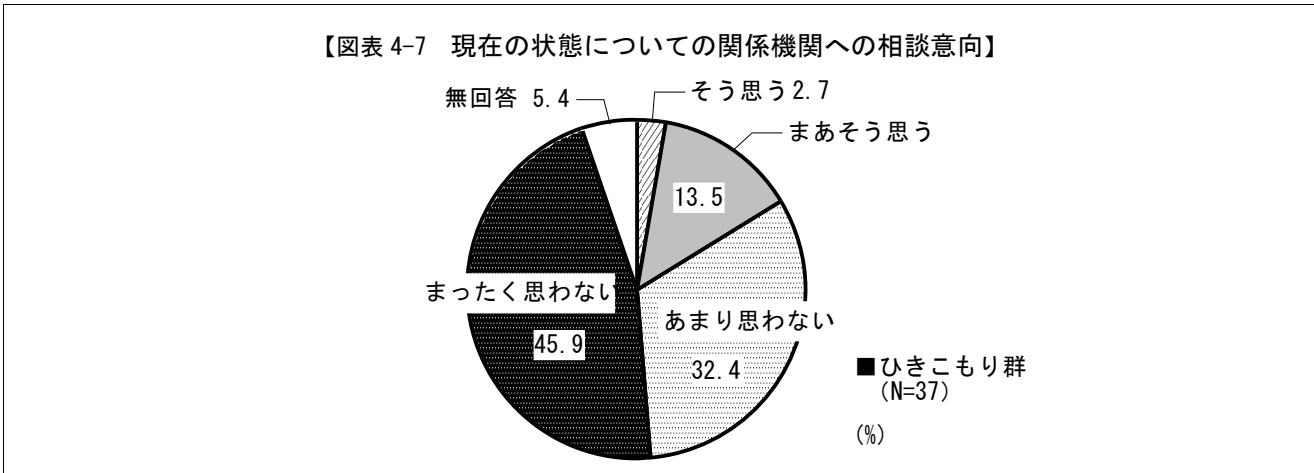
問 28 現在の状態になったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)



現在の状態になったきっかけをたずねたところ、「就職活動がうまくいかなかった」が約3割 (29.7%) と最も多く、次いで「職場になじめなかった」2割弱 (18.9%) などとなっている。

(7) 現在の状態についての関係機関への相談意向 [問 29]

問 29 現在の状態について、関係機関に相談したいと思いますか。(〇はひとつだけ)

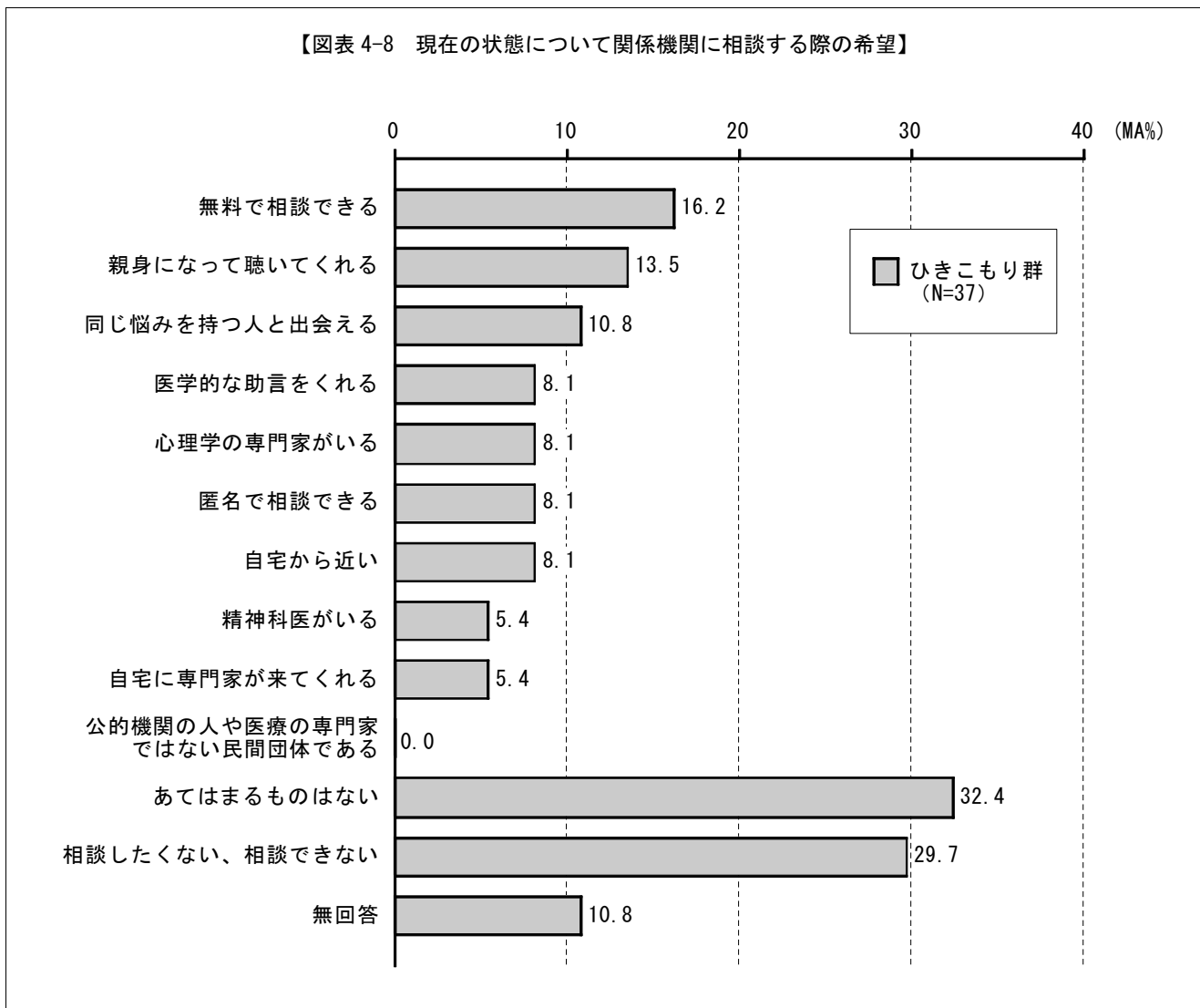


現在の状態について、関係機関に相談したいと思うかたずねたところ、「まったく思わない」が45.9%と最も多く、次いで多い「あまり思わない」(32.4%) を合わせると、『思わない』という割合が8割弱 (78.3%) を占める。

(8) 現在の状態について関係機関に相談する場合の意向

① 現在の状態について関係機関に相談する際の希望 [問 30]

問 30 現在の状態について、どのような機関なら、相談したいと思いますか。(〇はいくつでも)

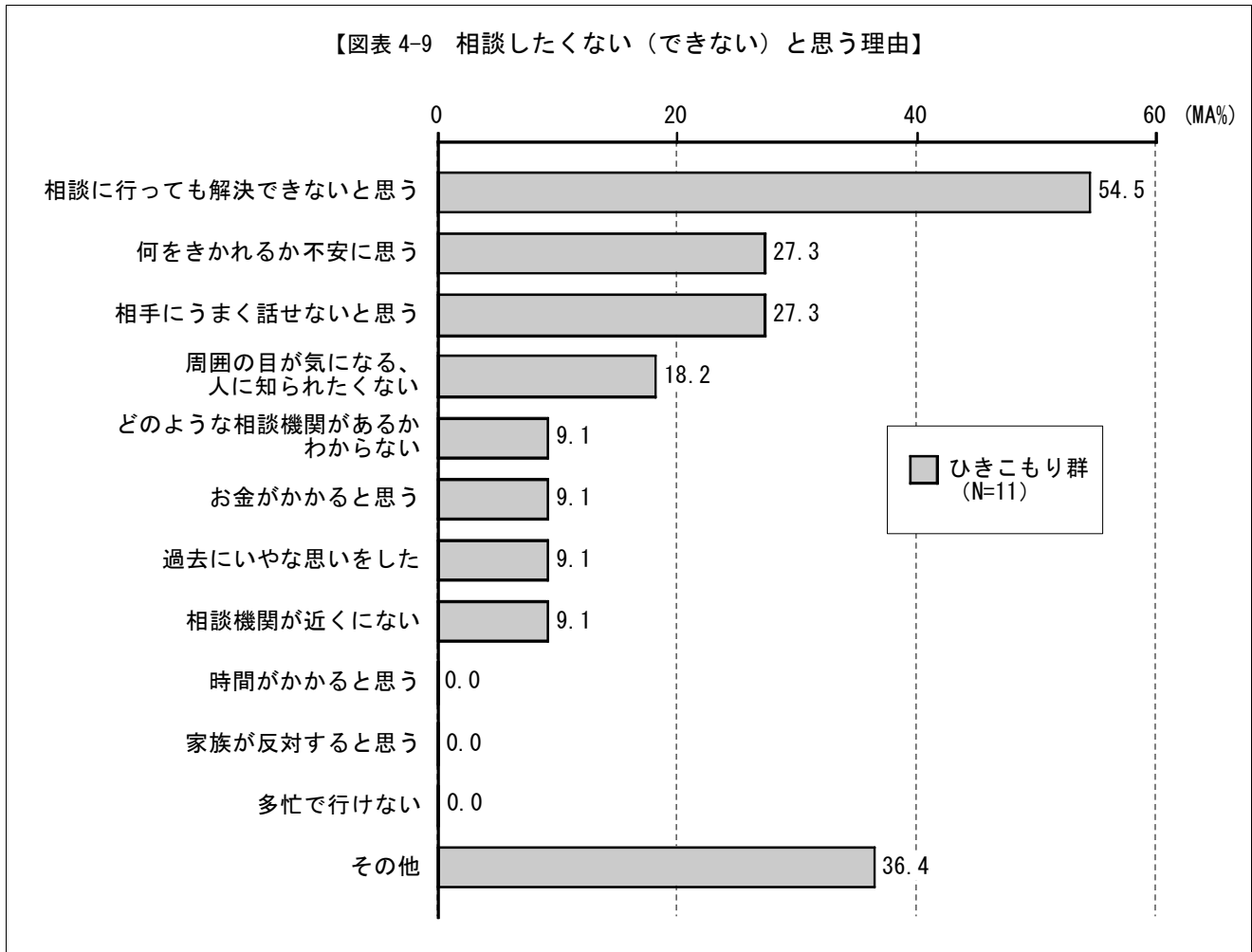


現在の状態について、どのような機関なら、相談したいと思うかたずねたところ、「無料で相談できる」が 16.2%と多く、次いで「親身になって聴いてくれる」13.5%、「同じ悩みを持つ人と出会える」10.8%などとなっている。一方、「あてはまるものはない」(32.4%)、「相談したくない、相談できない」(29.7%) がそれぞれ3割前後みられる。

② 相談したくない(できない)と思う理由 [問 31]

【問 30 で「12. 相談したくない、相談できない」に○を付けた方に】

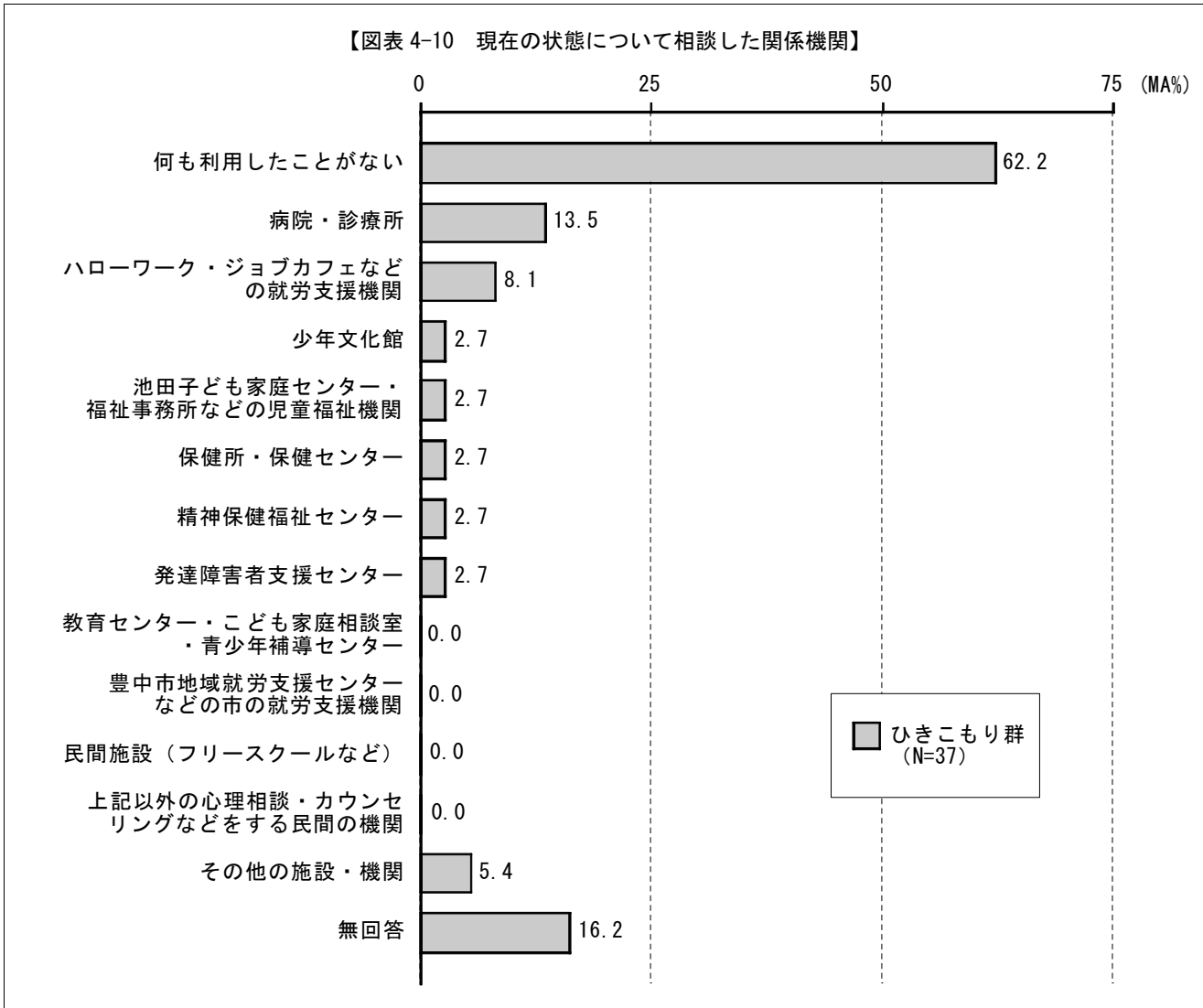
問 31 相談したくない、相談できないと思う理由は何ですか。(○はいくつでも)



前問(問 30)で「12. 相談したくない、相談できない」と回答した人(11人)に、その理由をたずねたところ、「相談に行っても解決できないと思う」が54.5%(6人)と最も多くなっている。

(9) 現在の状態について相談した関係機関 [問 32]

問 32 現在の状態について、関係機関に相談しましたか。
 相談したことのある機関に○を付けてください。(○はいくつでも)



現在の状態について、相談したことのある機関をたずねたところ、「何も利用したことがない」が62.2%を占めている。いずれかの機関に相談したことがある人(21.6%)の内訳としては、「病院・診療所」が13.5%と多く、次いで「ハローワーク・ジョブカフェなどの就労支援機関」8.1%などとなっている。

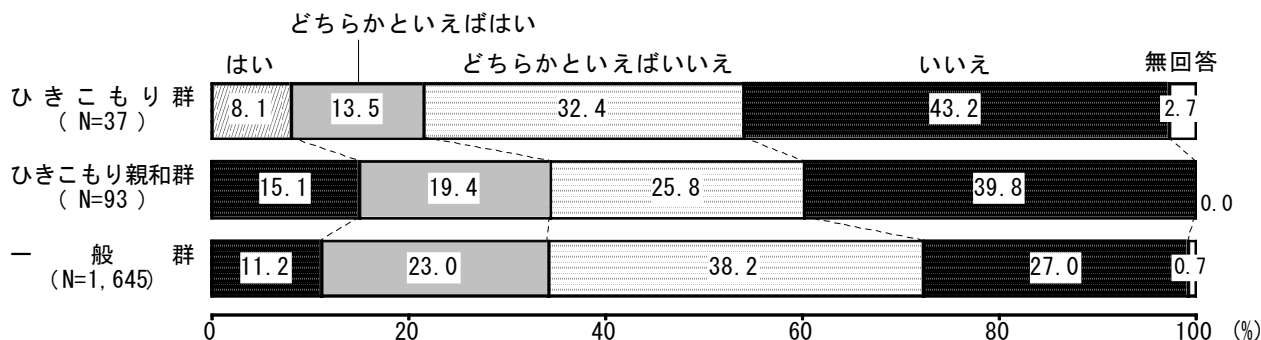
5. ふだんの意識や態度などについて

(1) ふだんの意識や態度に対する考え [問 33]

問 33 次にあげられたことについて、あなた自身にあてはまる数字に○を付けてください。

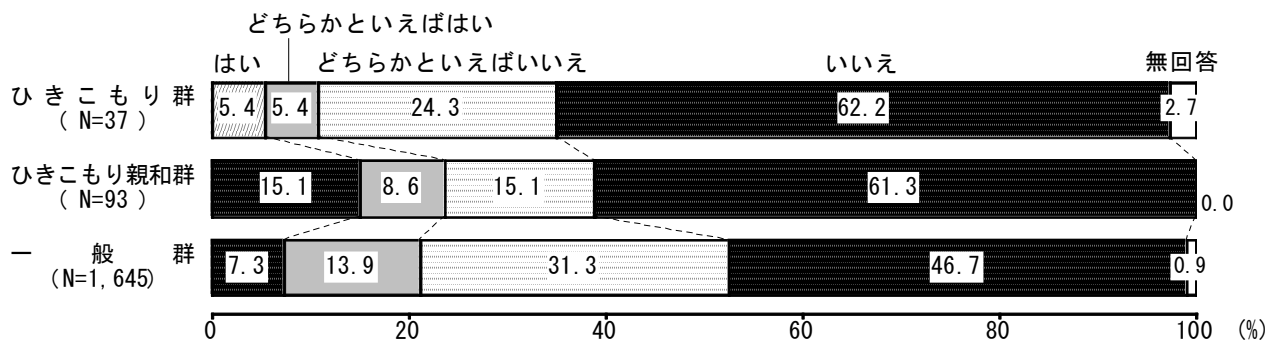
(○はひとつの項目につきひとつ)

【図表 5-1 ふだんの意識や態度に対する考え『①私には持って生まれたすばらしい才能がある』】



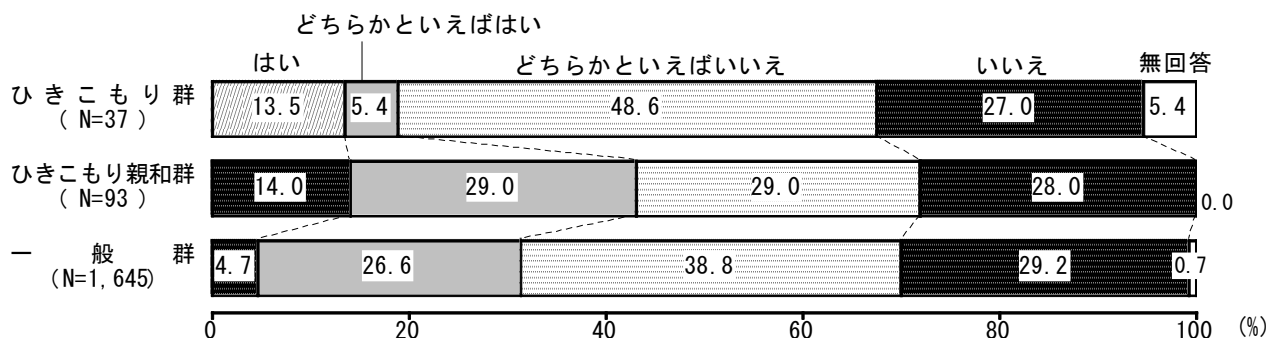
ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『①私には持って生まれたすばらしい才能がある』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“ひきこもり親和群”（34.5%）、“一般群”（34.2%）で3割台となっているのに対し、“ひきこもり群”では2割強（21.6%）にとどまっている。

【図表 5-2 ふだんの意識や態度に対する考え『②私は他に並ぶ人がいないくらい、特別な存在である』】



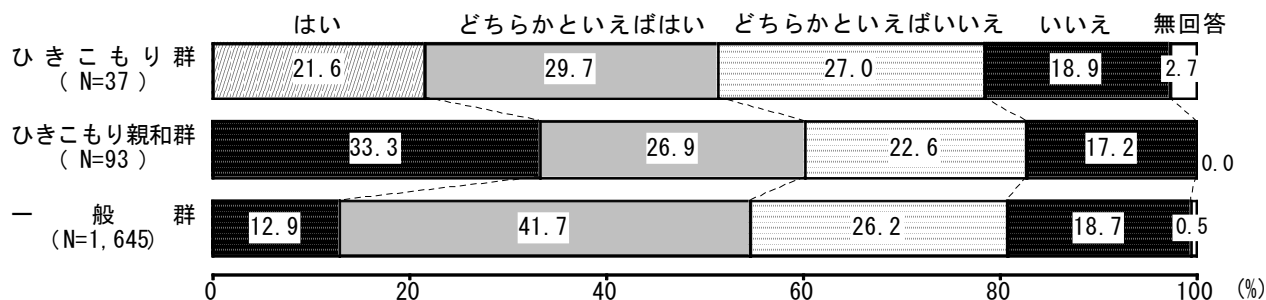
ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『②私は他に並ぶ人がいないくらい、特別な存在である』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“ひきこもり親和群”（23.7%）、“一般群”（21.2%）で2割台となっているのに対し、“ひきこもり群”では約1割（10.8%）にとどまっている。

【図表 5-3 ふだんの意識や態度に対する考え『③大事なことを決めるとき、親の言うことに従わないと不安』】



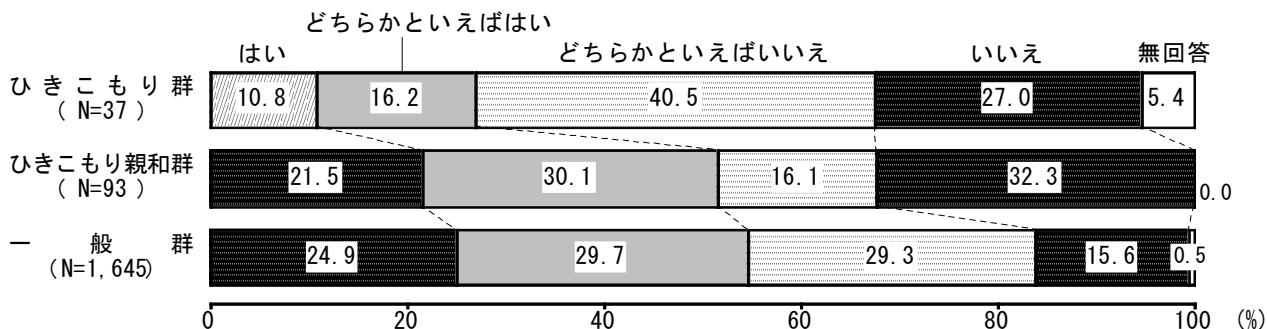
ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『③大事なことを決めるとき、親の言うことに従わないと不安』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“ひきこもり親和群”で4割台（43.0%）、“一般群”で3割強（31.3%）となっているのに対し、“ひきこもり群”では2割弱（18.9%）にとどまっている。

【図表 5-4 ふだんの意識や態度に対する考え『④大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ』】



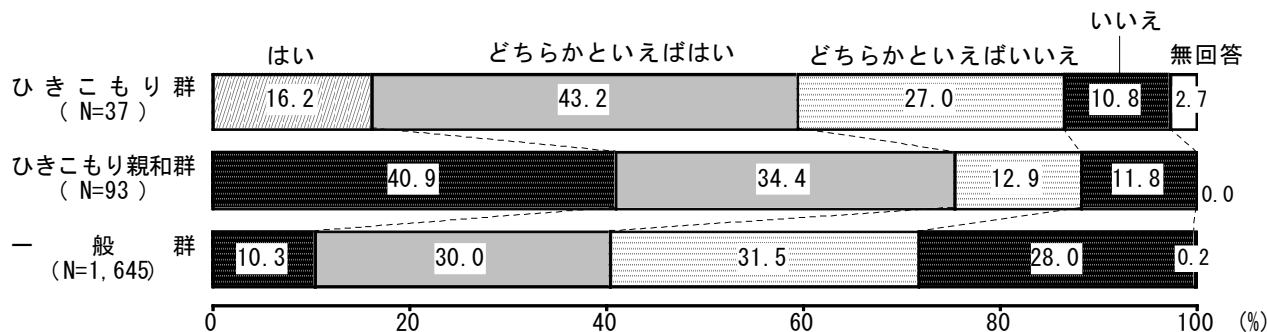
ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『④大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“ひきこもり親和群”で60.2%と最も高く、次いで“一般群”54.6%、“ひきこもり群”51.3%となっている。

【図表 5-5 ふだんの意識や態度に対する考え『⑤初対面の人とすぐに会話できる自信がある』】



ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『⑤初対面の人とすぐに会話できる自信がある』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“ひきこもり親和群”（34.5%），“一般群”（34.2%）で3割台となっているのに対し、“ひきこもり群”では2割強（21.6%）にとどまっている。

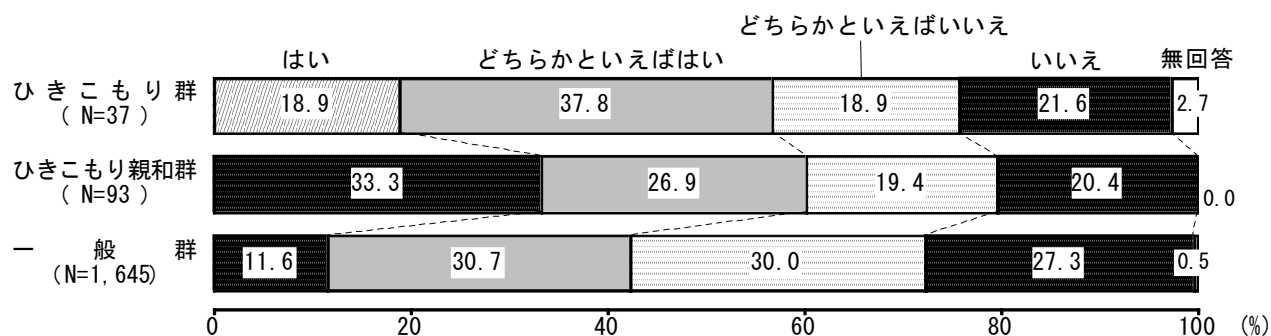
【図表 5-6 ふだんの意識や態度に対する考え『⑥人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む』】



ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『⑥人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“一般群”で約4割（40.3%）となっているのに対し、“ひきこもり群”では約6割（59.4%），“ひきこもり親和群”では7割台（75.3%）をそれぞれ占める。

また、そのうち「はい」と回答した人が“ひきこもり親和群”で約4割（40.9%）と高い。

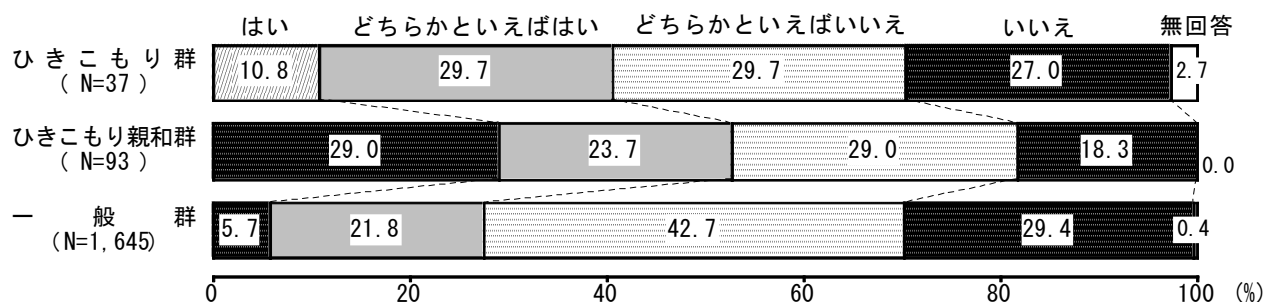
【図表 5-7 ふだんの意識や態度に対する考え『⑦自分の感情を表に出すのが苦手だ』】



ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『⑦自分の感情を表に出すのが苦手だ』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“一般群”で4割台（42.3%）となっているのに対し、“ひきこもり群”（56.7%）、“ひきこもり親和群”（60.2%）ではそれぞれ6割前後を占める。

また、そのうち「はい」と回答した人が“ひきこもり親和群”で33.3%と高い。

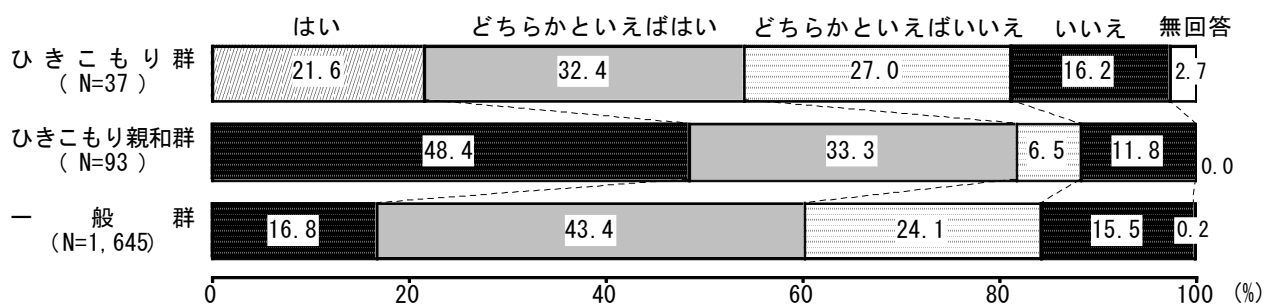
【図表 5-8 ふだんの意識や態度に対する考え『⑧もめごとが起こったとき、解決方法がわからない』】



ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『⑧もめごとが起こったとき、解決方法がわからない』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“一般群”で3割弱（27.5%）となっているのに対し、“ひきこもり群”では約4割（40.5%）、“ひきこもり親和群”では5割強（52.7%）と高くなっている。

また、そのうち「はい」と回答した人が“ひきこもり親和群”で3割弱（29.0%）と高い。

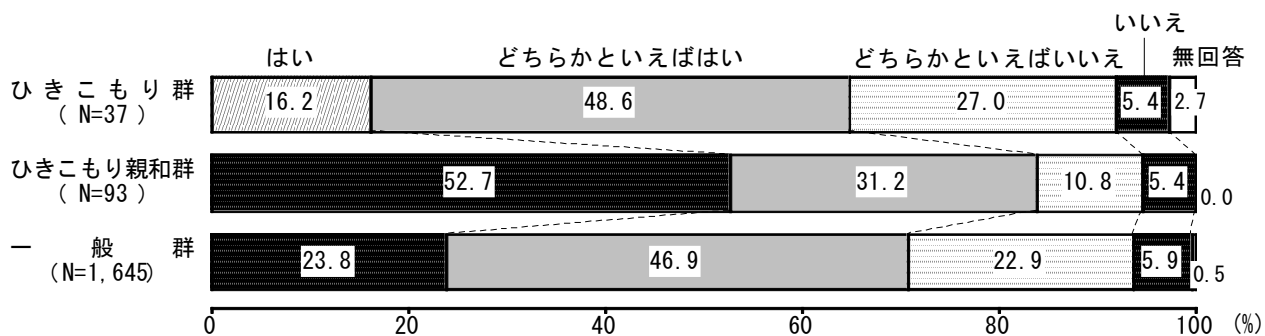
【図表 5-9 ふだんの意識や態度に対する考え『⑨人と対立するくらいなら、自分が我慢した方がよい』】



ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『⑨人と対立するくらいなら、自分が我慢した方がよい』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“ひきこもり群”で54.0%、“一般群”で60.2%となっているのに対し、“ひきこもり親和群”では81.7%を占める。

また、そのうち「はい」と回答した人が“ひきこもり親和群”で5割弱（48.4%）と高い。

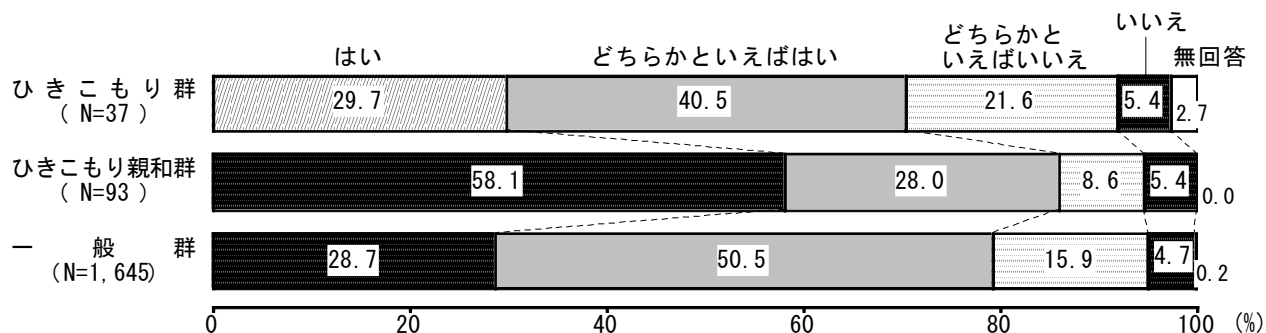
【図表 5-10 ふだんの意識や態度に対する考え『⑩たとえ親でも自分のやりたいことに口出ししないでほしい』】



ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『⑩たとえ親でも自分のやりたいことに口出ししないでほしい』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“ひきこもり親和群”で8割強（83.9%）と最も高く、次いで“一般群”約7割（70.7%）、“ひきこもり群”6割台（64.8%）となっている。

また、そのうち「はい」と回答した人の割合が“ひきこもり親和群”で過半数（52.7%）を占める。

【図表 5-11 ふだんの意識や態度に対する考え『⑪自分の生活のことで人から干渉されたくない』】

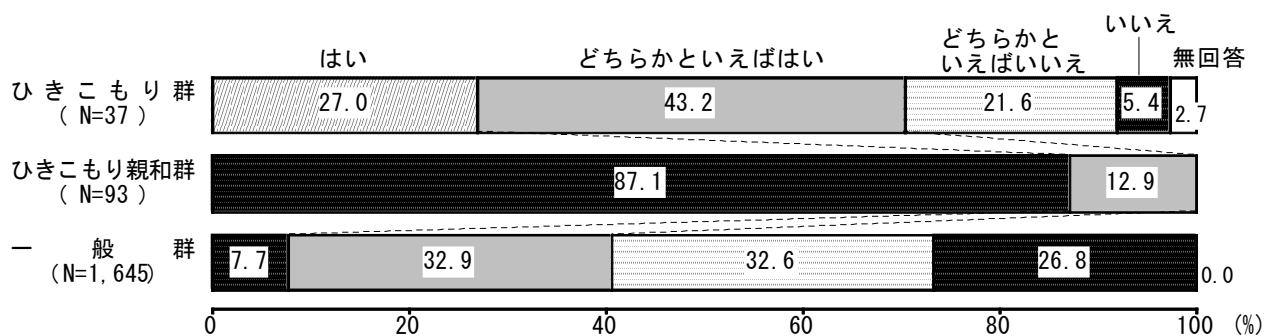


ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『⑪自分の生活のことで人から干渉されたくない』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“ひきこもり親和群”で8割台（86.1%）と最も高く、次いで“一般群”約8割（79.2%）、“ひきこもり群”約7割（70.2%）となっている。

また、そのうち「はい」と回答した人の割合が“ひきこもり親和群”で6割弱（58.1%）を占める。

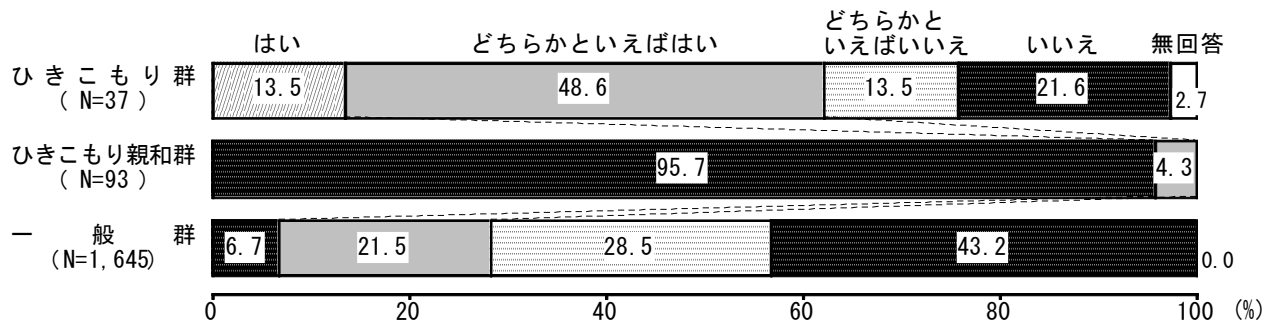
（※以下、⑫～⑮においては、“ひきこもり親和群”の定義に使用しているため、コメントは省略する）

【図表 5-12 ふだんの意識や態度に対する考え『⑫家に閉じこもって外に出ない人たちの気持ちがわかる』】



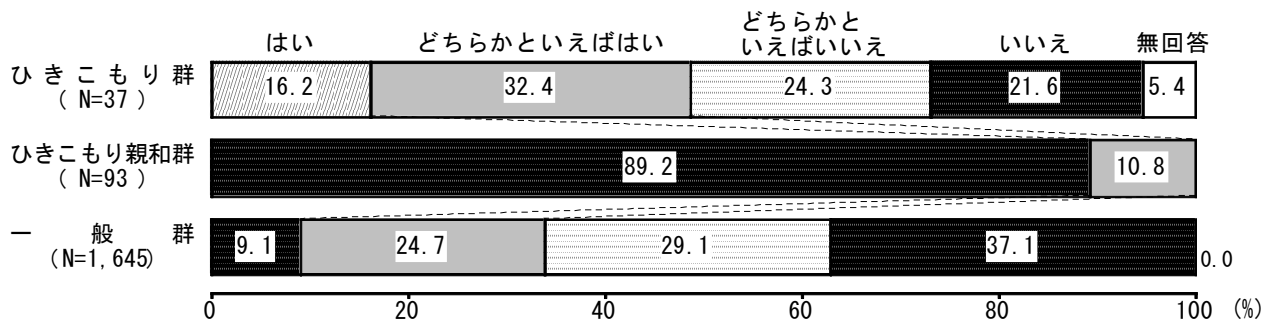
ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『⑫家に閉じこもって外に出ない人たちの気持ちがわかる』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“一般群”で約4割（40.6%）となっているのに対し、“ひきこもり群”では約7割（70.2%）を占める。

【図表 5-13 ふだんの意識や態度に対する考え『⑬自分も、家に閉じこもりたいと思うことがある』】



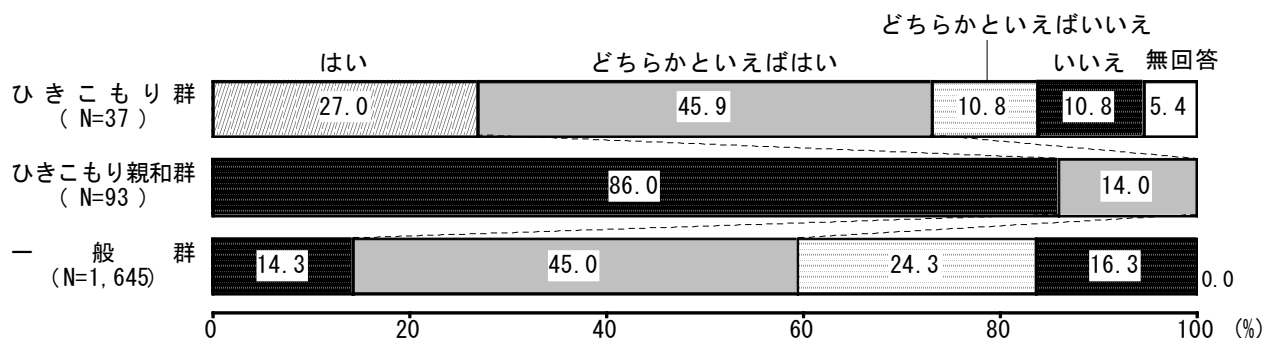
ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『⑬自分も、家に閉じこもりたいと思うことがある』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“一般群”で3割弱（28.2%）となっているのに対し、“ひきこもり群”では6割強（62.1%）を占める。

【図表 5-14 ふだんの意識や態度に対する考え『⑭嫌な出来事があると、外に出たくなくなる』】



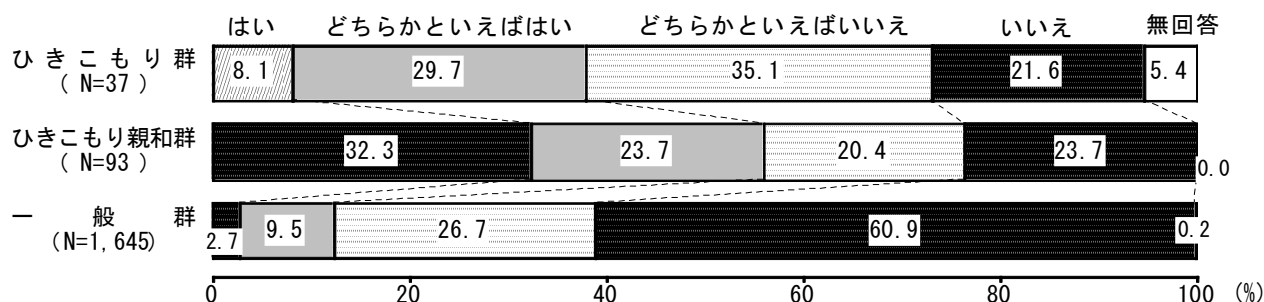
ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『⑭嫌な出来事があると、外に出たくなくなる』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“一般群”で3割台（33.8%）となっているのに対し、“ひきこもり群”では5割弱（48.6%）と高くなっている。

【図表 5-15 ふだんの意識や態度に対する考え『⑮理由があるなら家に閉じこもるのも仕方がないと思う』】



ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『⑮理由があるなら家に閉じこもるのも仕方がないと思う』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“一般群”で約6割（59.3%）となっているのに対し、“ひきこもり群”では7割台（72.9%）と高くなっている。

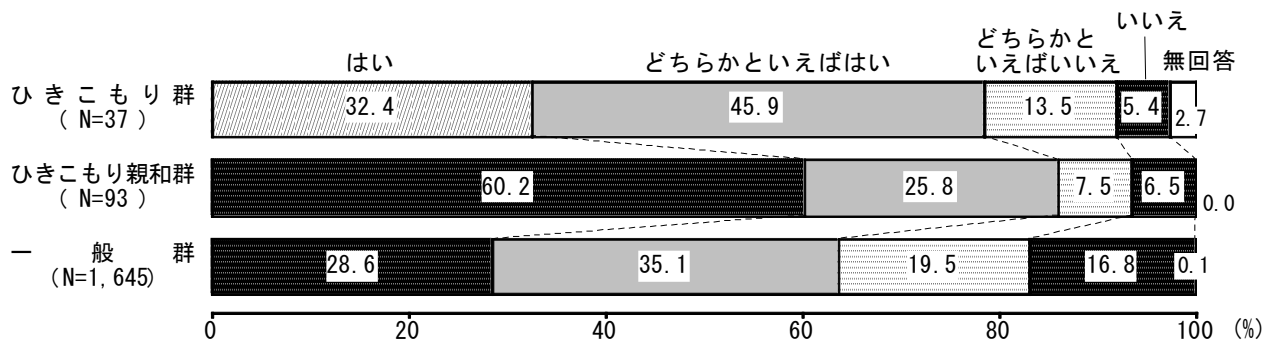
【図表 5-16 ふだんの意識や態度に対する考え『⑯自分の精神状態は健康ではないと思う』】



ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『⑯自分の精神状態は健康ではないと思う』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“ひきこもり親和群”で56.0%と最も高く、次いで“ひきこもり群”37.8%となっているのに対し、“一般群”では12.2%にとどまっている。

また、そのうち「はい」と回答した人の割合が“ひきこもり親和群”で32.3%と高い。

【図表 5-17 ふだんの意識や態度に対する考え『⑰自分の今の状態について考えることがよくある』】



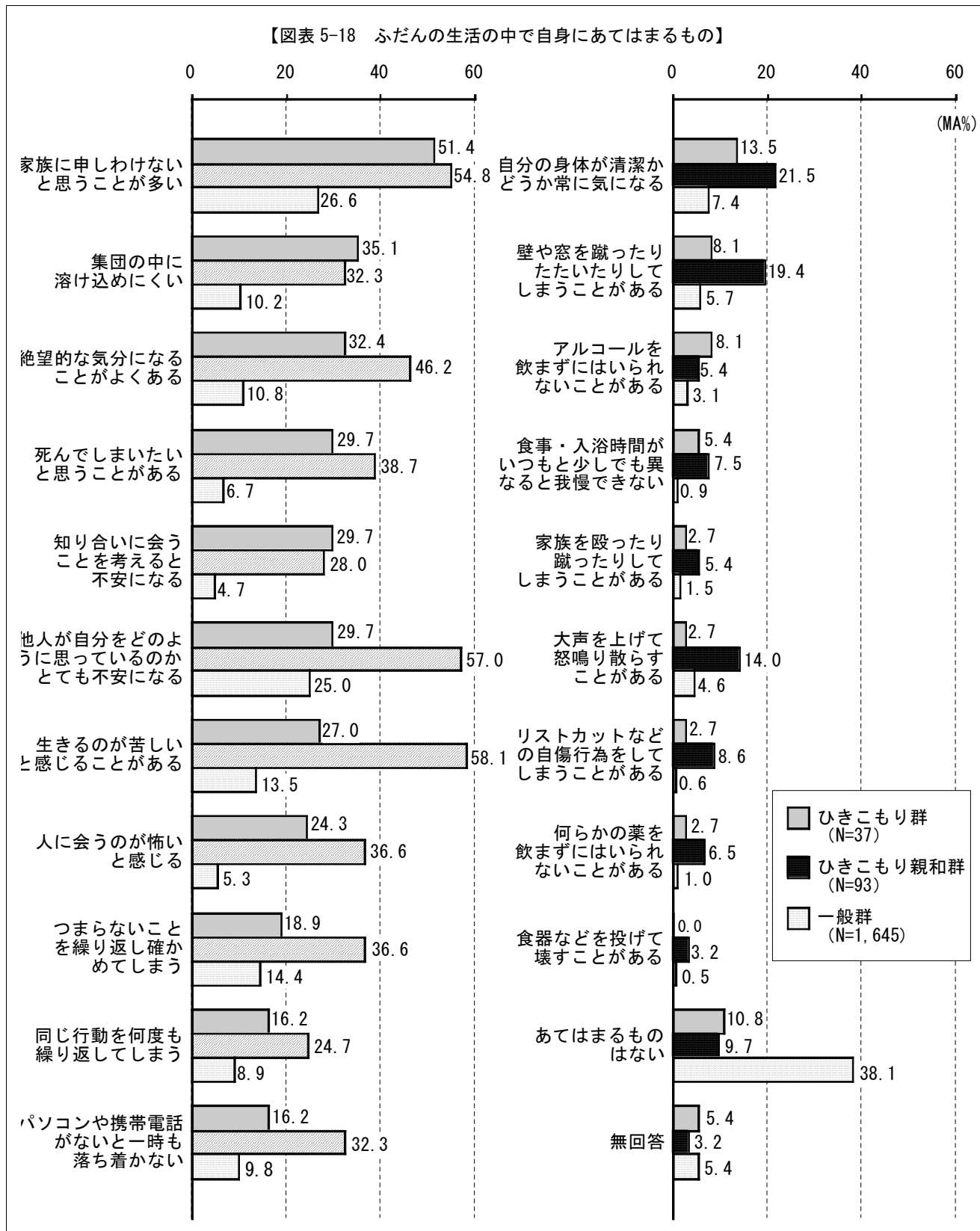
ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『⑰自分の今の状態について考えることがよくある』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“一般群”で6割台（63.7%）に対し、“ひきこもり群”（78.3%）、“ひきこもり親和群”（86.0%）では8割前後を占める。

また、そのうち「はい」と回答した人の割合が“ひきこもり親和群”で約6割（60.2%）と高い。

(2) ふだんの生活の中で自身にあてはまるもの [問 34]

問 34 次にあげられたことの中で、あなた自身にあてはまるものすべてに○を付けてください。

(○はいくつでも)



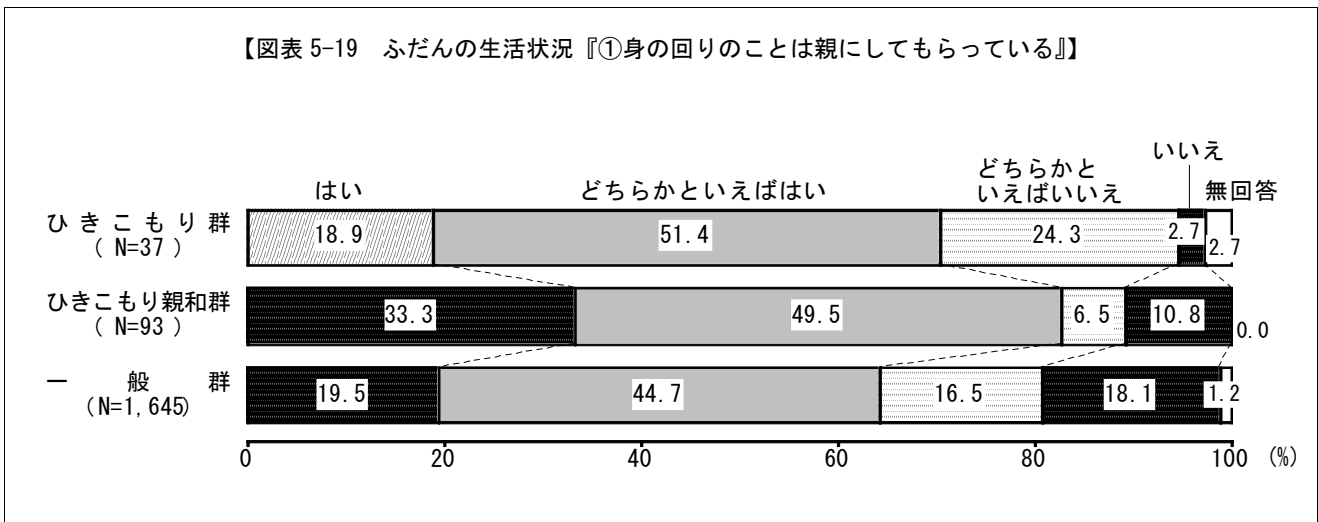
ふだんの生活の中で自身にあてはまるものについてたずねたところ、“ひきこもり群”では「家族に申しわけないと思うことが多い」が51.4%と最も多く、次いで「集団の中に溶け込みにくい」35.1%、「絶望的な気分になることがよくある」32.4%などとなっている。

一方、“ひきこもり親和群”では「生きるのが苦しいと感じることがある」が58.1%と最も多く、次いで「他人が自分をどのように思っているのか不安になる」57.0%、「家族に申しわけないと思うことが多い」54.8%などとなっている。

また、“一般群”では「あてはまるものはない」が38.1%と最も多くなっている。これに続くのが「家族に申しわけないと思うことが多い」26.6%、「他人が自分をどのように思っているのか不安になる」25.0%などとなっている。

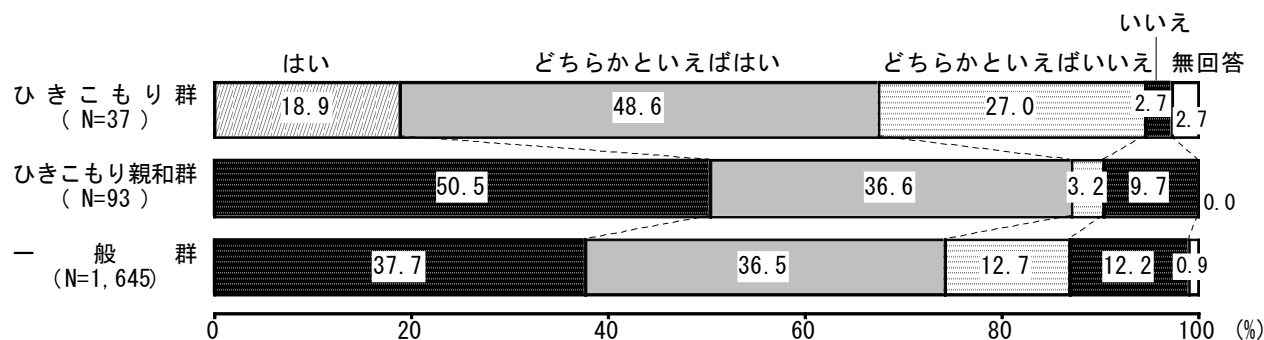
(3) ふだんの生活状況 [問 35]

問 35 次にあげられたことについて、あなた自身にあてはまるものに○を付けてください。
(○はひとつの項目につきひとつ)



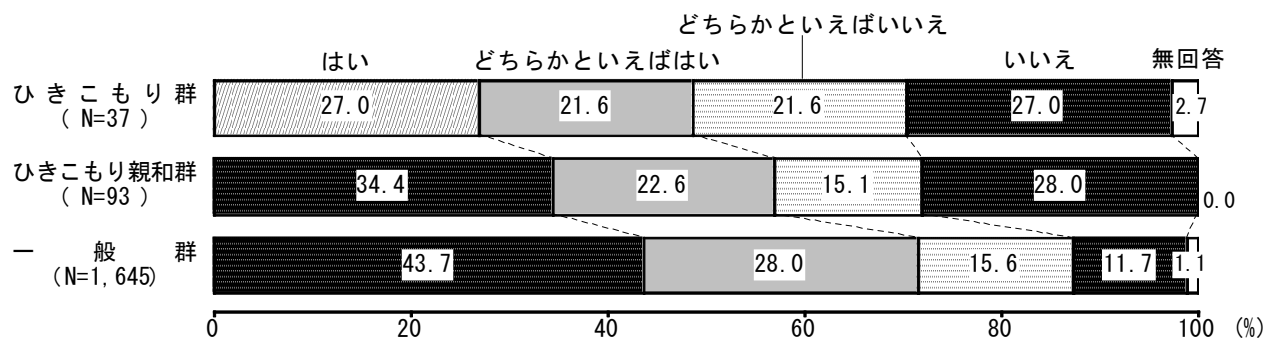
ふだんの生活状況に対する考えのうち、『①身の回りのことは親にしてもらっている』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“ひきこもり親和群”で8割強（82.8%）と最も高く、次いで“ひきこもり群”約7割（70.3%）、“一般群”で6割台（64.2%）となっている。

【図表 5-20 ふだんの生活状況『②食事や掃除は親まかせである』】



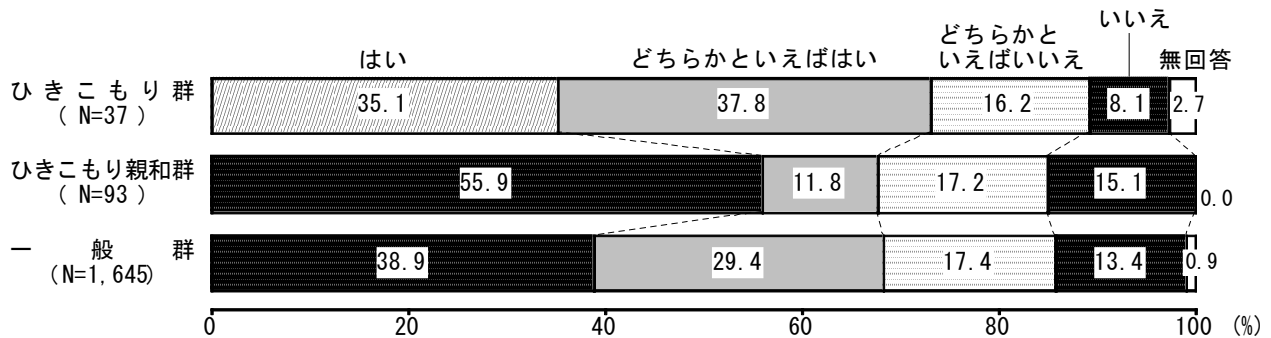
ふだんの生活状況に対する考えのうち、『②食事や掃除は親まかせである』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“ひきこもり親和群”で9割弱（87.1%）と最も高く、次いで“一般群”7割台（74.2%）、“ひきこもり群”7割弱（67.5%）となっている。

【図表 5-21 ふだんの生活状況『③朝、決まった時間に起きられる』】



ふだんの生活状況に対する考えのうち、『③朝、決まった時間に起きられる』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“一般群”で7割強（71.7%）に対し、“ひきこもり群”では5割弱（48.6%）、“ひきこもり親和群”では6割弱（57.0%）にとどまっている。

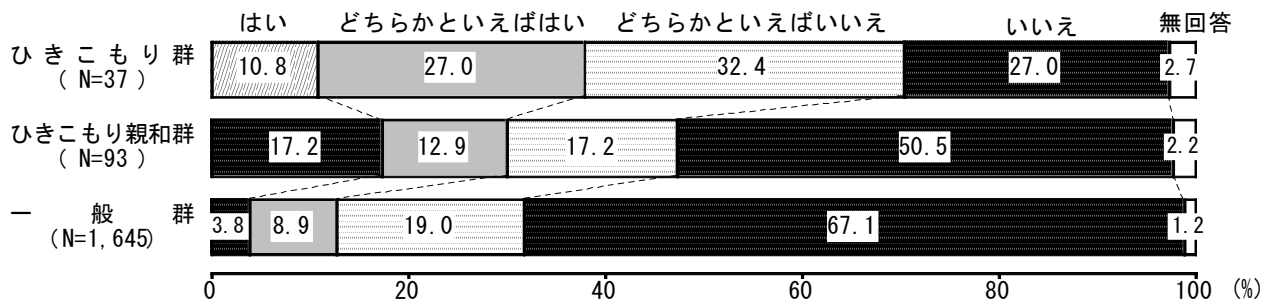
【図表 5-22 ふだんの生活状況『④深夜まで起きていることが多い』】



ふだんの生活状況に対する考えのうち、『④深夜まで起きていることが多い』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“ひきこもり群”で 72.9%と最も高く、次いで“一般群” 68.3%、“ひきこもり親和群” 67.7%となっている。

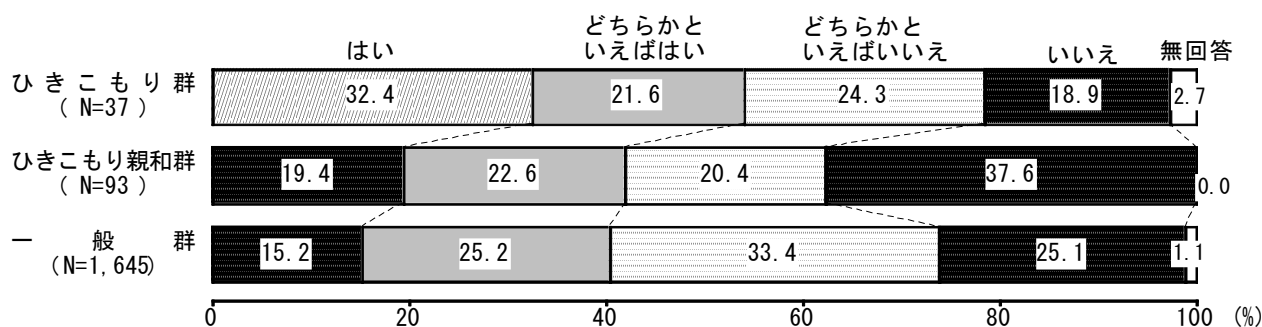
一方、そのうち「はい」と回答した人の割合でみると、“ひきこもり親和群”が 55.9%を占め最も高い。

【図表 5-23 ふだんの生活状況『⑤昼夜逆転の生活をしている』】



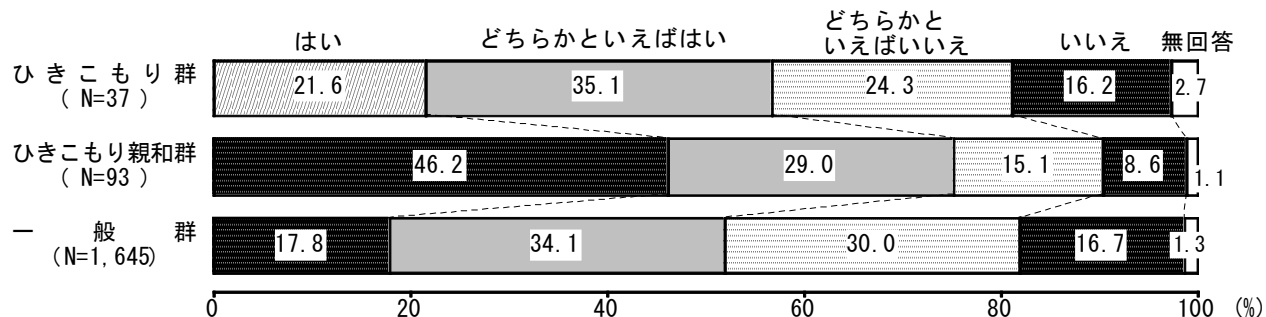
ふだんの生活状況に対する考えのうち、『⑤昼夜逆転の生活をしている』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“一般群”では1割強（12.7%）に対し、“ひきこもり群”で4割弱（37.8%）、“ひきこもり親和群”で約3割（30.1%）と高くなっている。

【図表 5-24 ふだんの生活状況『⑥新聞の政治や経済・社会報道によく目を通す』】



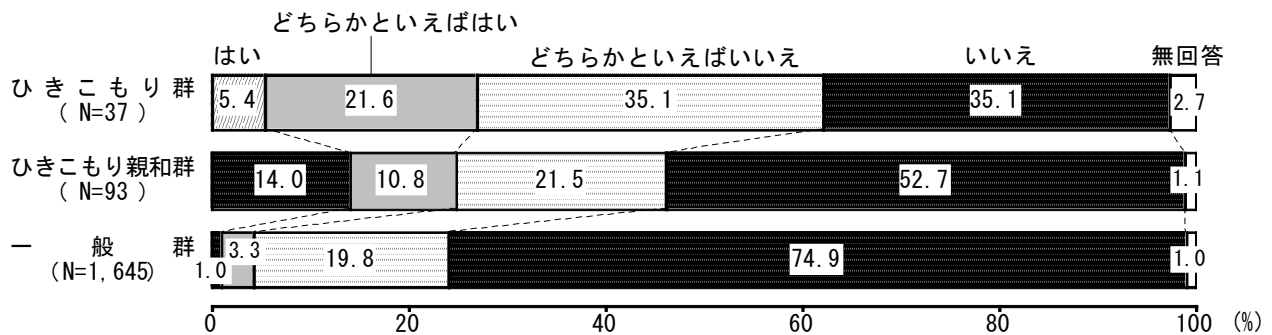
ふだんの生活状況に対する考えのうち、『⑥新聞の政治や経済・社会報道によく目を通す』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“ひきこもり親和群”（42.0%）、“一般群”（40.4%）で4割強に対し、“ひきこもり群”では過半数（54.0%）を占める。

【図表 5-25 ふだんの生活状況『⑦自分の周辺には理不尽と思うことがたくさんある』】



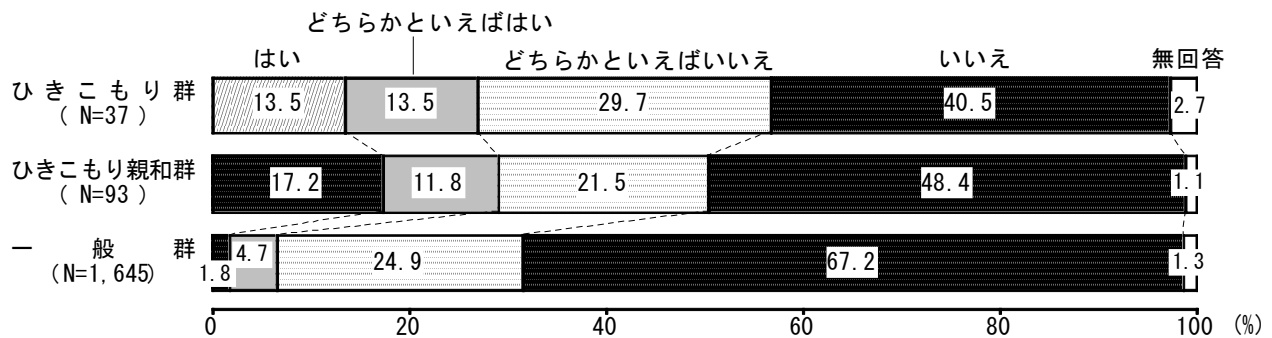
ふだんの生活状況に対する考えのうち、『⑦自分の周辺には理不尽と思うことがたくさんある』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“ひきこもり親和群”で75.2%を占める。これに続くのが、“ひきこもり群”で56.7%、“一般群”で51.9%となっている。

【図表 5-26 ふだんの生活状況『⑧誰とも口をきかずに過ごす日が多い』】



ふだんの生活状況に対する考えのうち、『⑧誰とも口をきかずに過ごす日が多い』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“一般群”で4.3%であるのに対し、“ひきこもり群”では27.0%、“ひきこもり親和群”では24.8%と高くなっている。

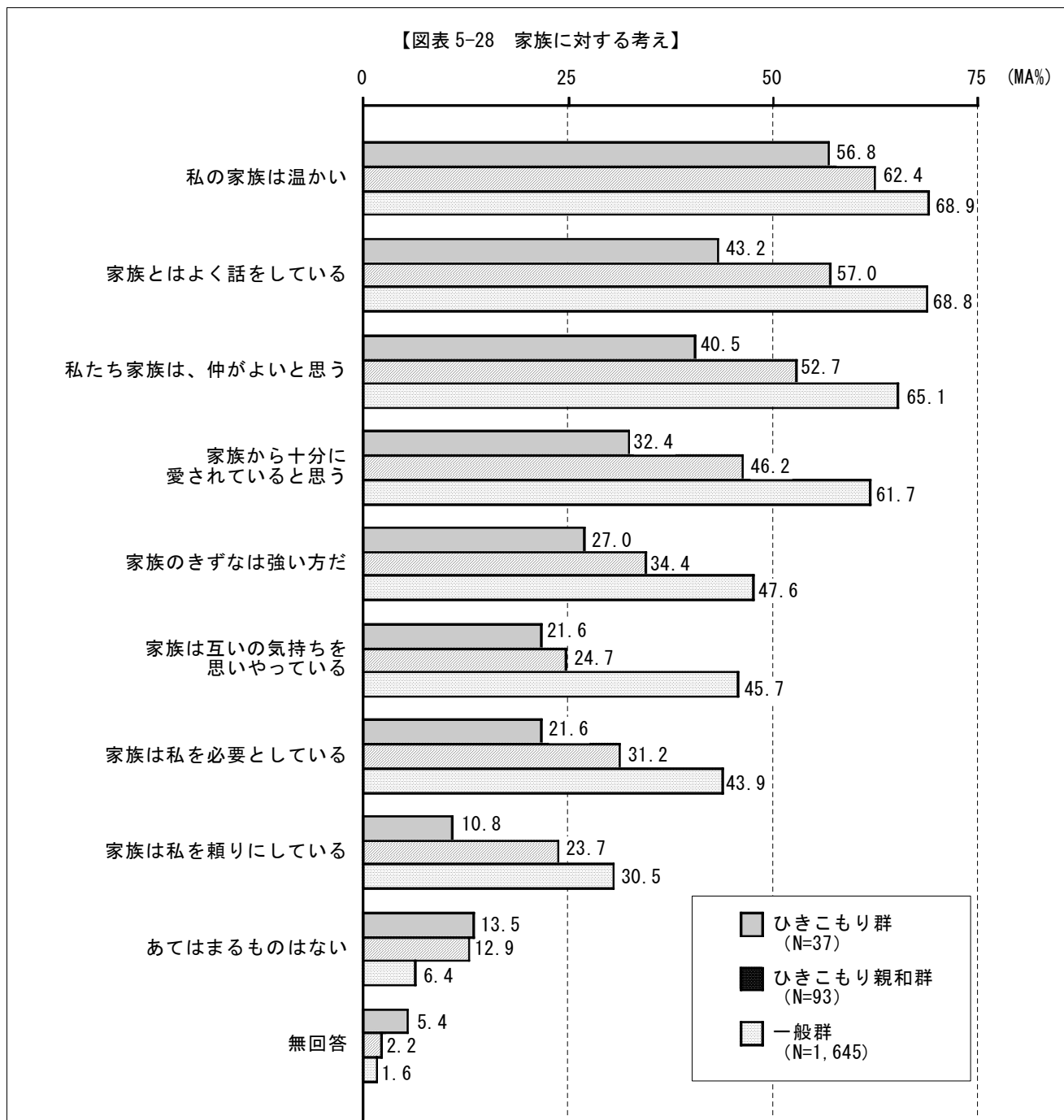
【図表 5-27 ふだんの生活状況『⑨過去の知り合いや縁者に信頼できる人はいない』】



ふだんの生活状況に対する考えのうち、『⑨過去の知り合いや縁者に信頼できる人はいない』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』と回答した人の割合（「はい」「どちらかといえばはい」の計）が“一般群”で6.5%であるのに対し、“ひきこもり群”では27.0%、“ひきこもり親和群”では29.0%と高くなっている。

(4) 家族に対する考え [問36]

問36 次にあげられたことは、あなたのご家族にどのくらいあてはまりますか。
あてはまるものすべてに○を付けてください。(○はいくつでも)

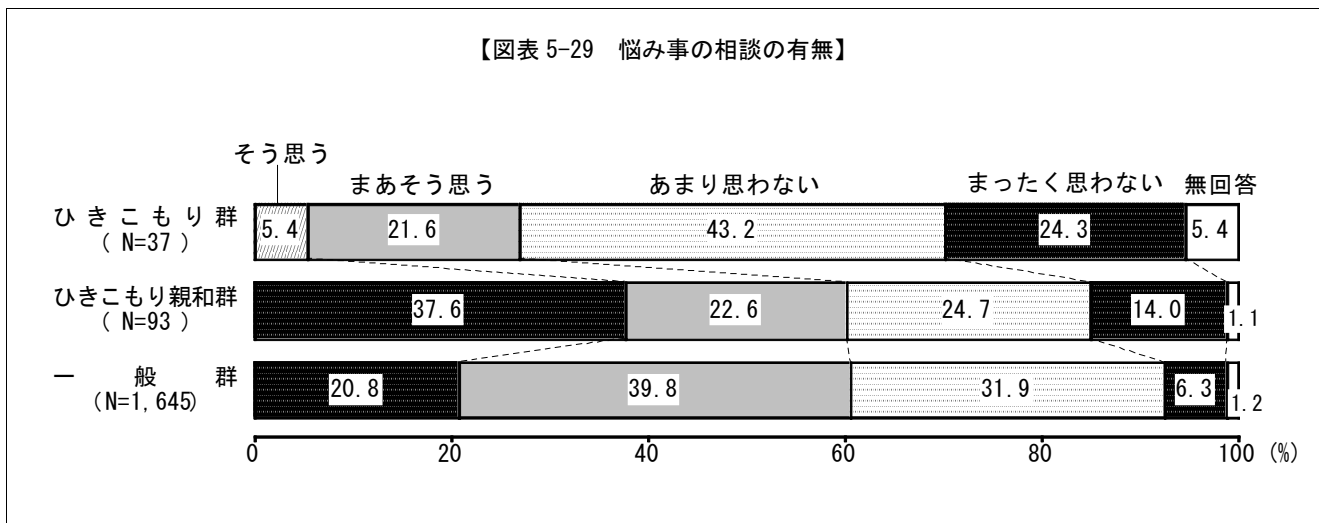


家族に対する考えをたずねたところ、“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”、“一般群”のいずれも「私の家族は温かい」が最も多く、次いで「家族とはよく話をしている」、「私たち家族は、仲がよいと思う」、「家族から十分に愛されていると思う」などとなっている。

項目ごとにみると、いずれの項目においても“一般群”で割合が最も高く、次いで“ひきこもり親和群”、“ひきこもり群”の順に低くなっている。

(5) 悩み事の相談の有無 [問 37]

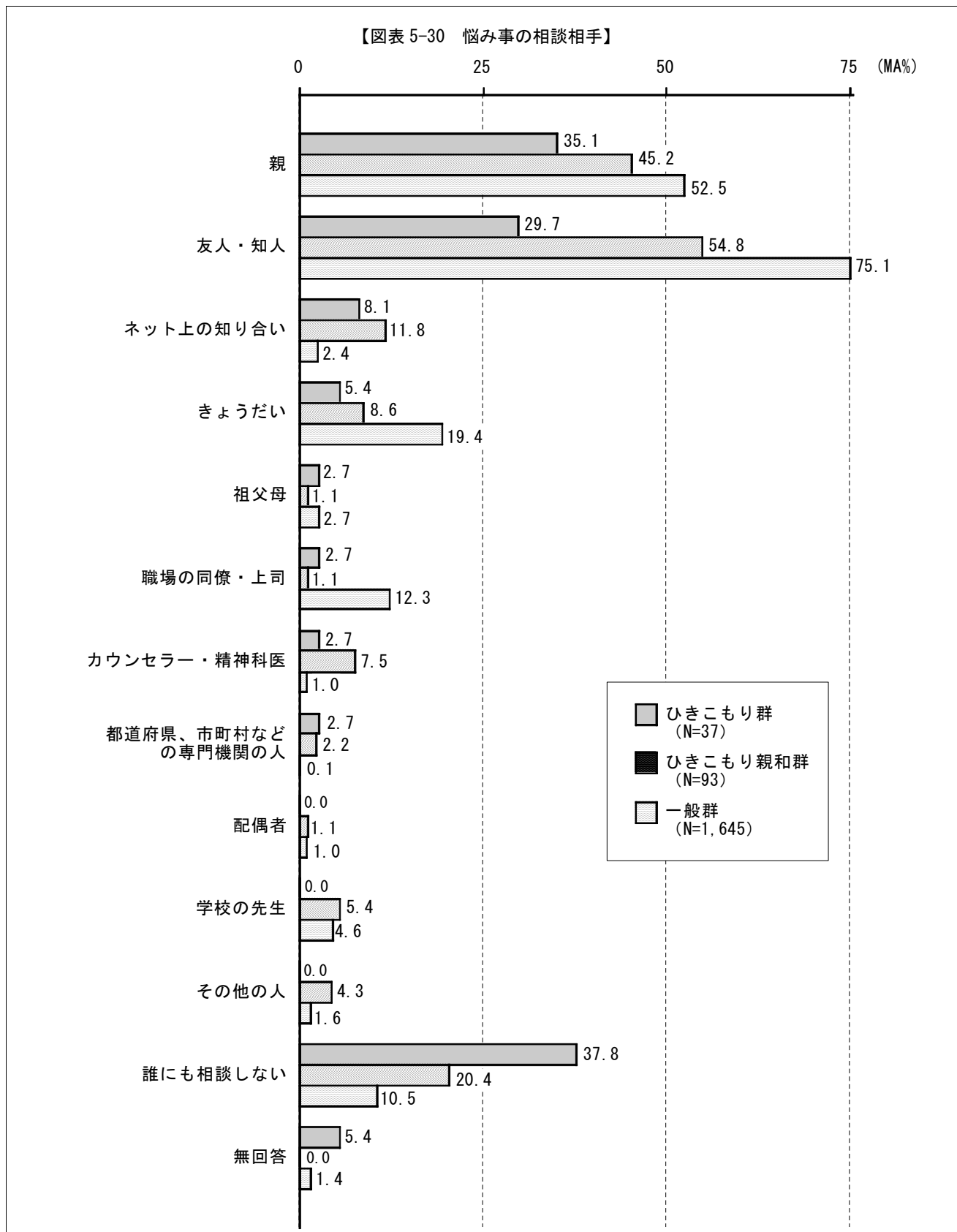
問 37 あなたはふだん悩み事を誰かに相談したいと思いますか。(○はひとつだけ)



ふだん悩み事を誰かに相談したいと思うかたずねたところ、『思う』という割合（「そう思う」、「まあそう思う」の計）が、“一般群”（60.6%）、“ひきこもり親和群”（60.2%）で約6割を占めるのに対し、“ひきこもり群”では3割弱（27.0%）にとどまっている。

(6) 悩み事の相談相手 [問 38]

問 38 あなたはふだん悩み事を誰に相談しますか。(〇はいくつでも)



ふだん悩み事を誰に相談するかたずねたところ、“ひきこもり群”では「親」が35.1%と最も多いのに対し、“ひきこもり親和群”、“一般群”では「友人・知人」がそれぞれ54.8%、75.1%と最も多くなっている。

「親」や「友人・知人」以外での相談相手としては、“一般群”では「きょうだい」がこれに続く一方で、“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”では「ネット上の知り合い」が次いで多くなっている。

また、「誰にも相談しない」が“ひきこもり軍”で4割弱(37.8%)みられる。

6. 自由意見

(1) 社会や大人に対して、何か伝えたいこと

■仕事について	件数
安定雇用(正規雇用を求む)	22
人材育成・正しい人材評価(学歴だけが全てではない)	8
労働条件の見直し(給料・残業・労働者を消耗品と捉えている)	7
女性の社会進出(母子家庭・子育て世代などの雇用)	5
上司への不満・不信感	4
職場環境の改善	2
様々な業種の方に感謝	1
精神不安に伴い仕事に就けない	1
「ブラック企業」の廃業	1
上司リーダーシップ	1
違う会社年齢の人達との交流	1
見習いシステムの導入	1
小計	54

■学業について	件数
教育方針の見直し(ゆとり教育の廃止・道徳教育の見直し)	11
教員の資質	6
学業中心の大学4年を過ごしたい(就職活動が中心の大学生活からの脱却)	4
大学受験制度への疑問感	2
誰もが平等に教育を受ける(収入の格差を越える)	1
教員の増員	1
大学講義の質(高い授業料だが質が低い)	1
低学年にはボーイスカウト等のボランティア活動を取り入れる	1
就職の為の勉学に励んでいる	1
小計	28

■行政について	件数
国会議員・公務員への不信(国・国民のために真面目に働く・不正をなくす・天下り)	33
安定雇用・雇用の確保	21
税金の使い方(無駄使いを止める→特に次世代の者の為にも・教育費医療費への活用増等など)	16
各法案・条例の見直し(子ども手当・高校無償化・生活保護受給者の見直し・青少年育成など)	16
まともな政治(将来を見据えての政治)	15
景気回復	15
現内閣への憤り	10
年金支給の確実性(将来の生活保障)	7
社会福祉の充実・補助(精神・身体)	7
税金が高い	6
視野を広げる	5
決断力の低下・責任感の無さ	2
道路・交通整備(自転車道・車イスなど段差)	2
行政・市役所の就業時間(土日祝)	2
法の整備(いじめ・虐待等)	2
国債を減らす	2
日本全体(国各地方・国民)が一致団結するべき	1

■行政について (続き)	件数
議員数の見直し	1
比例代表制の廃止	1
石原都知事は人の意見を聴くべき	1
法律変更が柔軟でない	1
小計	166

■大人について	件数
自己中心的な考え行動が多い(保身・他者への気遣いに欠ける等)	37
大人としての自覚・責任(社会的道徳・マナー)	29
子どもや若者の気持ちを汲み取る(理解し見守り信じる・ひとり一人に目を向ける)	15
子どもとの対話(ニュースなど現状へ理解・教育・しつけ)	12
大人の威厳の低下(尊敬できない・子どもへの警戒心)	4
社会貢献してほしい	3
子どもを産んだ事への責任	3
特にない→社会人で大人だから	2
大人のいう事は正しい	2
社会人の一員として頑張る	2
うらやましい(特に年金を満額受け取れ、経済的にも安定している世代)	2
危機感がない	1
20代前半のマナーの低下	1
見本になる生き方をしてほしい	1
小計	114

■社会について	件数
「最近の若者は～」などでひとくくりにしないでほしい(今の若者を育てたのは今の大人)	10
マスコミ・ネット報道への信憑性・報道依存・情報の飽和	10
不景気のしわ寄せは若者世代に押し付けられている・今の世の中にしたのは大人の責任	8
努力と結果(成果・評価)が結びつかない	7
物事の平等性・公平な社会	6
将来への不安	6
高齢者・障害者への理解・介護家族への理解	6
思いやりのある社会・弱者に優しい社会	5
閉塞感からの打開	4
生活環境が悪い(犯罪が多い)	4
未来構築・新たなビジョンを作り出す(世界・ソフトバンク・上海教育を参考にする)	4
子ども・若者を甘やかしすぎ	4
タバコのマナー(ポイ捨て・歩きタバコなど)	3
社会への不満(やる気が見えない・無責任)	3
理不尽な事が多い	3
ストレス社会を無くす	2
格差社会の打開(親の収入など生まれ育った固定環境)	2
他人を許す・他者を認める心ある社会	2
子ども若者のSOSを見逃さないでほしい	2
元気がない・活発な社会を作る	2
環境問題への関心	1
今のままで悪いとは思わない	1
「信頼される」社会の構築	1

■社会について (続き)	件数
夢を持って叶えられる社会	1
物事の優先順位が間違っている	1
便利な世の中が大きな意味で世の中を悪くしている	1
求職活動をしているので「ニート」ではない	1
過ごしやすい環境	1
小計	101

■その他	件数
前向きに楽しく生きる・未来を大切にする(自分自身・日本)	10
しっかりしてほしい(政治家も含む)	8
アンケート(無駄・不信・結果の反映がない)	7
感謝している	5
興味が持てない・期待していない	4
経済的精神的に苦しい(生きづらい)・お金がほしい	3
食事の改善(食育・食事療法)	1
社会に出たくない	1
必要悪は今の時代は必要ないと思う	1
Love & Peace	1
お小遣いUP	1
高校1年生からのバイク免許取得	1
自己表現できる環境づくり	1
そんな装備で大丈夫か	1
人並みに色々ある	1
等身大の自分自身を見つめる	1
嘘はつかないでほしい	1
自分の親を尊敬している	1
政治が子どもたちに悪影響を与えている	1
何かが自分とは違う	1
皆さんは幸福ですか?	1
小計	52

合 計	515
-----	-----

(2) 同世代の人達について思うこと

■仕事について	件数
就職への危機感が薄い(バイト・フリーター・ニート)	11
安定雇用(就職できるか不安・弱者を受入れてほしい)	8
中卒・高卒・専門卒でも就職が決まっている人はすごい	2
子育て世代(女性)就職がない	2
無職でも、働く意志活動がある者と働く意志もない者とは同じくくりにしないでほしい	2
正社員より派遣が多い	1
状況判断ができていない	1
就きたい仕事を探す	1
小計	28

■学業について	件数
勉強できる時に勉強をする	3
就職活動が大変(学業より時間を割かれる)	2
卒業環境によって考えが違う(高卒・大卒)	1
「ゆとり教育」で学力が低下している	1
授業中の態度(喋っている・寝ている・携帯をさわる)	1
文系大学生は授業をサボりすぎ	1
皆高校は卒業してほしい	1
充実した学生生活を送ってほしい	1
部活をするべき	1
学ぶ事の楽しさ・教えることの難しさを知るべき	1
小計	13

■行政について	件数
少子化対策(子育て支援)	3
医療費を下げる	1
市政はこのような問題を放置してきた	1
小計	5

■社会について	件数
マナー・モラルをもって行動する	23
自己中心的である・周りをかえりみない	23
行動力を養う(やりたい事をやる・先を見据える計画性)	17
いじめ・いじめなどによる自殺・虐待をとめる(逃げ出してい、強く生きてほしい・死なないでほしい)	15
今後「ゆとり世代」と言われた若者が日本を支え、日本の将来に責任を持つ意識改革が必要	15
精神年齢が低い(年相応ではない)	13
飲酒・喫煙・髪を染めれる・夜遊び・服装の乱れなどやめる	11
忍耐力に欠ける	11
依存心が強い(親・他人)	8
結婚がしづらい・離婚が当たり前になっている(先ずは仕事を探すか先決)	8
メディア・ネットに依存している	8
格差社会(親の経済状態)	7
自立心がない(精神的・経済的)	7
大人としての意識・責任を持った行動	5
ひきこもりをやめる	5
二極化が進んでいる	4
向上心がない	4
薬物依存	1
高齢化社会だ	1
小計	186

■その他	件数
皆頑張っている・頑張ろう	33
ダメな若者が多い・しっかりしてほしい・考えが甘い	15
自信が持てない(集団行動・意志疎通ができない・人に合わせる・比べる・個性がない)	14
同世代について何も思わない・無関心(自分は自分、人は人、いろんな人がいるから)	12
考え方が安易(危機感がない・現実を見つめる)	11
夢を持つ(どんな些細な夢でも良い・車を買う・旅行に出かける)	8
元気がない	6
歴史や政治・経済に関心を持つ・選挙へ行く	5
相談・話を聞く人を持つ	5
海外へ出る・異文化との交流(視野が狭い)	4
将来への不安	3
楽しい・いい人	3
親の育て方	3
自分や他人を大切にする	3
先の事ばかり心配しても仕方ない	2
時代が悪い(自分達で築いた政策・世の中ではない)	2
今何をしているのか	2
どこで生き方が変わったのだろう	2
髪の毛がある	1
努力家である	1
日本語が汚い	1
家族との関わりが少ない	1
この質問の意図が分からない	1
生きる事は素晴らしい	1
リア充爆発しろ	1
時間を無駄にするな	1
冷静な人・クールな人が多い	1
何かを変えようとして、何が変わったか疑問	1
他国に食われてしまう	1
若いうちに苦労した方がよい	1
普通の生活を送って幸せになってほしい	1
かわいそう	1
平和が一番	1
人付き合いが希薄	1
若い人の意見(若者にしか気付かないこと)を声を大にして伝えてほしい	1
小計	150
合計	382

(3) 豊中市の若者雇用・就労支援施策について

■就労支援施策について	件数
若者を含め平等に積極的に雇用する・雇用の拡充	49
セミナー・講習会・訓練など開く	14
働く意志があるのに職がない人だけに支援してほしい	10
市役所が人をもっと雇う(臨時職員の雇用延長)・市の施設活用から雇用を生み出す	9
教育において働くことの意義を教える・教育レベルを上げる・ボランティアに参加させる	9
就労支援に税金投入は納得できない	7
時給・給与を上げる	7
施策に期待している・頑張してほしい・真面目に取り組んでほしい	7
高齢者・障害者・弱者の雇用や支援	7
機会があれば利用する	5
企業側への雇用機会アップを図る	4
ハローワーク一辺倒(行っても仕事が見つからない)	4
資格取得・大学進学・インターンシップ支援を充実させてほしい	3
出産後女性が働ける環境づくり(保育所増設)	3
雇用問題の国府市の一元化(市レベルだけでは解決できない)	3
就職への不安(卒業後の就職がない)	3
税金を投入しても支援促進しても良い	2
学生の就職活動を円滑に出来るようにする(大学3回生からでは学業優先できないなど)	2
短時間労働でもあれば嬉しい	2
会社員の休暇を増やす	1
市からの支援が少ない	1
派遣会社の個人情報管理	1
若者を積極的に導入している方だ	1
教育・医療・福祉に税金を使い雇用を生み出す	1
大人のいい加減さが子供にしわ寄せが来ている	1
支援してくれるのであれば頼りにしたい	1
若者の雇用は市の活力に直結する	1
もっと良い条件が必要	1
「とよジョブ」は役に立たない	1
ペット業界の勤務状況の改善	1
この施策は外国人雇用には良い	1
小計	162

■行政について	件数
豊中市の就労支援施策を知らない	71
広報不足	23
雇用情報のオープン	8
職がなく収入がないのに税金を取られる・市民税金が高額	4
税金の使い方を正す	2
若者の活用(ゴミ拾い・緑化対策・商店街活用)	2
社会的自立の援助	1
南部の開発	1
府知事のいいなりになるな	1
高齢公務員の退職年齢の引き下げ	1
「すてっぷ」などの施設は良い	1
自転車回収・収容所に人を雇いすぎ(最大2人でいい)	1
ひきこもり・ニートへの支援	1
小計	117

■社会について	件数
学歴社会から向け出す・適材適所の人材(高学歴が良い人材とは限らない・高学歴＝高収入はおかしい)	7
景気回復	5
国・政治家の行動力を上げる	2
自分の胸に手を当てて考えてみれば良い	2
若者というだけでバカにしないでほしい	2
格差社会	1
若者特にゆとり世代は根性がない	1
やる気の問題だ	1
小計	21

■その他	件数
アンケート内容へ不満	11
このアンケート結果分析と活用	9
仕事を選びすぎている	3
まだ雇用や就職について考えたことがない	3
仕事をするのが嫌だから大人になりたくない	1
部活しているとバイトがしにくい	1
科捜査に入りたい	1
安心して暮らせる住まいが欲しい	1
ありがとうございました	1
小計	31

合計	331
----	-----

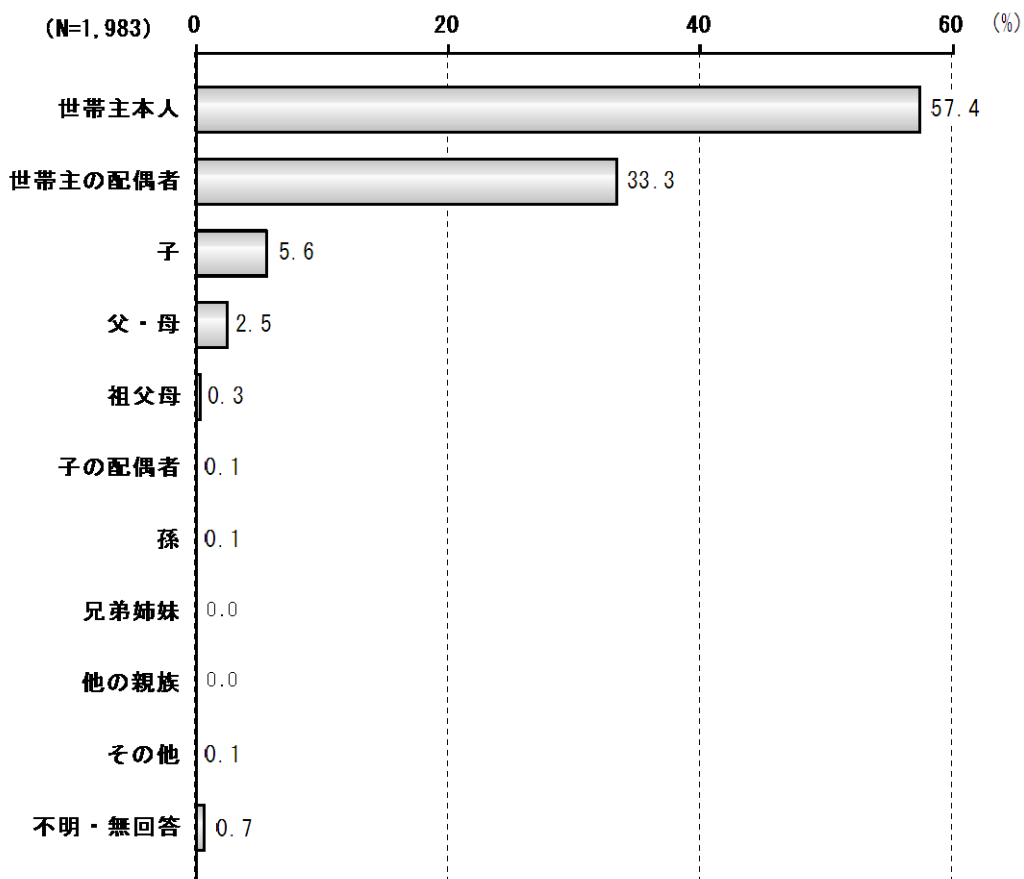
Ⅱ 若者の就職・求職をめぐる市民意識調査 (世帯票)

1. 基本属性

(1) 世帯主からみた続柄 [問1]

問1 ご回答者と世帯主との関係をお答えください。(〇はひとつだけ)

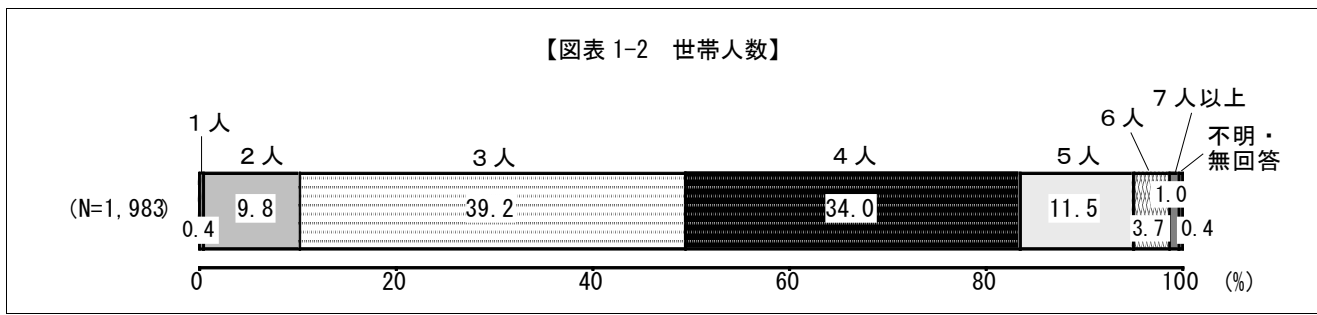
【図表 1-1 世帯主からみた続柄】



世帯主からみた回答者の続柄としては、「世帯主本人」が 57.4%と最も多く、次いで「世帯主の配偶者」33.3%、「子」5.6%、「父・母」2.5%などとなっている。

(2) 世帯人数 [問2]

問2 現在同居している人は合計で何人ですか。あなたも含めた人数を記入してください。
(数字で具体的にご記入ください。)



世帯人数としては、「3人」が39.2%と最も多く、次いで「4人」34.0%、「5人」11.5%などの順となっている。

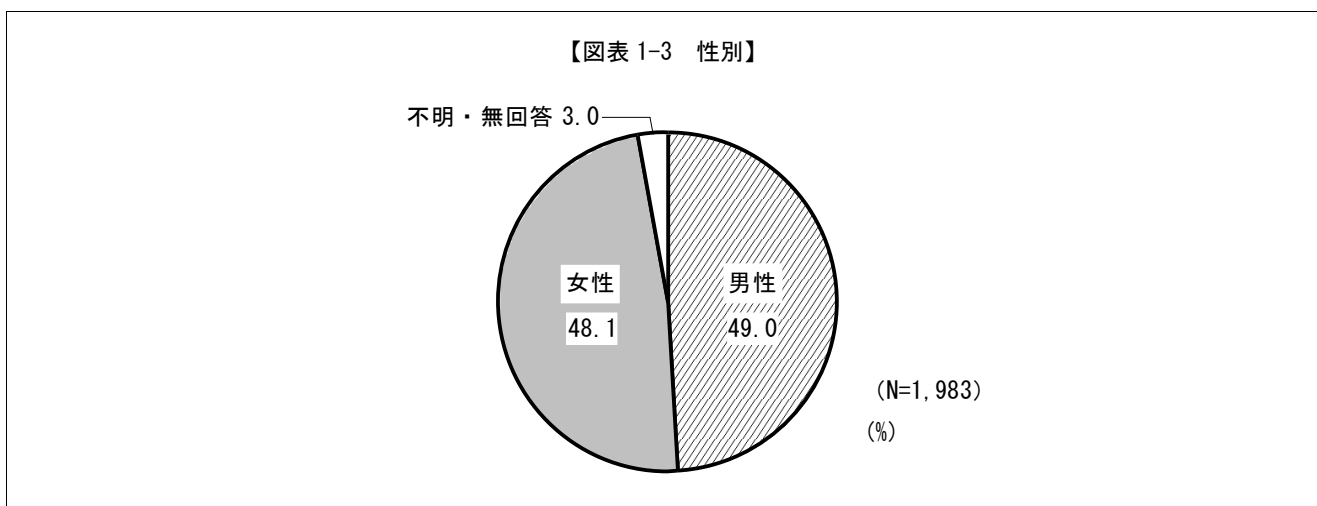
また、世帯人数の平均は3.6人となっている。

(※以下、問3においては、回答者本人(あなた自身)の結果についてのみ記載する)

(3) 回答者属性 [問3]

① 性別

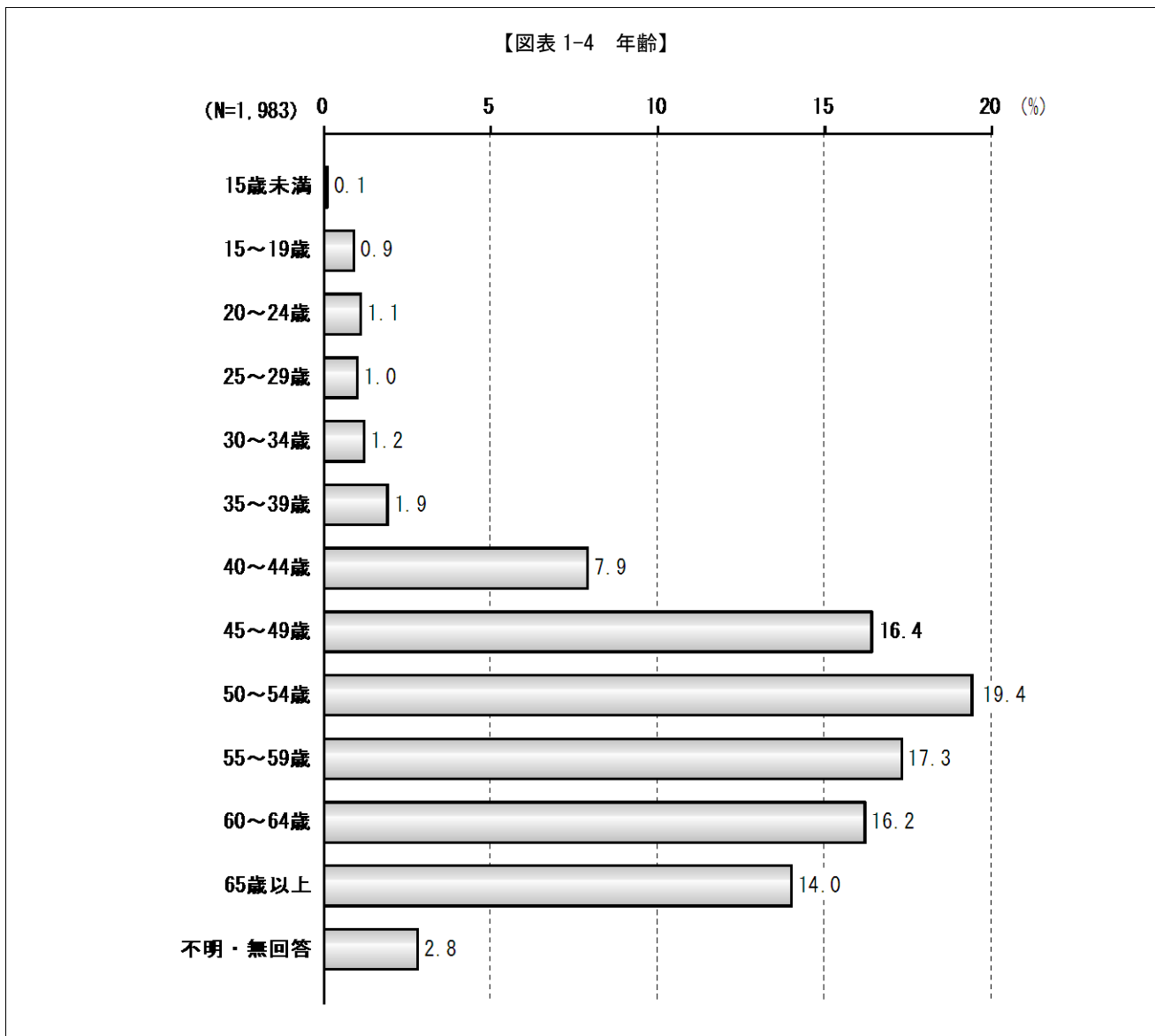
問3 現在同居しているご家族の方それぞれについて、次の質問にお答えください。
①性別



回答者の性別構成としては、「男性」49.0%に対し、「女性」48.1%となっている。

② 年齢

②年齢

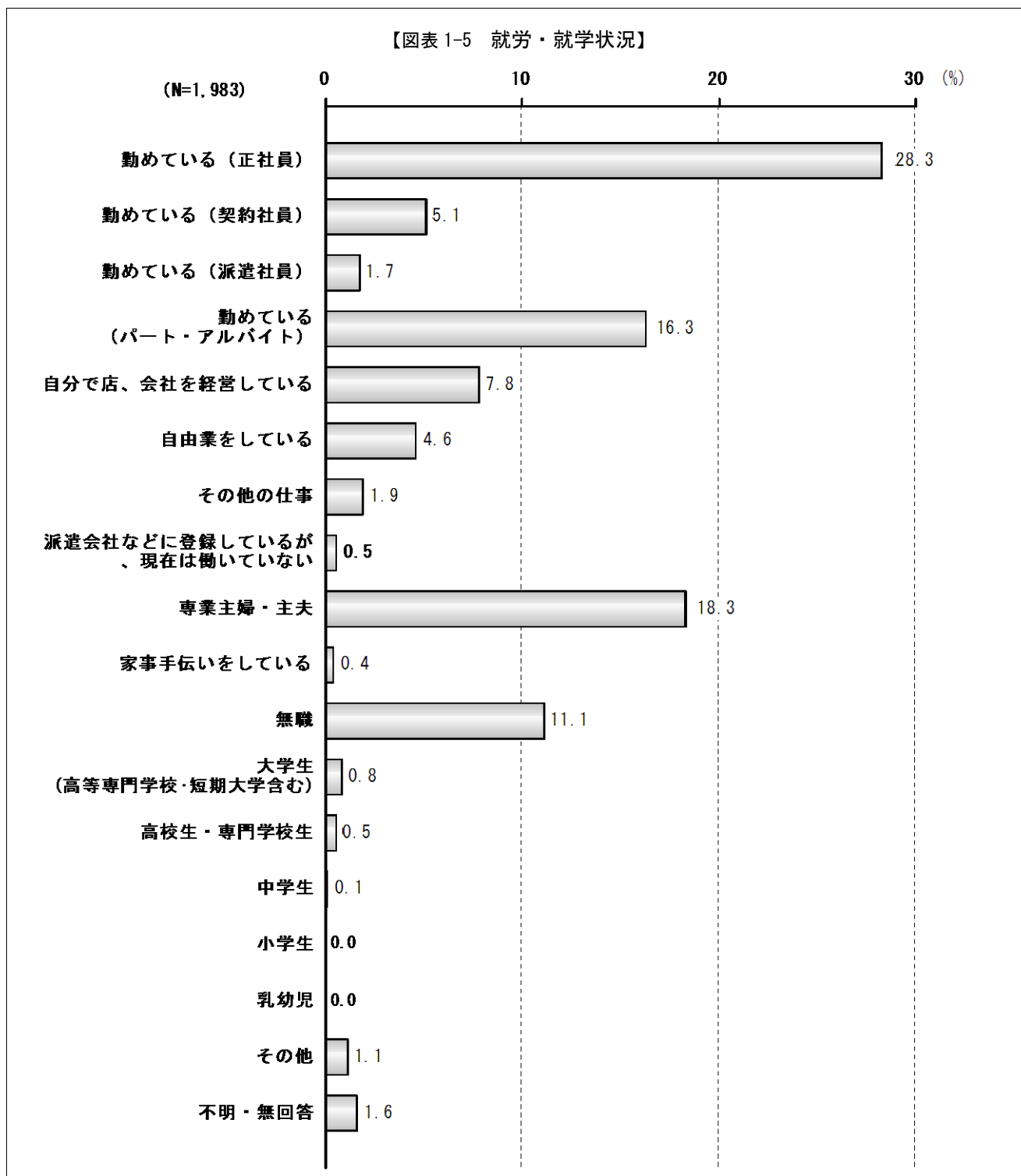


回答者の年齢構成としては、「50～54歳」が19.4%と最も多く、次いで「55～59歳」17.3%、「45～49歳」16.4%、「60～64歳」16.2%の順となっている。

また、45歳以上の割合を合わせると、全体の8割台（83.3%）を占める。

③ 就労・就学状況

③現在の就労・就学状況は。(主なものに○はひとつ)

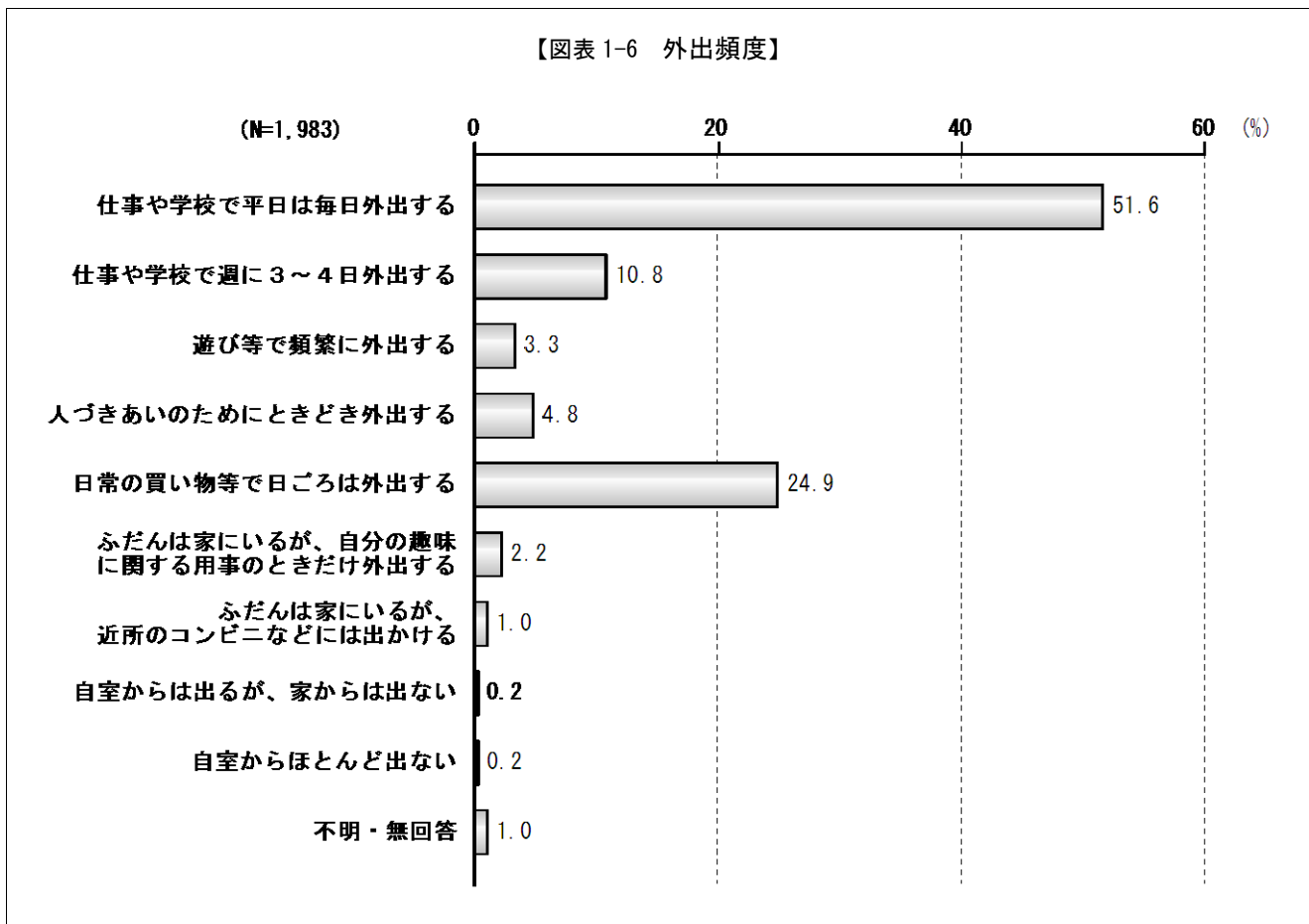


回答者の就労・就学状況をたずねたところ、「勤めている (正社員)」が 28.3%と最も多く、次いで「専業主婦・主夫」18.3%、「勤めている (パート・アルバイト)」16.3%、「無職」11.1% などとなっている。

なお、現在働いている人の割合は、全体の 65.7%となっている。

④ 外出頻度

④ふだんどのくらい外出しますか。(○はひとつだけ)



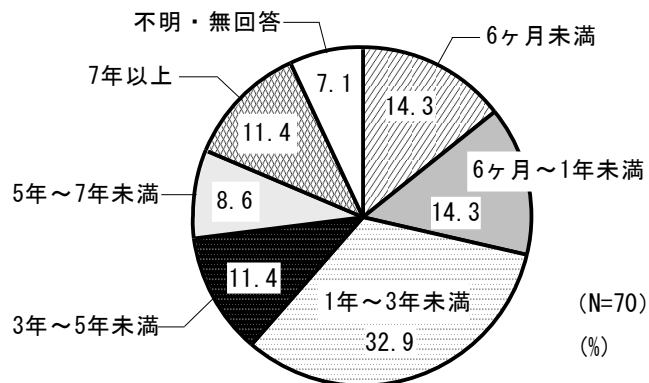
回答者の外出頻度をたずねたところ、「仕事や学校で平日は毎日外出する」が 51.6%と最も多く、次いで「日常の買い物等で日ごろは外出する」24.9%、「仕事や学校で週に3～4日外出する」10.8%などとなっている。

⑤ ほとんど外出しない状態となつてからの経過期間

【『④外出頻度』において「6.」から「9.」のいずれかに○を付けた方に】

付問④ 現在の状態となつてどのくらい経ちますか。(○はひとつだけ)

【図表 1-7 ほとんど外出しない状態となつてからの経過期間】



ふだんほとんど外出することはないという人に、その状態となつてからの経過期間をたずねたところ、「1年～3年未満」が 32.9%と最も多く、次いで「6ヶ月未満」、「6ヶ月～1年未満」がともに 14.3%などとなっている。

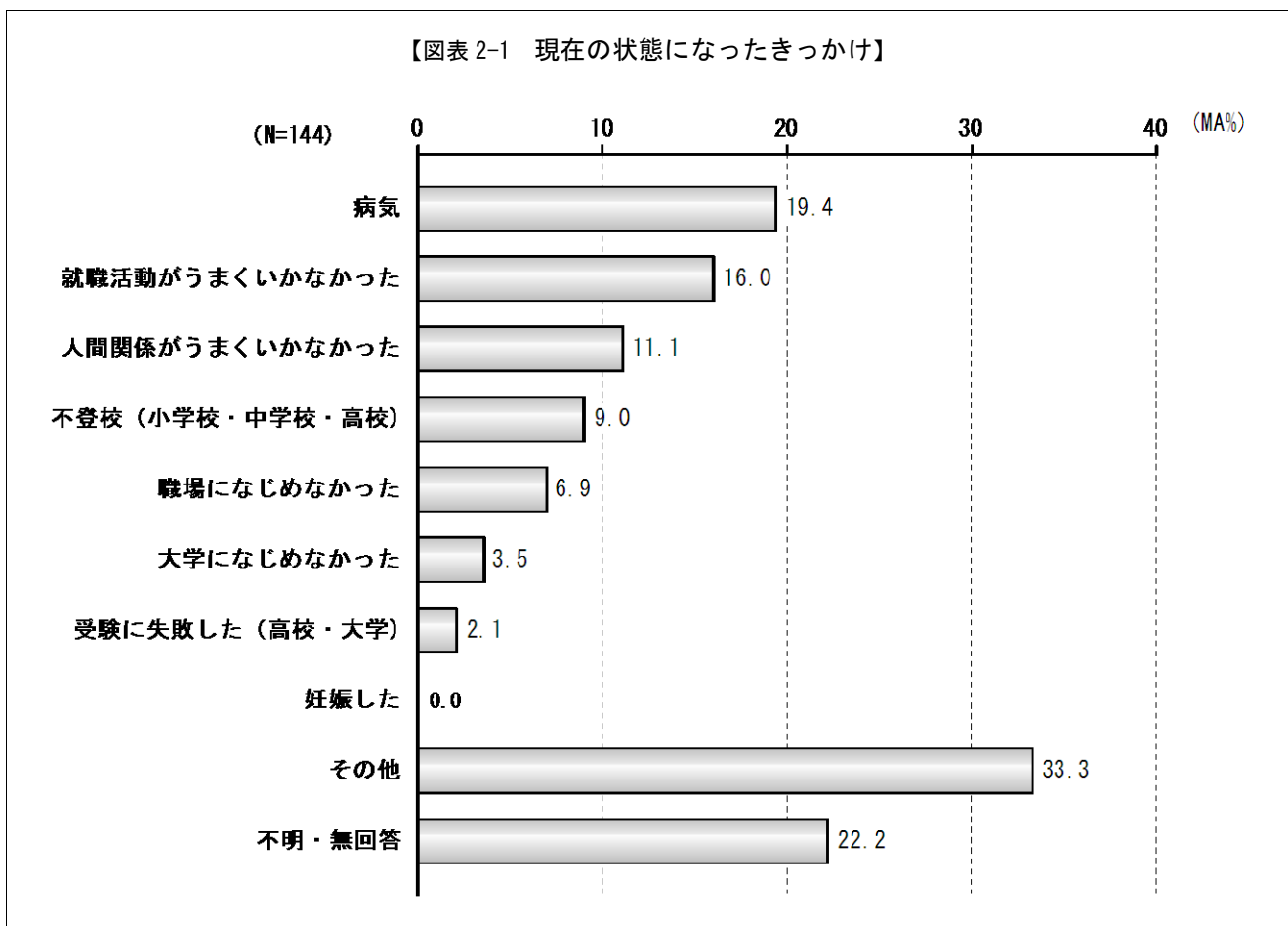
2. ひきこもりの状況について

(※問4から問14までの質問は、同居家族の中に、次の①と②の両方ともあてはまる方がいる世帯(=144件)を対象としている。)

- ① 日ごろの外出頻度が、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」のいずれか1つでもあてはまる。
- ② ①の状況が6か月以上継続している。

(1) 現在の状態になったきっかけ [問4]

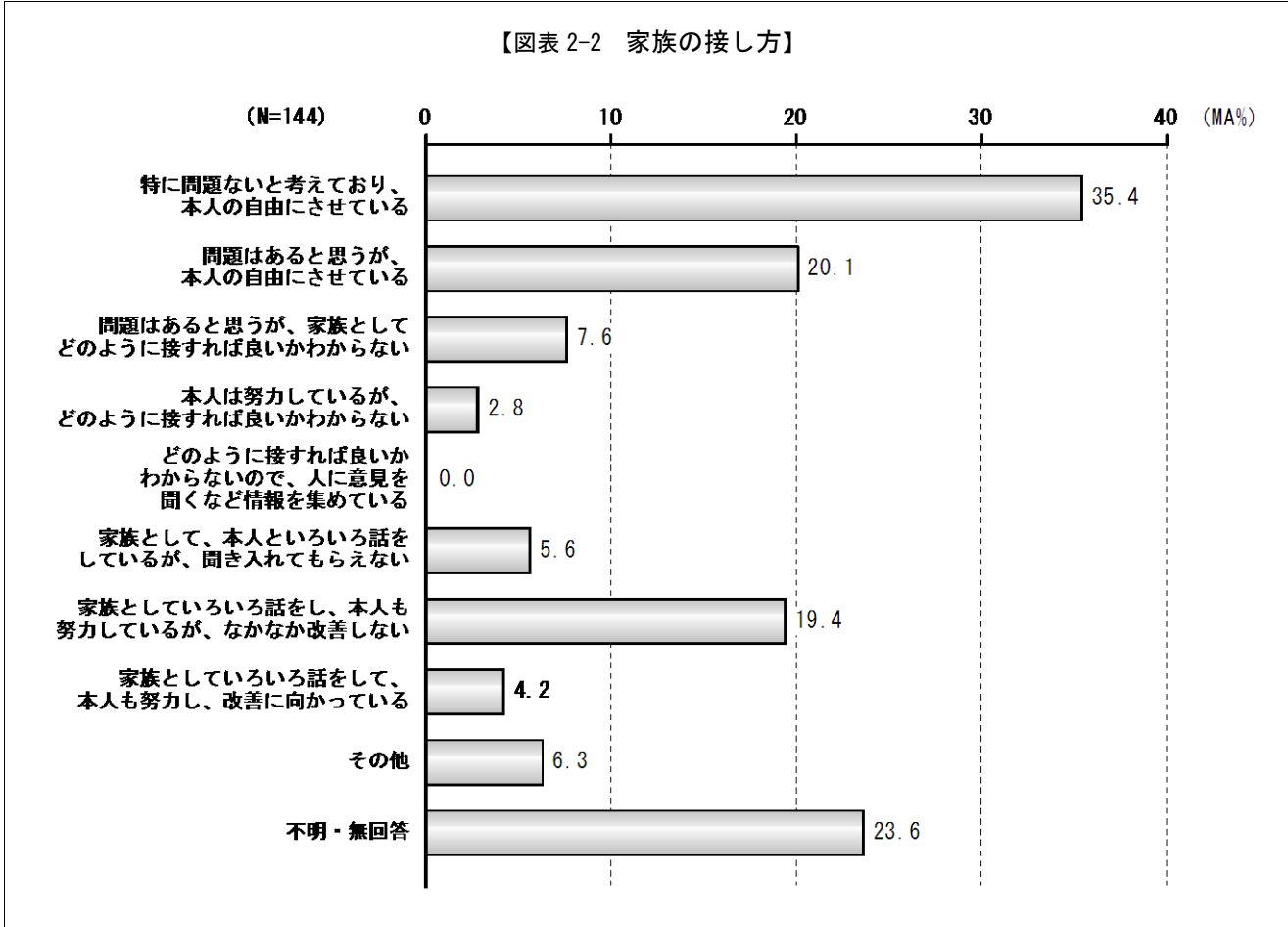
問4 上記の状況にあてはまる方が現在の状態になったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)



ほとんど外出しない状況が続くようになったきっかけをたずねたところ、「病気」が19.4%と最も多く、次いで「就職活動がうまくいかなかった」16.0%、「人間関係がうまくいかなかった」11.1%などとなっている。

(2) 家族の接し方 [問5]

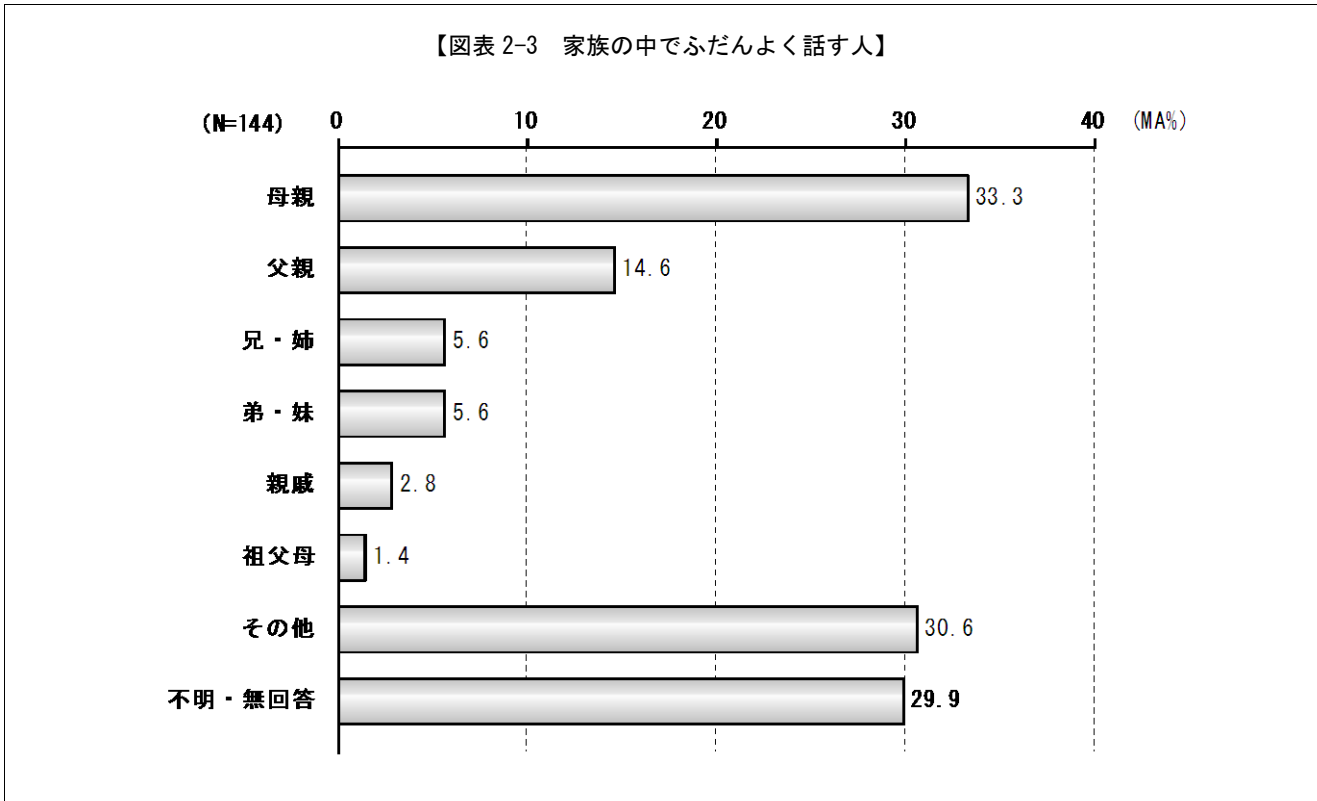
問5 その方(上記の状況にあてはまる方。以下同様)に対し、ご家族は、ふだんどのように接していますか。あてはまるものすべてに○を付けてください。(○はいくつでも)



ほとんど外出しない状況が続いている方に対する家族の接し方をたずねたところ、「特に問題ないと考えており、本人の自由にさせている」が35.4%と最も多く、次いで「問題はあると思うが、本人の自由にさせている」20.1%、「家族としていろいろ話をし、本人も努力しているが、なかなか改善しない」19.4%などとなっている。

(3) 家族の中でふだんよく話す人 [問6]

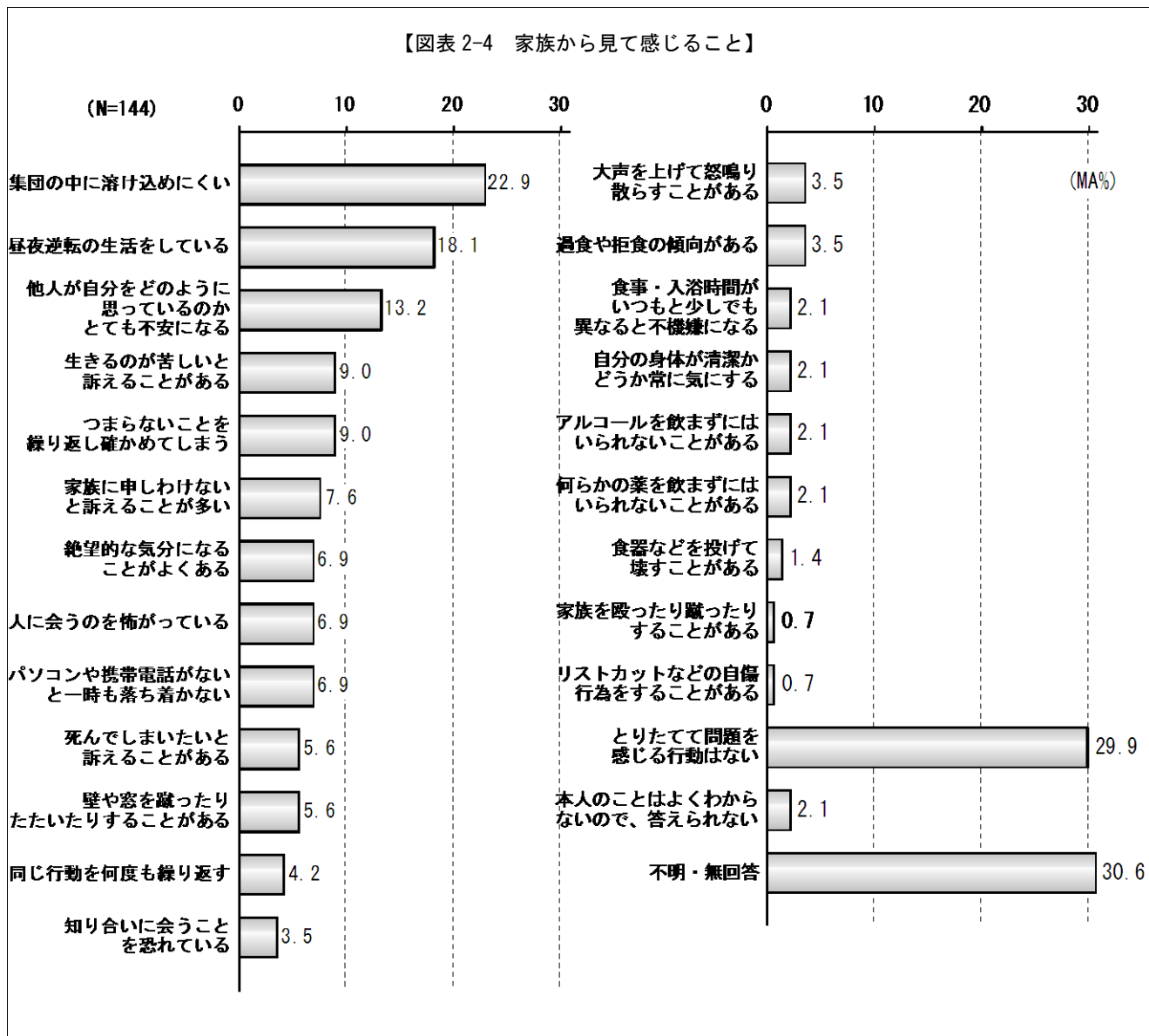
問6 家族の中で、その方がふだんよく話す人すべてに○を付けてください。(○はいくつでも)



ほとんど外出しない状況が続いている方が、家族の中でふだんよく話す人をたずねたところ、「母親」が33.3%と最も多く、次いで「父親」14.6%などとなっている。

(4) 家族から見て感じる事 [問7]

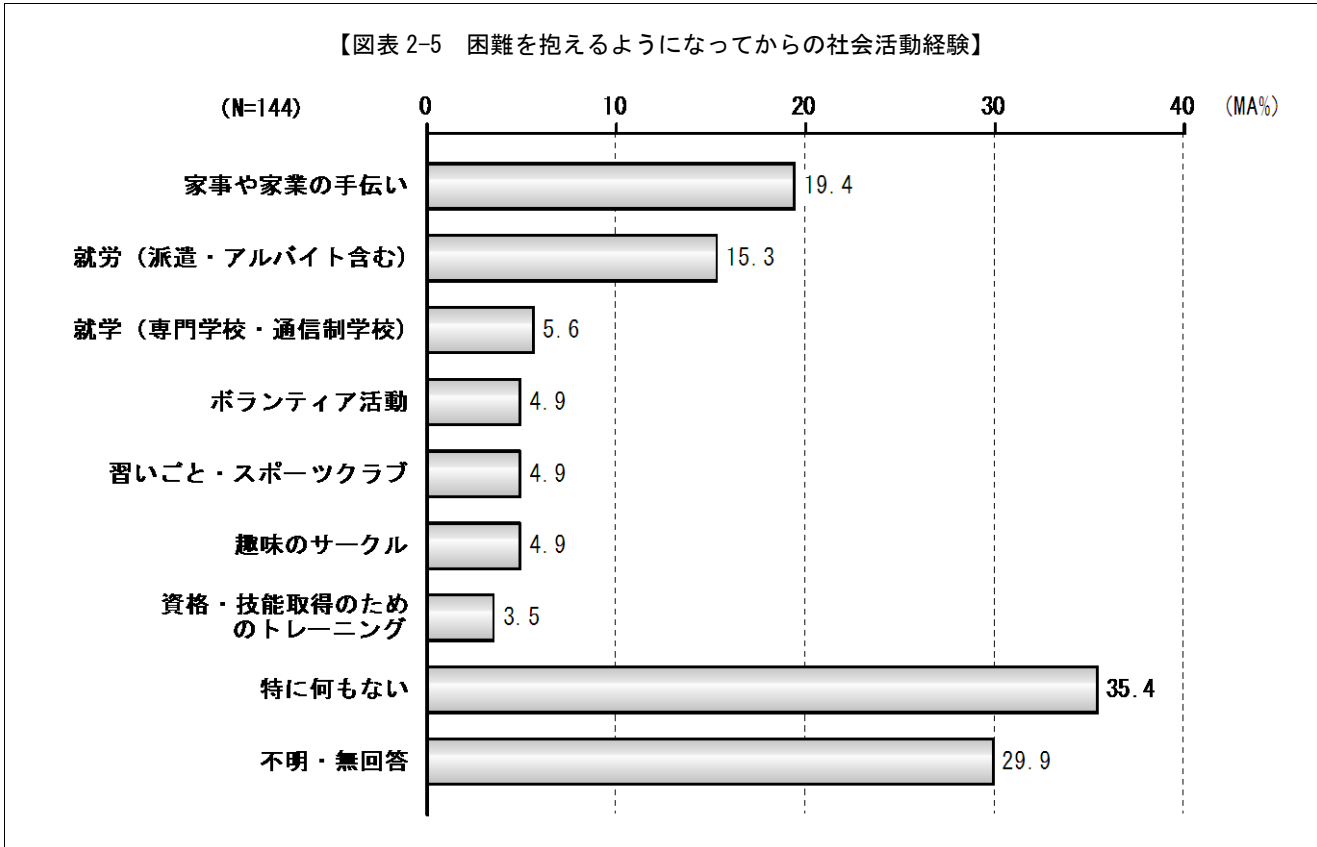
問7 次の項目について、あなたからみて、その方にあてはまると思えることすべてに○を付けてください。(○はいくつでも)



回答者からみて、ほとんど外出しない状況が続いている方にあてはまると思えることをたずねたところ、「とりたてて問題を感じる行動はない」が 29.9%と最も多い。一方、何かしらの問題を感じている人の内訳としては、「集団の中に溶け込みにくい」が 22.9%と多く、次いで「昼夜逆転の生活をしている」18.1%、「他人が自分をどのように思っているのかとても不安になる」13.2%などとなっている。

(5) 困難を抱えるようになってからの社会活動経験 [問8]

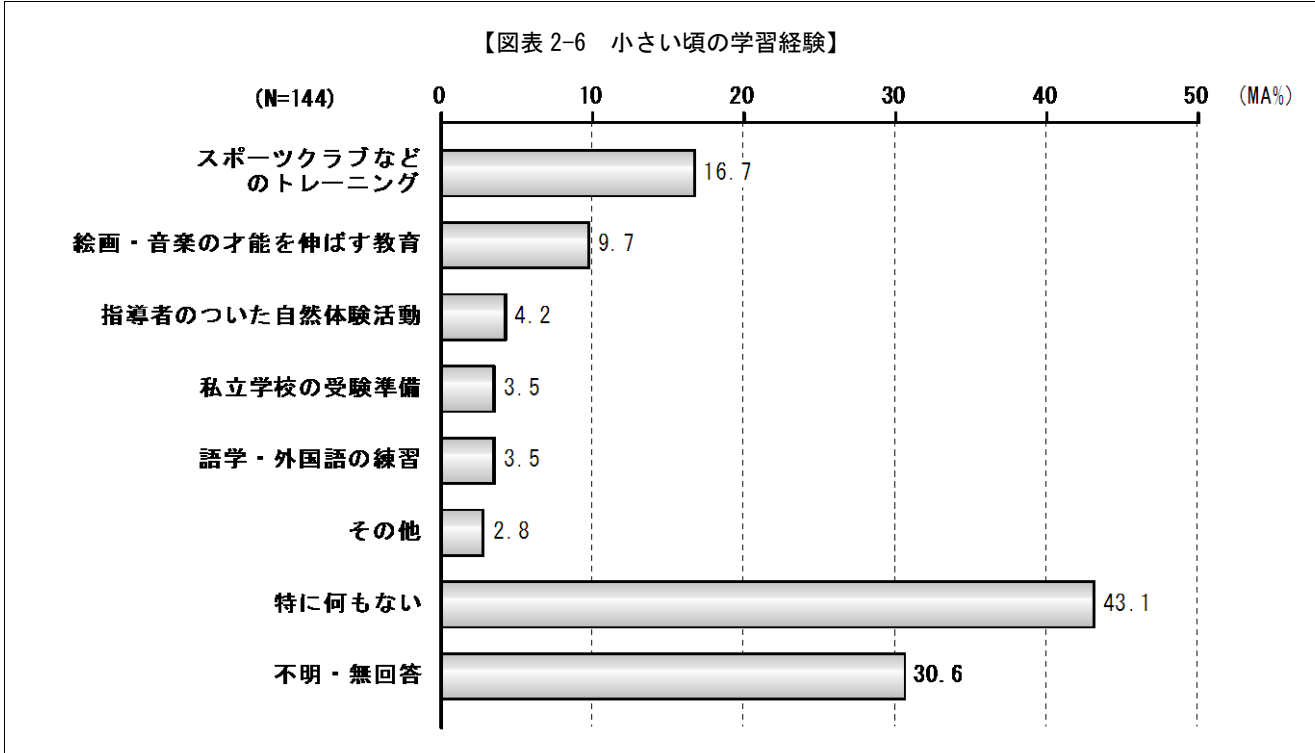
問8 その方が困難を抱えるようになってから、これまで行ってきた社会活動について、あてはまるものすべてに○を付けてください。(○はいくつでも)



ほとんど外出しない状況が続いている方が困難を抱えるようになってから、これまで行ってきた社会活動についてたずねたところ、「特に何もない」が 35.4%と最も多い。一方、いずれかの活動を行ったという人の内訳としては、「家事や家業の手伝い」が 19.4%と多く、次いで「就労 (派遣・アルバイト含む)」 15.3%などとなっている。

(6) 小さい頃の学習経験 [問9]

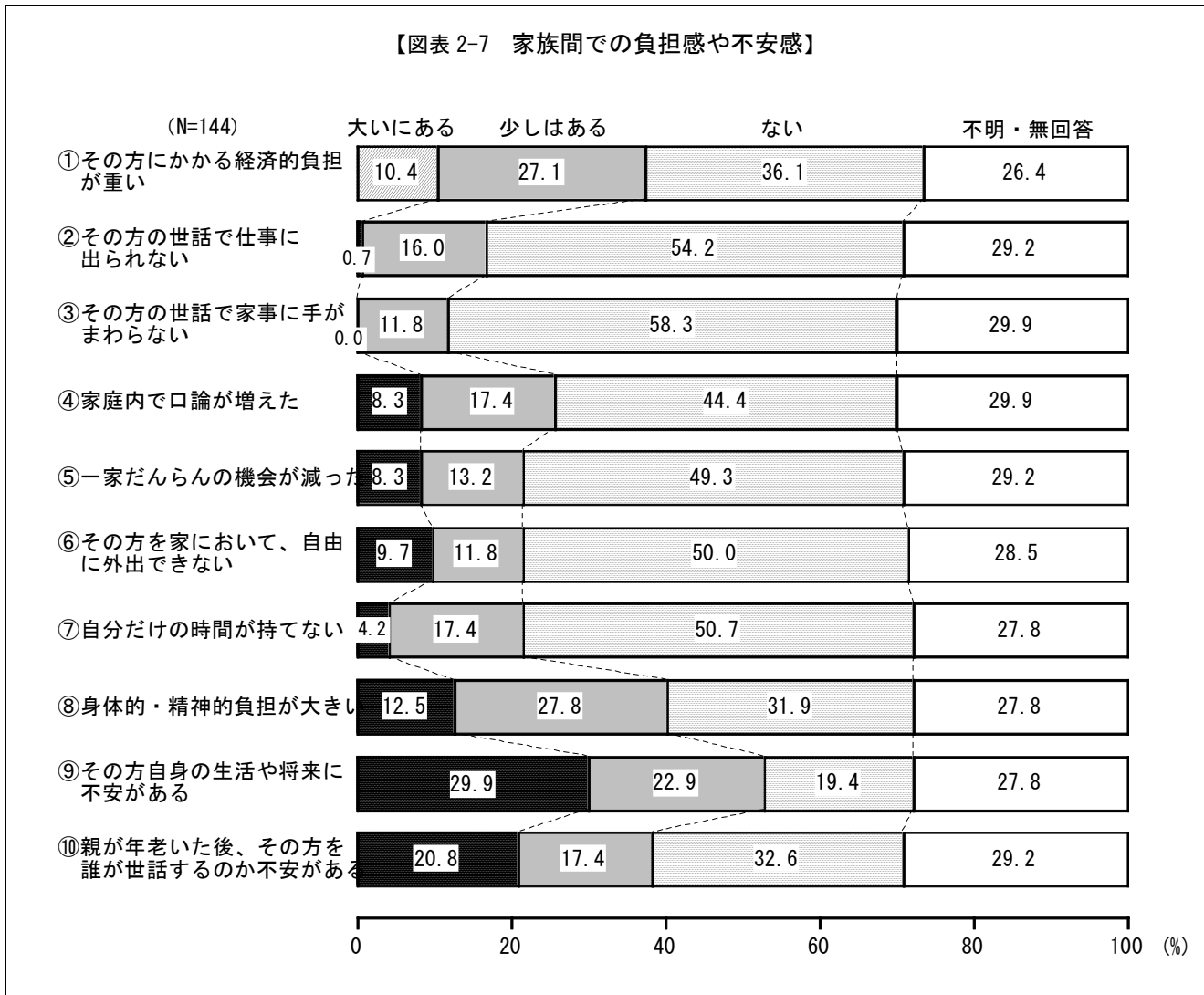
問9 その方は、小さい頃（おおむね小学生までの時）に、次のような学習を経験したことはありますか。（〇はいくつでも）



ほとんど外出しない状況が続いている方の小さい頃の学習経験についてたずねたところ、「特に何もない」が43.1%と最も多い。一方、いずれかの学習経験があるという人の内訳としては、「スポーツクラブなどのトレーニング」が16.7%と多く、次いで「絵画・音楽の才能を伸ばす教育」9.7%などとなっている。

(7) 家族間での負担感や不安感 [問 10]

問 10 最近数か月間を通して考えた場合、その方に関して、次のようなことはどの程度ありましたか。あなたの考えにあてはまる番号に○を付けてください。(○はひとつの項目につきひとつ)

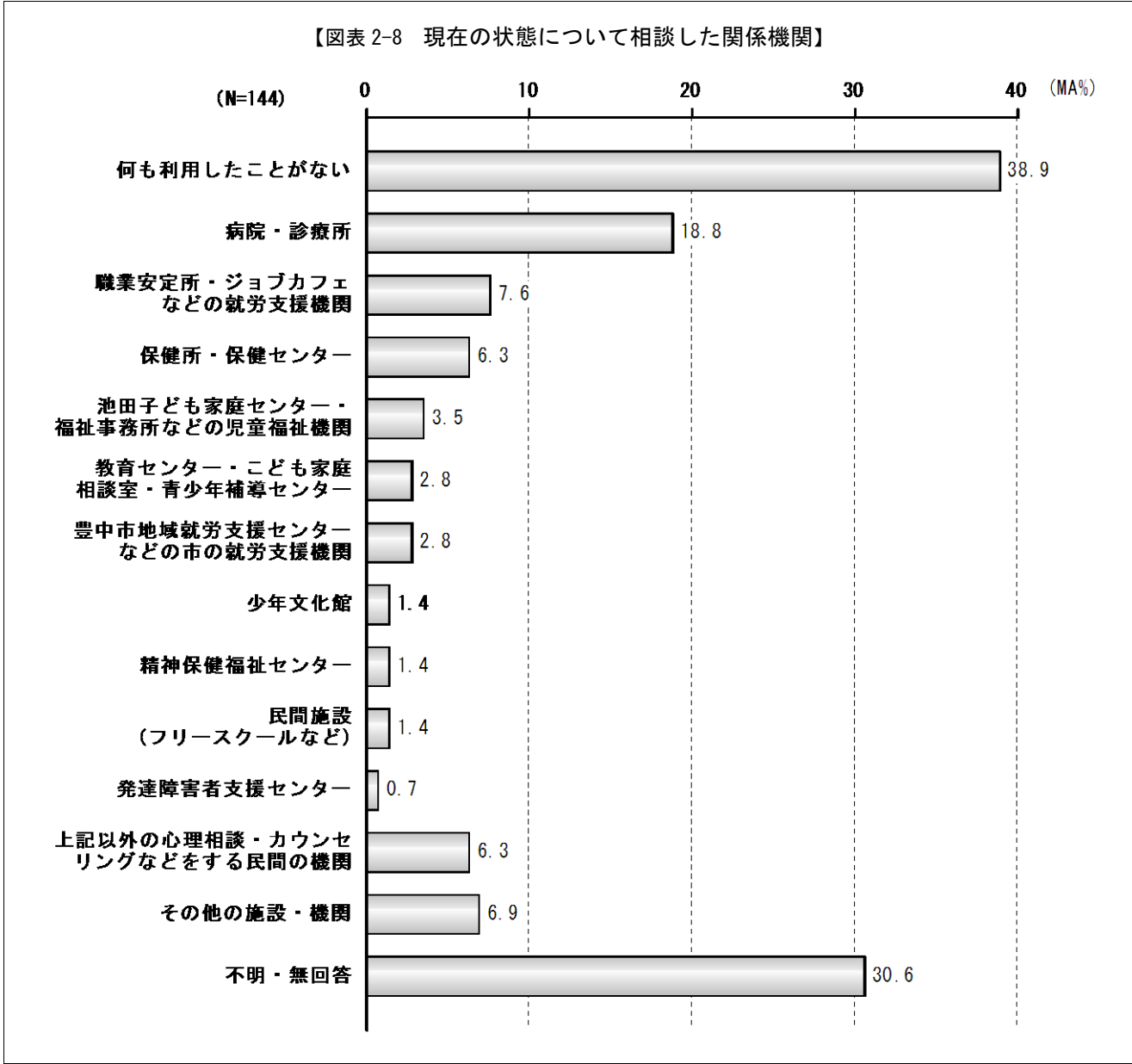


最近数か月間を通して考えた場合での家族間での負担感や不安感として主な 10 項目についてたずねたところ、「大いにある」が「⑨その方自身の生活や将来に不安がある」で約 3 割 (29.9%) と最も高く、「少しはある」(22.9%) を合わせると、『ある』という割合が過半数 (52.8%) を占める。また、これに続くのが、「⑩親が年老いた後、その方を誰が世話するのか不安がある」で 2 割強 (20.8%) などとなっている。

『ある』という割合(「大いにある」「少しはある」の計) でみると、上記項目の他、「⑧身体的・精神的負担が大きい」、「①その方にかかる経済的負担が重い」においても高くなっている。

(8) 現在の状態について相談した関係機関 [問 11]

問 11 現在のその方の状態について、関係機関に相談しましたか。相談したことがある機関に○を付けてください。(○はいくつでも)

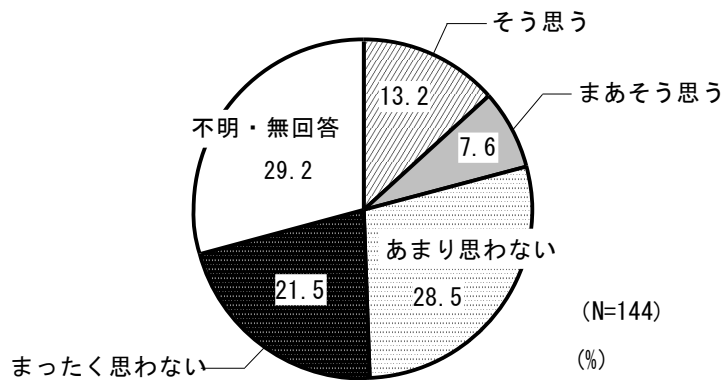


ほとんど外出しない状況が続いている方の状態について、関係機関への相談経験をたずねたところ、「何も利用したことがない」が4割弱（38.9%）を占める。いずれかの機関に相談したことがあるという人の内訳としては、「病院・診療所」が18.8%と多く、次いで「職業安定所・ジョブカフェなどの就労支援機関」7.6%、「保健所・保健センター」6.3%などとなっている。

(9) 関係機関への相談意向 [問 12]

問 12 現在のその方の状態について、関係機関に相談したいと思いますか。(○はひとつだけ)

【図表 2-9 関係機関への相談意向】



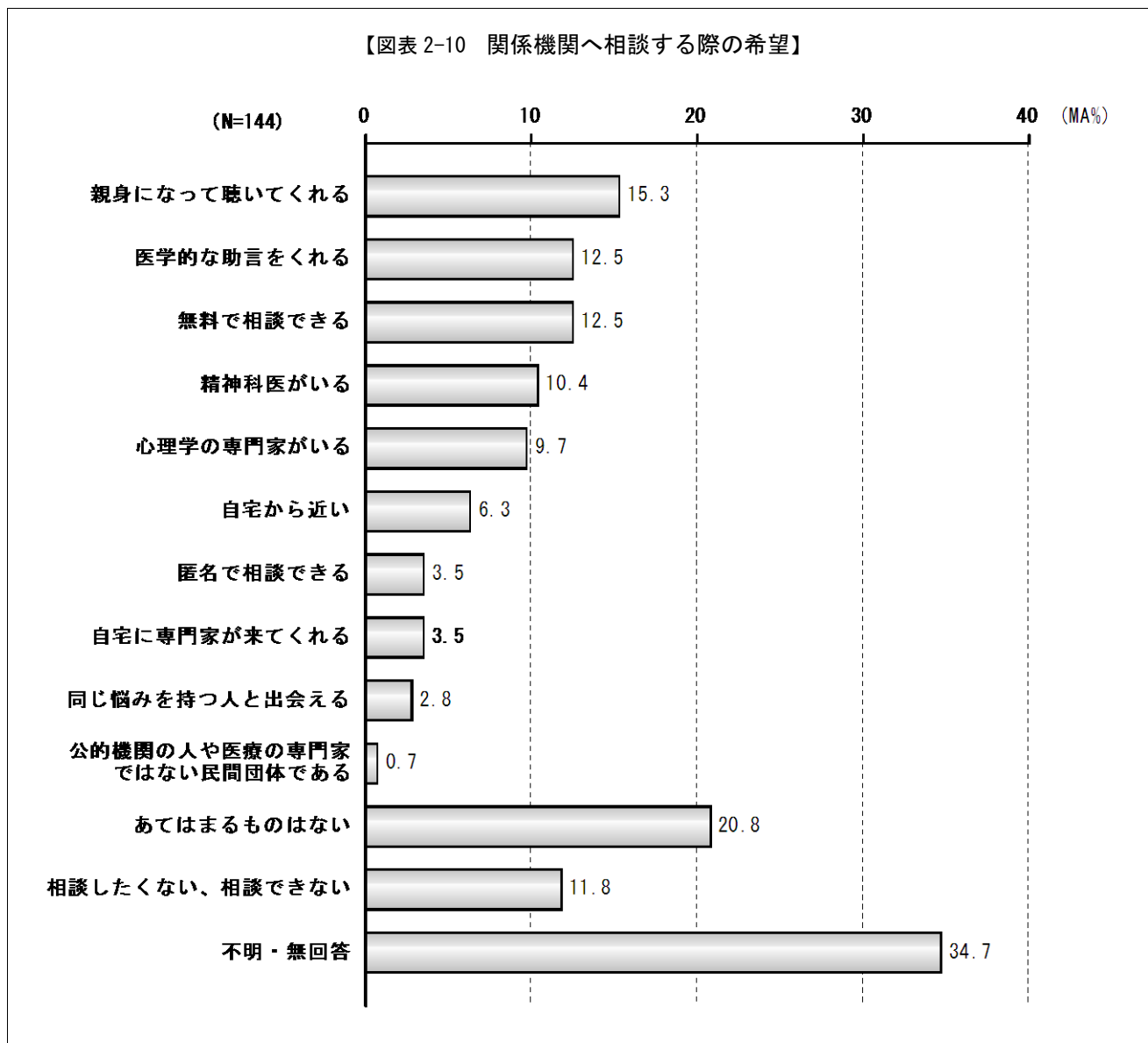
ほとんど外出しない状況が続いている方の状態について、関係機関に相談したいと思うかたずねたところ、「あまり思わない」が28.5%と最も多く、次いで多い「まったく思わない」(21.5%)を合わせると、全体の半数(50.0%)を占める。

(10) 関係機関へ相談する際の希望及び相談したくない理由

① 関係機関へ相談する際の希望 [問 13]

問 13 現在のその方の状態について、どのような機関なら、相談したいと思いますか。

(○はいくつでも)



ほとんど外出しない状況が続いている方の状態について、どのような機関であれば相談したいと思うかたずねたところ、「親身になって聴いてくれる」が 15.3%と多く、次いで「医学的な助言をくれる」、「無料で相談できる」がともに 12.5%、「精神科医がいる」10.4%などとなっている。

一方、「あてはまるものはない」が2割強 (20.8%)、「相談したくない、相談できない」が1割強 (11.8%) みられる。

② 相談したくない理由（できないと思う理由）[付問 13]

【問 13 で「12. 相談したくない、相談できない」に○を付けた方に】

付問 13 相談したくない、できないと思う理由は何ですか。（○はいくつでも）

【図表 2-11 相談したくない理由】

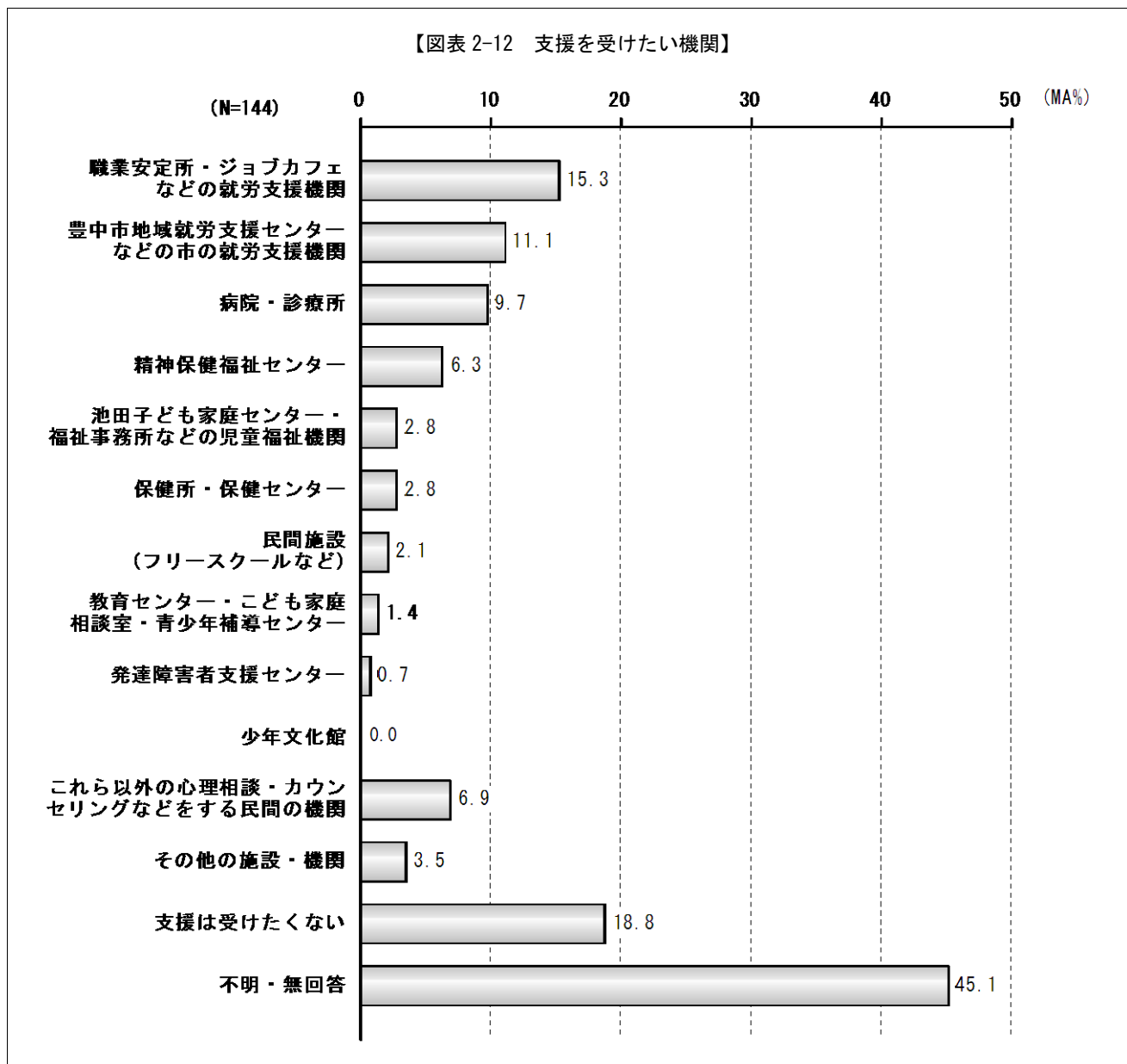
調査数	相談に行っても解決できないと思う	本人が反対すると思う	どのような相談機関があるかわからない	家族が反対すると思う	周囲の目が気にならない、人に知られたくない	費用が高い	時間がかかる	過去のいやな思いをし	何をきかれるか不安に思う	相手にうまく話せないと思う	相談機関が近くにない	多忙で行けない	その他
17 100.0	7 41.2	7 41.2	2 11.8	1 5.9	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	6 35.3

ほとんど外出しない状況が続いている方の状態について、関係機関へは“相談したくない、相談できない”と回答した人（17人）にその理由をたずねたところ、「相談に行っても解決できないと思う」、「本人が反対すると思う」がともに41.2%（7人）と最も多くなっている。

(11) 関係機関からの支援に対する希望

① 支援を受けたい機関 [問 14]

問 14 次のような機関などから、なんらかの支援を受けたいと思いますか。(〇はいくつでも)

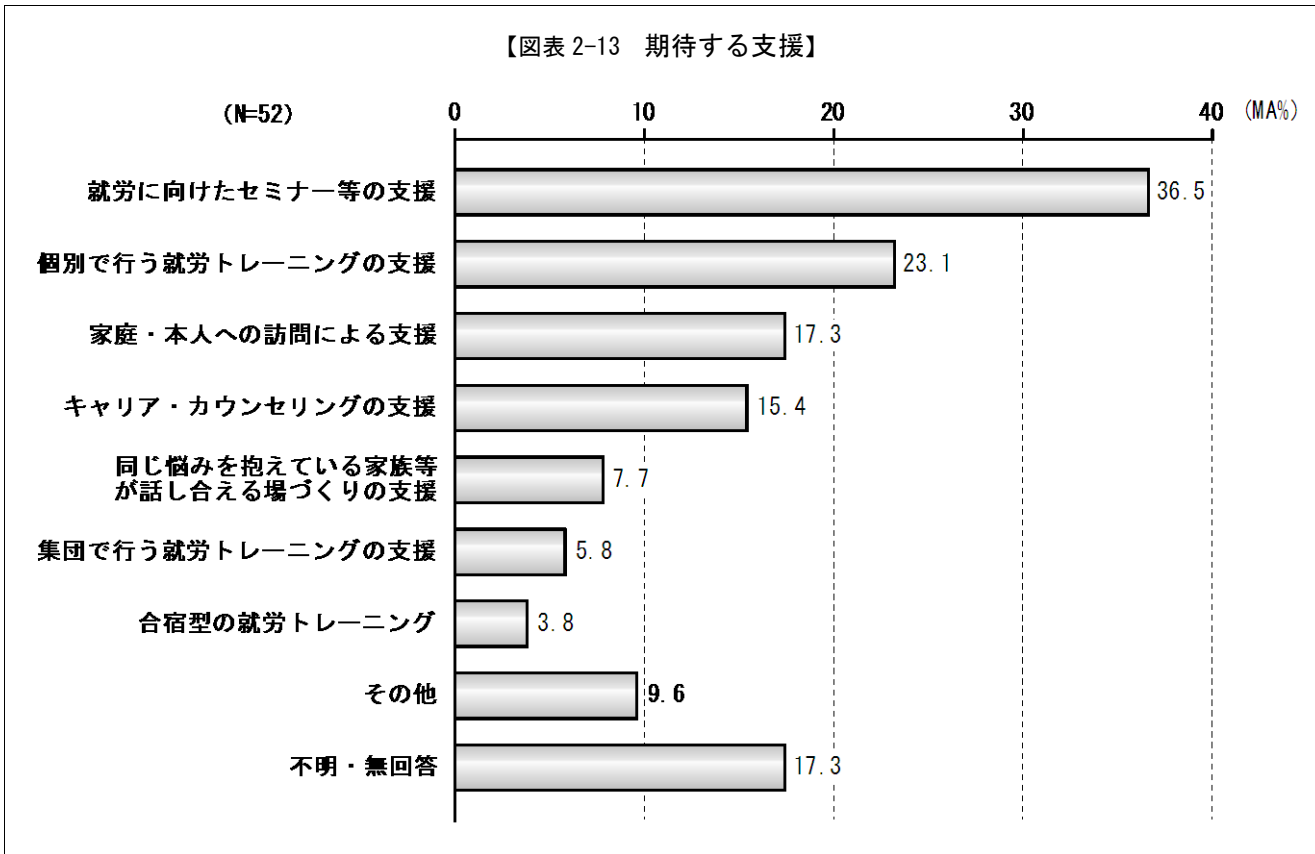


なんらかの支援を受けたいと思う機関をたずねたところ、「職業安定所・ジョブカフェなどの就労支援機関」が15.3%と多く、次いで「豊中市地域就労支援センターなどの市の就労支援機関」11.1%、「病院・診療所」9.7%などとなっている。

一方、「支援は受けたくない」が2割弱（18.8%）みられる。

② 期待する支援 [付問 14]

【問 14 で「1」から「12」のいずれかに○を付けた方に】
 付問 14 どのような支援を期待されますか。(○はいくつでも)



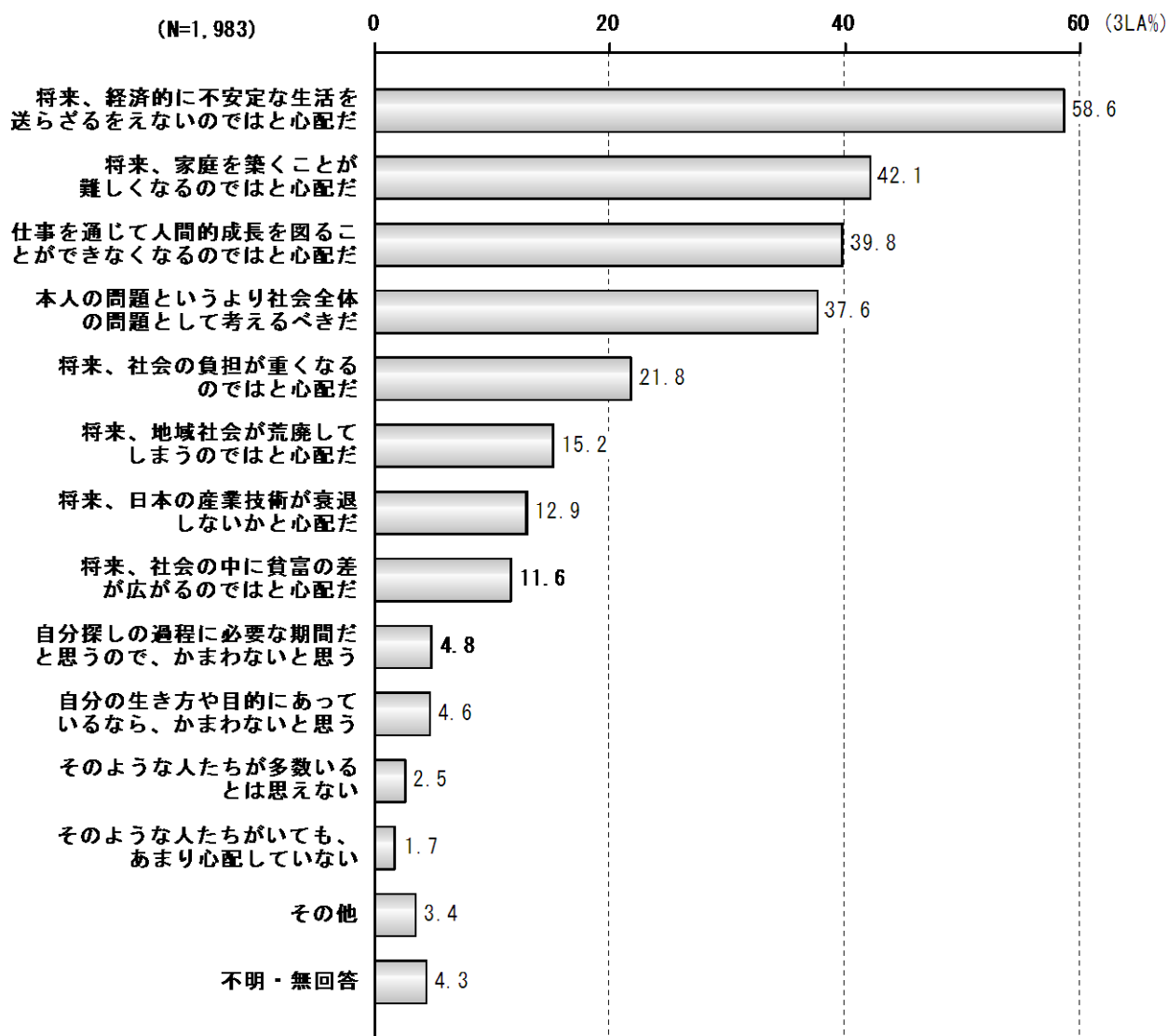
いずれかの機関から支援を受けたいという人に、具体的に期待する支援をたずねたところ、「就労に向けたセミナー等の支援」が 36.5%と最も多く、次いで「個別で行う就労トレーニングの支援」23.1%、「家庭・本人への訪問による支援」17.3%などとなっている。

3. 若者の自立意識などについて

(1) 求職活動等をしない若者が多数いることに対する考え [問 15]

問 15 現在、学校に通うことも働くこともせず、また求職活動もしていない若い人たちが多数いることについて、あなたはどのように思いますか。(〇は3つまで)

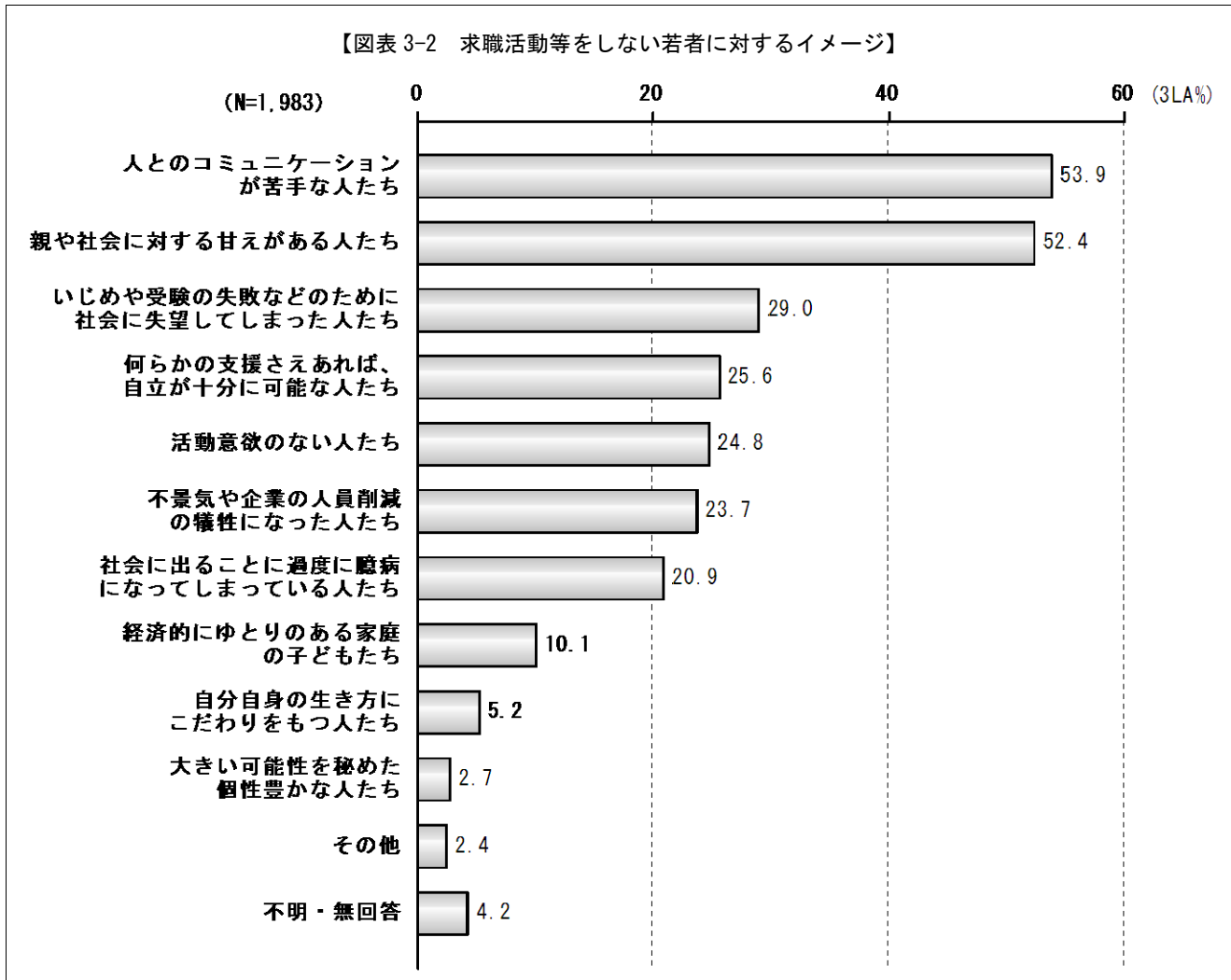
【図表 3-1 求職活動等をしない若者が多数いることに対する考え】



学校に通うことも働くこともせず、また求職活動もしていない若い人たちが多数いることについてどのように思うかたずねたところ、「将来、経済的に不安定な生活を送らざるをえないのではと心配だ」が58.6%と最も多く、次いで「将来、家庭を築くことが難しくなるのではと心配だ」42.1%、「仕事を通じて人間的成長を図ることができなくなるのではと心配だ」39.8%、「本人の問題というより社会全体の問題として考えるべきだ」37.6%などとなっている。

(2) 求職活動等をしない若者に対するイメージ [問 16]

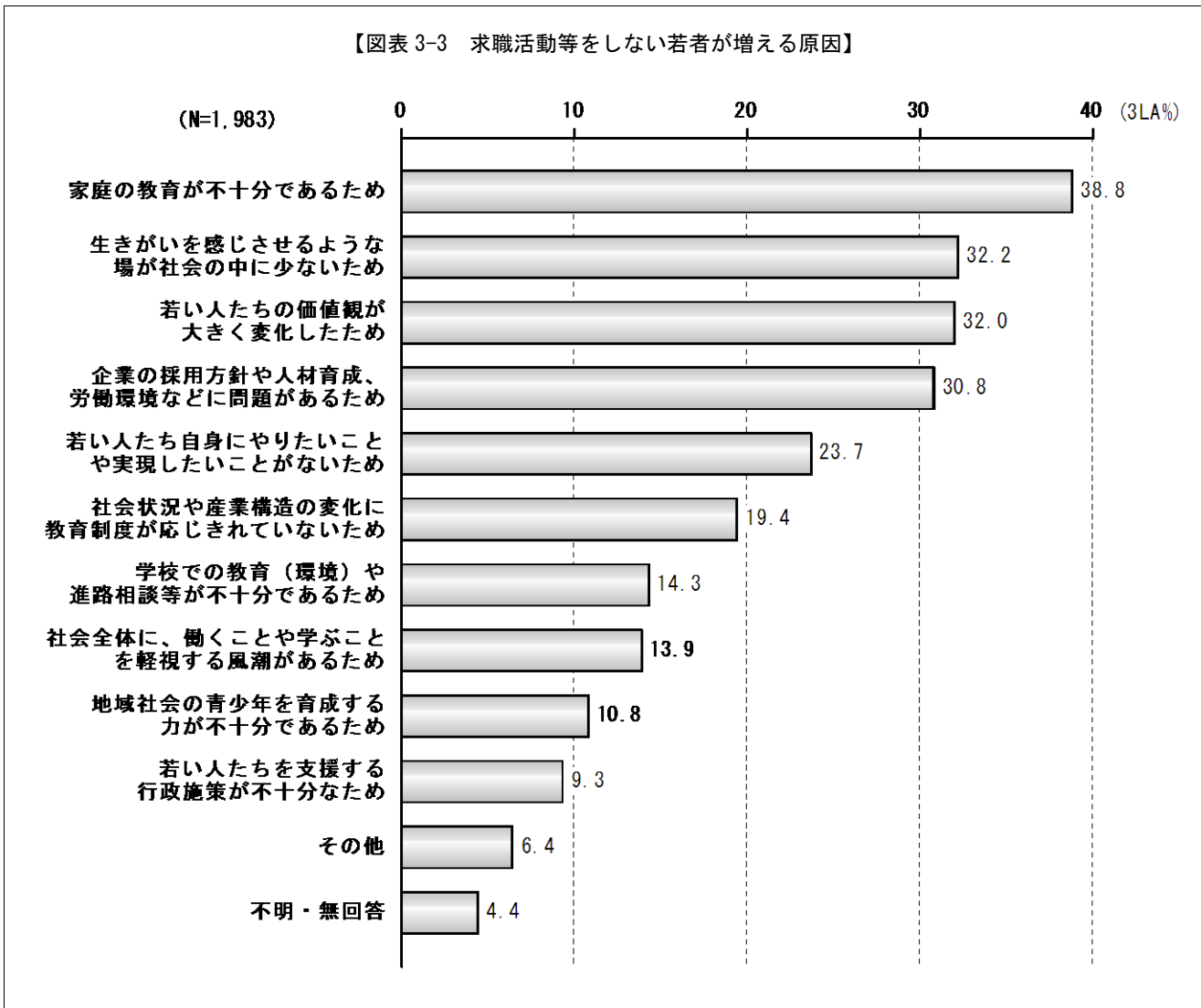
問 16 学ぶことも、働くこともしない若い人たちに対して、あなたはどのようなイメージを持ちますか。(〇は3つまで)



学ぶことも、働くこともしない若い人たちに対して、どのようなイメージを持っているかたずねたところ、「人とのコミュニケーションが苦手な人たち」が53.9%、「親や社会に対する甘えがある人たち」が52.4%と、ともに過半数と多くなっている。

(3) 求職活動等をしない若者が増える原因 [問 17]

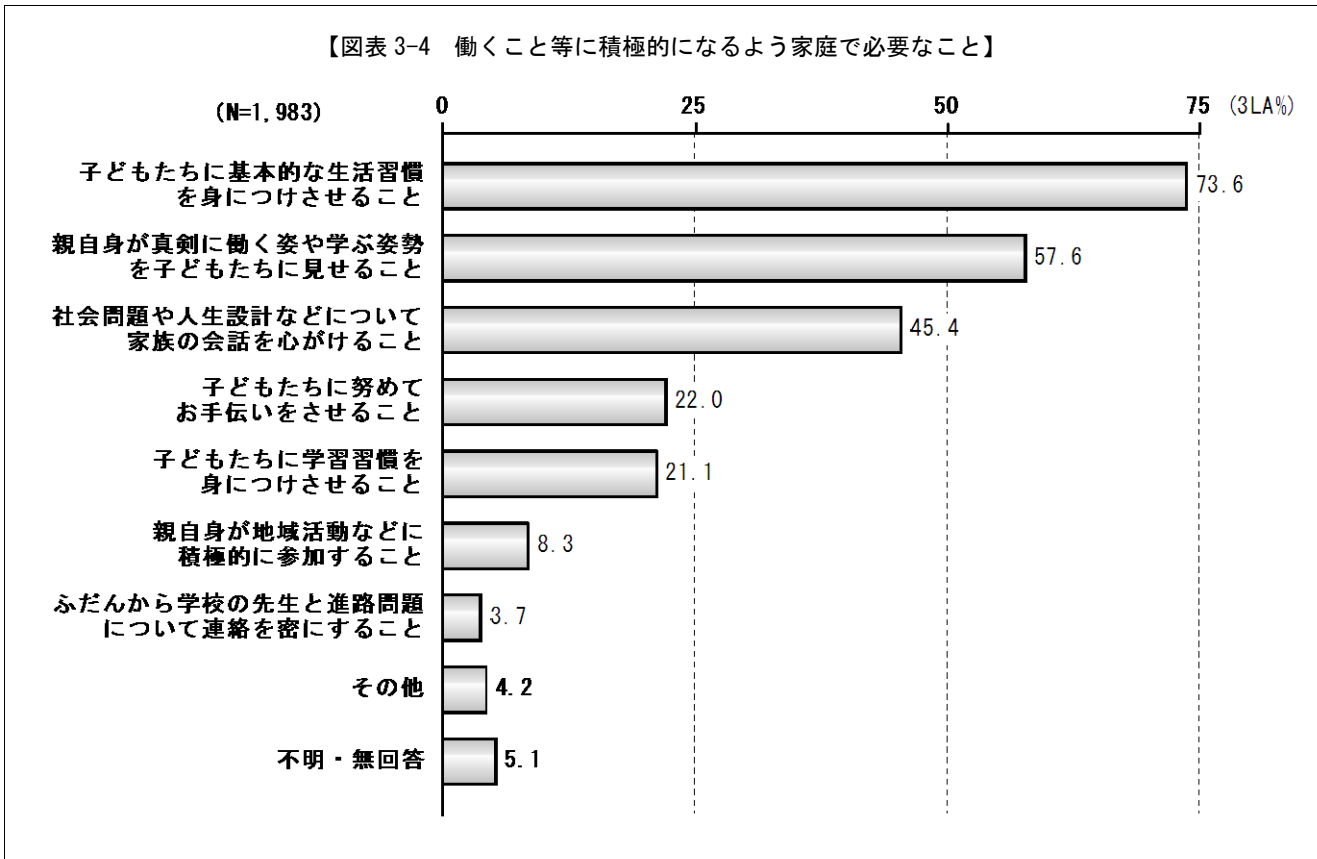
問 17 学ぶことも、働くこともしない若い人たちが増えるのは、なぜだと思いますか。(〇は3つまで)



学ぶことも働くこともしない若い人たちが増えるのはなぜだと思うかたずねたところ、「家庭の教育が不十分であるため」が38.8%と最も多く、次いで「生きがいを感じさせるような場が社会の中に少ないため」32.2%、「若い人たちの価値観が大きく変化したため」32.0%、「企業の採用方針や人材育成、労働環境などに問題があるため」30.8%などが3割台となっている。

(4) 働くこと等に積極的になるよう家庭で必要なこと [問18]

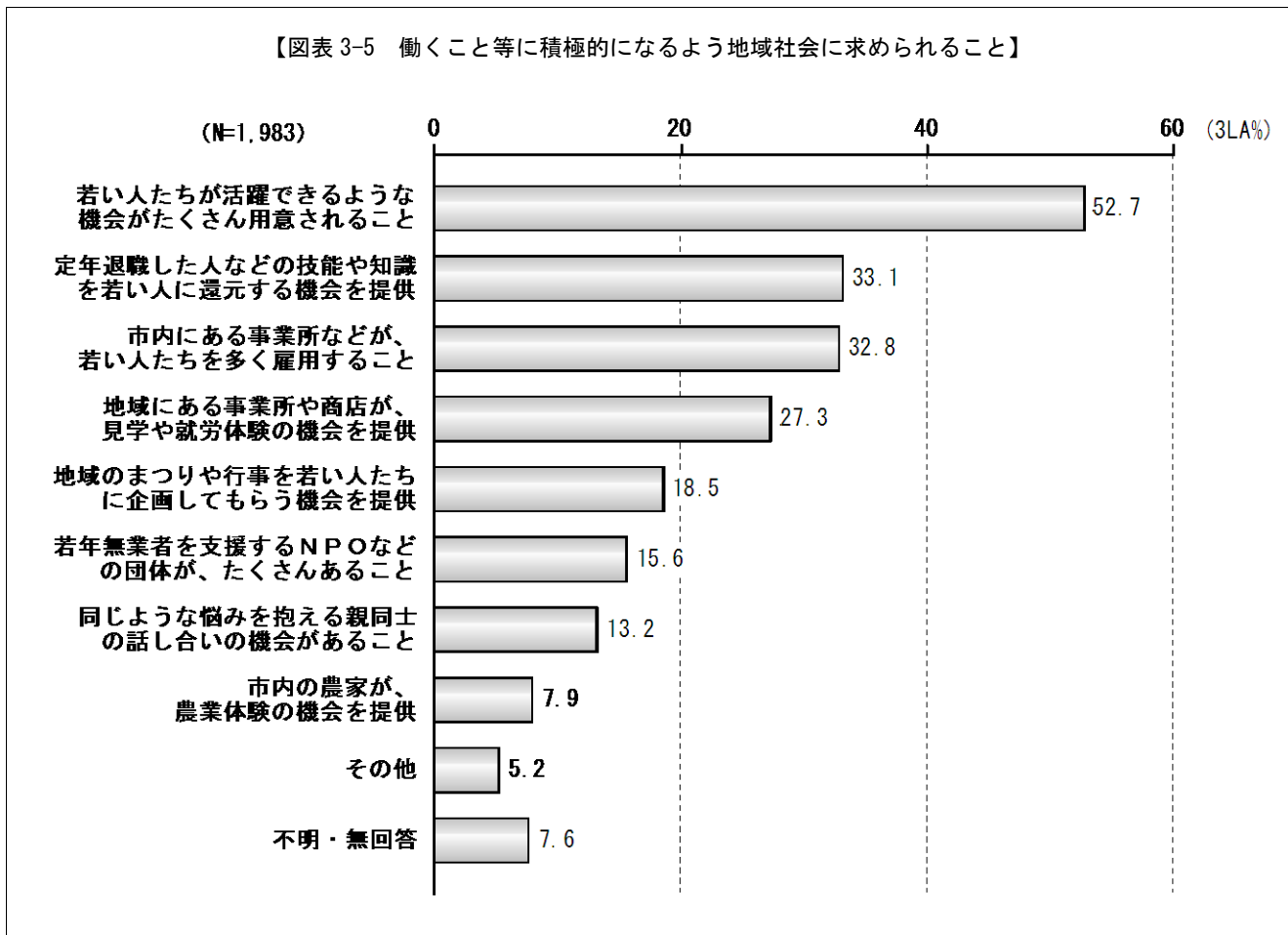
問18 子どもたちが、学ぶことや働くことに積極的になるために、家庭ではどのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)



子どもたちが学ぶことや働くことに積極的になるために家庭で必要なことをたずねたところ、「子どもたちに基本的な生活習慣を身につけさせること」が73.6%と最も多く、次いで「親自身が真剣に働く姿や学ぶ姿勢を子どもたちに見せること」57.6%、「社会問題や人生設計などについて家族の会話を心がけること」45.4%などとなっている。

(5) 働くこと等に積極的になるよう地域社会に求められること [問 19]

問 19 若い人たちが、学ぶことや働くことに積極的になるために、地域社会にはどのようなことが求められると思いますか。(〇は3つまで)

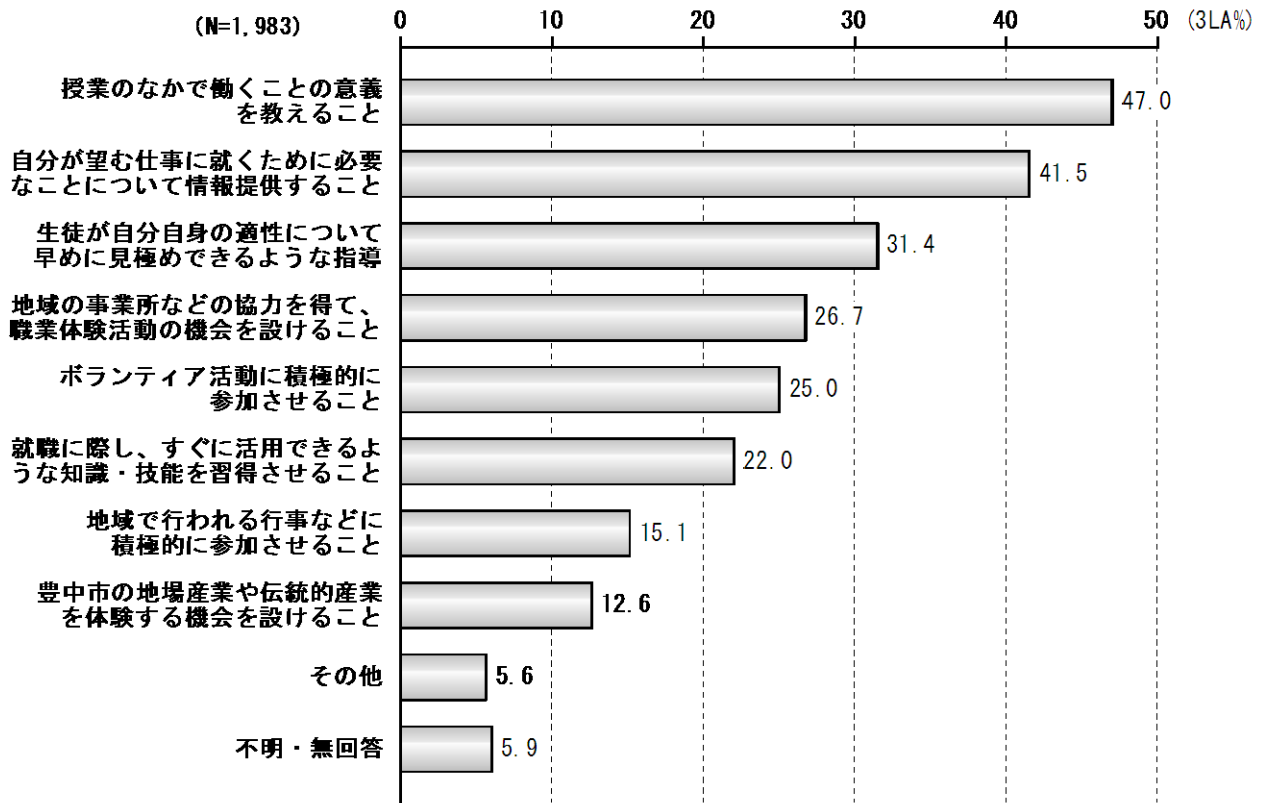


若い人たちが学ぶことや働くことに積極的になるために地域社会に求められることをたずねたところ、「若い人たちが活躍できるような機会がたくさん用意されること」が 52.7%と最も多く、次いで「定年退職した人などの技能や知識を若い人に還元する機会を提供」33.1%、「市内にある事業所などが、若い人たちを多く雇用すること」32.8%などとなっている。

(6) 働くこと等に積極的になるよう学校に求められること [問 20]

問 20 児童・生徒が、学ぶことや働くことに積極的になるために、学校ではどのようなことをすべきだと思いますか。(〇は3つまで)

【図表 3-6 働くこと等に積極的になるよう学校に求められること】



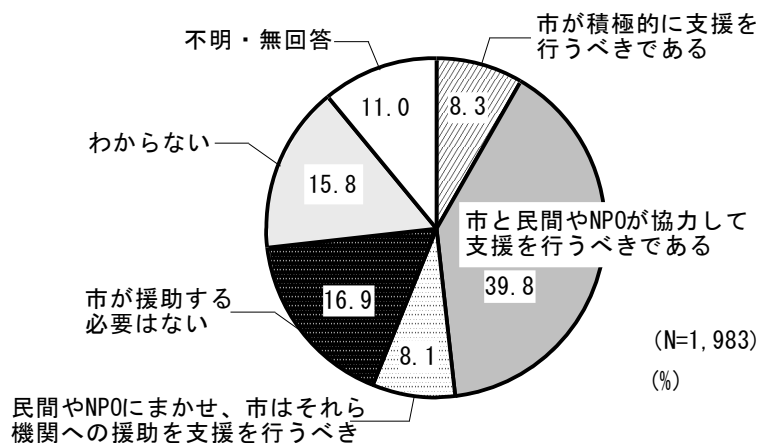
児童・生徒が学ぶことや働くことに積極的になるために学校ですべきことをたずねたところ、「授業のなかで働くことの意義を教えること」が 47.0%と最も多く、次いで「自分が望む仕事に就くために必要なことについて情報提供すること」41.5%、「生徒が自分自身の適性について早めに見極めできるような指導」31.4%などとなっている。

(7) 市の支援に対する考え

① 市がニートへの支援を行うことに対する考え [問 21]

問 21 市が「ニート」への支援を行うことについて、どのように思いますか。(ニートは、学校に通学せず、独身で、収入を伴う仕事をしていない15～34歳の個人<内閣府：「青少年の就労に関する研究会」より>) (最も近い考え方1つに○)

【図表 3-7 市がニートへの支援を行うことに対する考え】



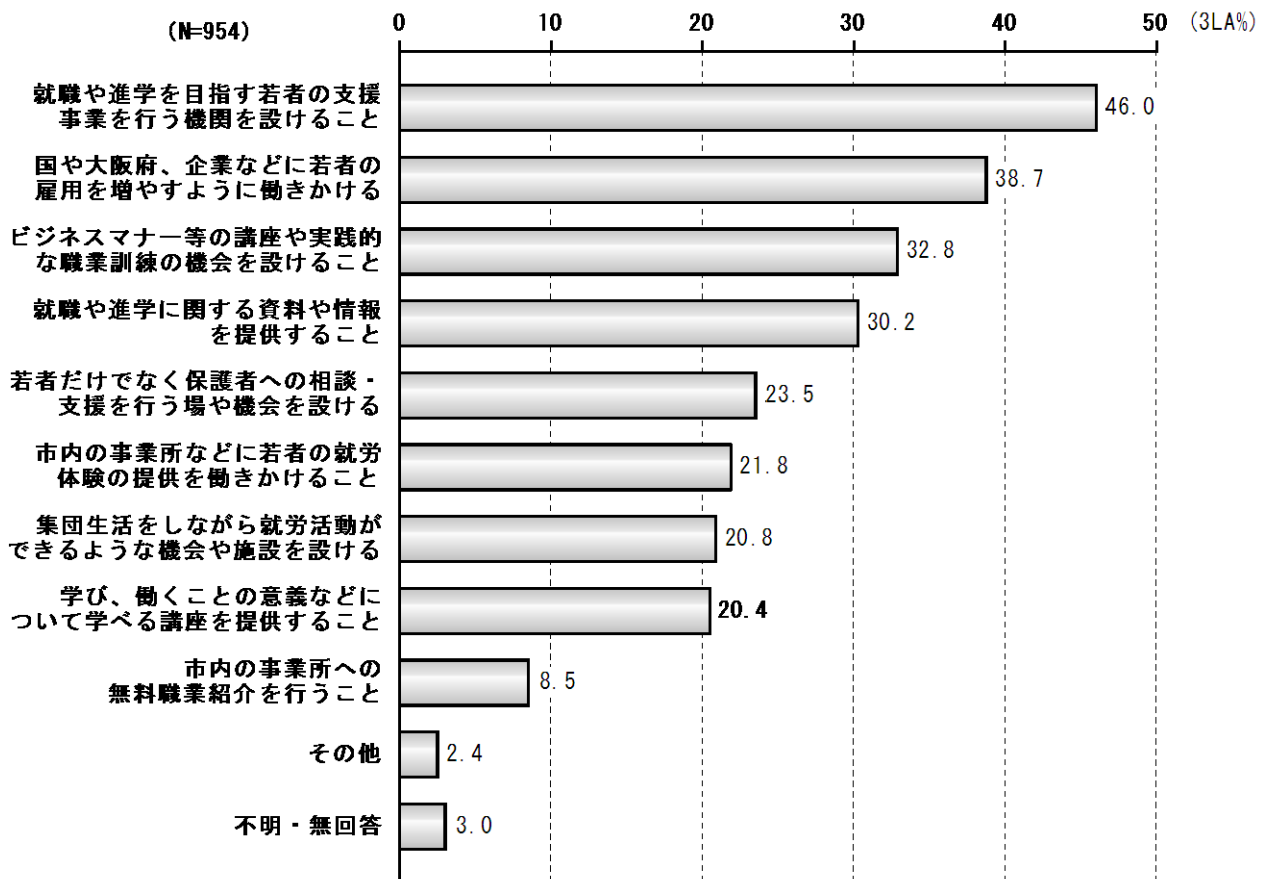
市が「ニート」への支援を行うことについてどのように思うかたずねたところ、「市と民間やNPOが協力して支援を行うべきである」が全体の約4割（39.8%）を占めており、次いで「市が援助する必要はない」16.9%などとなっている。

② 就労意欲等をもつ若者育成のために市が取り組むべきこと [付問 21]

【問 21 で「1. 市が積極的に支援を行うべきである」、「2. 市と民間やNPOが協力して支援を行うべきである」のいずれかに○を付けた方に】

付問 21 学ぶことや働くことに意欲をもつ若い人たちを育成するために、市ではどのようなことに取り組むべきだと思いますか。(○は3つまで)

【図表 3-8 就労意欲等をもつ若者育成のために市が取り組むべきこと】



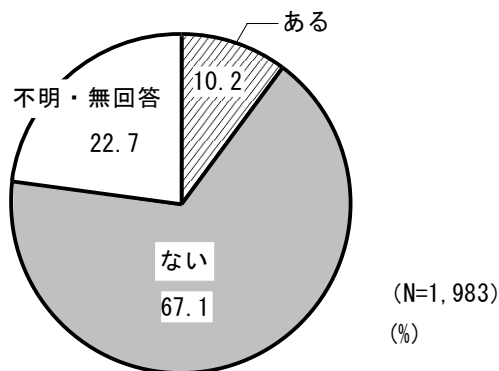
ニートに対する支援を市として比較的積極的に行うべきと考えている人に、学ぶことや働くことに意欲をもつ若い人たちを育成するために、市としてどのようなことに取り組むべきだと思うかたずねたところ、「就職や進学を目指す若者の支援事業を行う機関を設けること」が46.0%と最も多く、次いで「国や大阪府、企業などに若者の雇用を増やすように働きかける」38.7%、「ビジネスマナー等の講座や実践的な職業訓練の機会を設けること」32.8%、「就職や進学に関する資料や情報を提供すること」30.2%などとなっている。

(8) 学ぶことや働くことの面白さや大切さを伝えるために自身ができる活動

① 働くこと等の大切さを伝えるために自身ができる活動の有無 [問 22]

問 22 学ぶことや働くことの面白さや大切さを、若い人たちに伝えるために、あなた自身ができるような活動がありますか。

【図表 3-9 働くこと等の大切さを伝えるために自身ができる活動の有無】



学ぶことや働くことの面白さや大切さを若い人たちに伝えるために、自身ができるような活動が「ある」と回答した人は全体の約1割（10.2%）となっている。

② 働くこと等の大切さを伝えるために自身ができる活動の内容 [付問 22]

【問 22 で、「1. ある」に○を付けた方に】

付問 22 それはどのような活動ですか。具体的にお書きください。

【図表 3-10 働くこと等の大切さを伝えるために自身ができる活動の内容】

内 容 (N=194)	件数
体験談を話す	37
ボランティア、地域活動などの参加	33
意見交換などの話し合いや交流	21
労働や学習の意義を伝える	20
職場体験や見学	17
家庭内における会話や教育	16
経験に基づいた知識や技術の活用	11
人間として基本的な事を教える	11
働く姿を見せる	9
相談にのる	8
生きることの楽しさを伝える	7
講演・講演活動	6
教養講座、語学講習会など	6
当人を支える人に対するサポート	5
自然と触れ合う計画をたてる	3
共に行動し、学習する	2
機会を市に準備・斡旋してもらう	2
何をすれば良いか思いつかないが、手伝いたい	2
聖書教育活動	1
学校と社会とのパイプ役	1
朝起会への参加	1
社会経験のある教師を委託する	1
甘えているだけなので、支援しない	1
その他	1
合 計	222

4. 自由意見

(1) 若者に対して伝えたいこと

■若者について	件数
甘えた考えが多い。甘やかすな	29
夢、目標、目的をもって生きてほしい	27
努力すること	26
いろいろなことに挑戦してほしい	22
大人としての自覚・責任(社会的道徳・マナー、挨拶)	19
あきらめないこと	15
親をいつまでもあてにできないことを自覚してほしい	14
ニートへの意見(親元にいることの甘え等)	13
失敗を恐れなくて	13
一人で悩まず周りに相談することが大切	12
何事にも前向きにがんばってほしい	11
自己中心的で他人に対する配慮、優しさ等に欠けた人が多い	10
将来について自ら考えること	9
人と関わりをもってほしい	8
自分が何のために世の中に生を成したのか考えてほしい	8
頑張ること	7
何でもよいので一生懸命に打ち込むこと	6
親や学校や社会のせいにしない	6
今生かされている時間の大切さを知ってほしい	6
進んで苦勞して、悩んでこそ、自分の人生が大きく開かれる	6
将来のために、資格、技能、技術等を身につけてほしい	6
自分の行動に責任をもち、人のせいにしない	6
コミュニケーションが大切	5
日本だけでなく海外にも目を向けてほしい	5
人の役に立つことが生きるということ	5
親が動けなくなるまでに、日常生活は自分でできるようになってほしい	5
逃げずに立ち向かってほしい	5
自分自身を大切にしてほしい	5
親や先輩などを敬う気持ちを持つこと	5
自分がやるべき事を考えて行動してほしい	4
辛抱が肝心	4
積極的な行動力をもつように	4
お金のためでなく希望のために生きる	4
感謝の気持ちが少ない、誰に感謝すべきかを考える	4
実体験の大切さを伝えたい	4
将来の日本は我々が背負って立つんだという気概を常に持ってほしい	4
ハングリー精神がない	4
物がありすぎて自分のやりたいことがわかりにくく働く力もわからないのではないかと	4
自分の意見をはっきり言える、表現できるようになってほしい	4
意欲のある人とない人の差がありすぎる、物事に対して意欲をもってほしい	4
明るく生きる努力をすること	4
精神力をつけてほしい	3
立ち直る強さを身につけてほしい	3
人生を無駄にしないでほしい	3
自分で考え、自分の足で行動し、自分の家庭をつくってほしい	3

■若者について（続き）	件数
恐れず一歩踏み出してほしい	3
生きるということは楽しい	3
一人では生きられない	3
何もせず無駄に時間を過ごすのはすごく損をしている	3
自分の知っている若者たちはみんな頑張っている	3
若者が積極的に意見したり、参加したりする場の提供	3
やりたいことを早めに見つけること	3
将来よりも今できることをしっかりやる	3
たくさん読書をしているいろんなことに興味をもってほしい	3
社会全体の中での自分の立場を理解させる	3
危機感をもつ	2
生きることのすばらしさを知ってほしい	2
この世に何かを残さなければもったいないと思ってほしい	2
人の話をよく聞くこと	2
全てを楽しみ、そのためにしなければならぬ責任を知ってもらいたい	2
今までの若者に比べ恵まれている	2
人生は何度でもやり直しが可能だ	2
自分のため、社会のために気概をもって生活してほしい	2
動けば必ず何かが変わる	2
人に迷惑をかけないこと	2
相手の立場になって物事を考えられるようになってほしい	2
自分のやりたいことを見つける時間をもってほしい	2
自分自身とまわりの人のことをもっと真剣に考えてほしい	2
必ずチャンスがあることを信じて自分自身を鍛えておいてほしい	2
人の評価を気にせず、自分に自信をもつ	2
こつこつとまじめに努力し続けることで、仕事や勉強、好きなことにつながる	2
仕事や専門能力を身につけ、人の役に立てる自分になれることに喜びを感じてほしい	2
どんな小さなことであれ、まず取りかかってみること	2
社会のために、将来の自分のためにと思えないか	2
忍耐力をつける	2
少しの楽しみのために我慢することも必要	2
自分だけがよければいいという考えを捨てる	2
勇気をもって対処してほしい	2
自分のやりたいこと、学びたいことを明確にし、それに向かって進む	2
嫌なことがあっても、いいことは必ずある	2
室内より室外での活動	2
今の社会の状況等について興味をもってほしい	2
その他	94
小計	550

■仕事について	件数
自ら働いて糧を得ること、自立することが大事	28
どんな職場でもベストを尽くすこと、自分好みの仕事でなくても働いてみることに とにかく働くこと	25
いろいろな仕事や体験をして興味をもったものを見つけてほしい	13
仕事を選び好みしないこと	11
働かざるもの、食うべからず	9
中小企業にも目を向けてほしい	7

■仕事について (続き)	件数
働くことの楽しさを知ってほしい	7
気持ちを前向きに頑張ってもらいたい	5
自分にあった仕事はいつか見つかる	5
生きていくために働くこと	5
学び汗を流さなければ達成感は得られない	4
就職難の時代だが頑張ってもらいたい	4
働くことの大切さを伝えたい	4
働くことに意義を見い出す、理解する	4
働くことで社会貢献することの重要性を伝えたい	3
仕事をしながら人間関係をつくっていかねば、生きていくことは難しい	3
学校や家でもっと仕事について話す機会を増やすべき	2
楽な仕事などないということ	2
苦勞してこそ仕事のおもしろさや大切さを感じられる	2
汗を流して汚れてする仕事も面白いこともあるし、やりがいもある	2
遠回りをしても自分の求める職場を見つけてほしい	2
先輩や他人の言動や物事をすなおに受け止め、辛抱強く仕事をする人は成長も早い	2
人生のうち、精神も体力も充実し、目標に向かって努力できるのは若い時代だけ	2
何事にもやる気、勇気、本気で取り組んでほしい	2
その他	27
小計	180

■親について	件数
若者をそうさせた親や地域、教育に問題がある	20
親が手本になるべき	4
子どもに対するしつけや、しっかり子育てすることが大切	4
親も子どもに社会人として教育すべき	3
親も子離れする努力が大切	3
その他	2
小計	36

■教育について	件数
働くことの重要性を認識させる教育	4
教員の資質	3
人生設計が立てられるよう、学校での教育を行ってほしい	2
ゆとり教育の被害者といえる	2
その他	13
小計	25

■社会について	件数
生まれた時勢に同情する	2
夢に向かって頑張ってもらいたい	2
テレビ等の内容のひどさ、ネット、テレビの害から身を守ること	2
その他	14
小計	20

■行政について		件数
若者に対して市の行事、ボランティア等への積極的な参加促進		3
若者の手本をまず政治家が示せ		2
生活保護受給者への批判（健康なのに働かない等）		2
その他		4
小計		11
■その他		件数
七転び八起き		2
人生は短い		2
その他		7
小計		11
合 計		834

(2) 豊中市の若者の雇用・就労支援施策について

■雇用・就労支援施策について		件数
市がどのような施策をしているかわからない（アピールすべき。広報不足）		67
若者の雇用促進、雇用の場の確保		65
支援は必要ない。税金の無駄遣い。本人の自覚が肝心		13
若者が相談しやすい窓口を増やす		11
国・府をあげての政策を考えるべき		9
ニートへの就労支援		8
格安で資格がとれる講座、就職に役立つ講座等の実施		8
企業誘致や地場産業に力を入れる		7
市内全域にユースハローワークがあればいい、ハローワークがほしい、ハローワークを活用		7
就業体験の実施		6
市内事業所に対し雇用支援、補助金支給を最優先で行う		6
定年退職者を活用		6
職業訓練の利用促進		5
中小企業を知ってもらう工夫、中小企業への雇用促進		5
働く気がある人のみ支援すべき		5
企業合同セミナー、説明会等の開催		4
パート・アルバイトからの正社員の登用		4
市内、近隣市の事業所とのかけはし役に期待		3
地域就労支援センターの利用促進		3
若者を市で就労させる		3
就職ができず、しかたなくアルバイトをしている。就職活動がうまくいかず困っている		3
働いて得る喜び、達成感を感じるチャンスを		2
若年者以外の雇用就労施策も大事にしてほしい		2
自衛隊に体験入隊させて国家観、人生観を体得させる		2
若者にスポーツやいろいろな遊びを教えて世の中の楽しさを感じさせる		2
座談会等で体験を語り、甘い仕事ばかりでないことを知ってもらう		2
福祉関係の従業者の賃金を上げるべき		2
若者のニーズにあった研修対応		2

■雇用・就労支援施策について (続き)	件数
求人情報を集めたHPをつくる	2
コストをかけずに	2
不登校・ひきこもり対策 (集える機会、外に連れ出す等)	2
市の施策にも限界がある	2
畑仕事をさせるとか、何か取り組ませたい	2
頑張してほしい	2
学歴に左右されない就労条件	2
障がいをもった若者の支援が必要	2
行政だけでなく、民間団体やNPO、事業者と協議し、進めてほしい	2
生活保護の必要がない人を早く自立させるよう努力すべき	2
内需拡大が重要であることを教育	2
就職情報誌等の募集内容と面接での説明が違って戸惑う	2
若い人材の育成の充実	2
今の異常な就活を早く正常な形にしてほしい	2
高齢者介護を通して若者の就労を増やす施策	2
箱モノ支援にならないように	2
働きたくない人より働いている人を支援してほしい	2
人員削減をすることなく、新規採用を増やすこと	2
その他	82
小計	380

■教育について	件数
小中高校生に働くことの大切さを教える	11
教育を根本から考え直すべき	11
教師のサラリーマン化。教職員のレベルを上げる	2
義務教育の充実	2
運動会での手をつないで走ることは平等とはいえない。競うことも大事	2
いい大人が若者のやる気をねじ伏せてしまうのは納得いかない	2
その他	10
小計	40

■市について	件数
アンケートについての意見	14
市職員への意見 (待遇、人数、対応等)	8
アンケート結果が知りたい	2
市役所の窓口担当に若者が少ない、若い職員が少ない	2
その他	11
小計	37

■家庭について	件数
親が子を甘やかすすぎ	2
小さい頃の道徳教育や小さい子どもをもつ親の教育が必要	2
その他	3
小計	7

合 計	464
-----	-----

平成 23 (2011) 年 7 月

「若者等の自立・就労実態調査」報告書

担 当 市民協働部くらしセンター雇用労働課
住 所 豊中市北桜塚2-2-1 (くらしかん内)
電 話 06-6858-6863
ファックス 06-6858-5095